

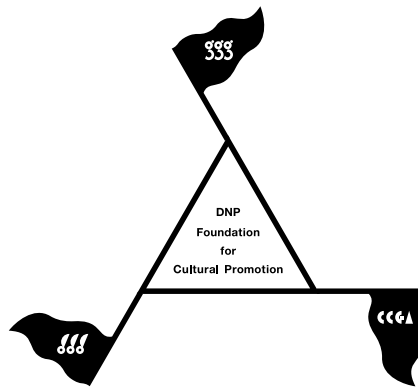
Graphic Art & Design Annual



2020

DNP Foundation for Cultural Promotion

Graphic Art & Design Annual



2020

[表紙デザイン]

一切の説明をしないで40年前に描いた絵を投げ出して、一言「今の風を吹かせて欲しい」と田中さんをお願いしました。
絵からインスパイアされた反応をそのまま重ねることで「1980年代と現在を結ぶ」試みです。
文化が花咲いていた時代から混沌とした現在にバトンを渡し何が見えてくるか楽しみにしていたのですが、
二人の感情が混ざり合って、新たな一体化した世界が生まれました。

石岡 怜子

ビジュアルが持っている当時の熱量に思いを馳せながら、どのようにその熱量を自分なりに表現できるかがテーマだった。
コラボレーションワークは、いつも大変なものを引き受けてしまったと途方にくれる瞬間があるけど、
いつの間にか完成している。振り返ってみると、考えたり手を動かした時間は充実していて、
言葉を交わさなくても色々なことを相手から学ぶことができる。それがこの職業の面白さだと思う。

田中 良治

[Cover Design]

Without offering any explanation whatsoever, I thrust an illustration drawn 40 years ago in front of Tanaka-san and just said, "Please give it a contemporary touch."
By adding a layer inspired by his reaction to the original, I attempted to form a link between the 1980s and today.
I looked forward to seeing what might come from connecting those days of cultural flourishing with the turbulent present.
The result, a mixture of two artists' emotions, was a newborn unified world.

Ryoko Ishioka

The task presented to me was to ponder how, while thinking of the passion infused into the original work, to express that passion in my own way. Whenever I collaborate on a work, there's always a moment when I reach my wits' end and realize what a difficult job I've taken on. But somehow, before I know it, the work always gets completed. In retrospect, the time I spend thinking and doing my handiwork is fulfilling, and even without exchanging words, I always learn things from my collaborator. That's what makes this job so interesting.

Ryoji Tanaka

Graphic Art & Design Annual 2020 ggg ddd CCGA

Publication: DNP Foundation for Cultural Promotion
DNP Ginza Building, 7-7-2 Ginza,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061
Phone: +81 3 5568 8224
Planning & Editing: DNP Foundation for Cultural Promotion
Art Direction: Shin Matsunaga
Design: Shinjiro Matsunaga, Moemi Kiyokawa
Cover Design: Ryoko Ishioka + Ryoji Tanaka
Photography: Mitsumasa Fujitsuka (ggg), Akihito Yoshida (ddd)
Translation: Rei Muroji
Printing & Binding: Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Contents

目次

はじめに	5
北島 義俊 (公益財団法人DNP文化振興財団理事長)	

序文:

個人的な体験としてのggg35年	6
服部 一成 (グラフィックデザイナー)	

1 展示事業	11
ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) 2020-21	12
京都dddギャラリー (ddd) 2020-21	22
CCGA 現代グラフィックアートセンター 2020-21	30

2 教育・普及事業	39
ggg, dddギャラリートーク	40
CCGA 版画工房ワークショップ	44
出版活動 2020-21	45

3 アーカイブ事業	47
DNP グラフィックデザイン・アーカイブ	48

4 国際交流事業	53
企画展	
「日本: デッサンとデザイン 明治の挿絵本から現代美術としてのポスターまで」 共同企画	
イタリア ヴァレーゼ市マサナゴ城現代美術館	54
「日本のスポーツポスター」に関するオンライン講演会	56

5 研究助成事業	57
グラフィック文化に関する学術研究助成	58

展覧会概要 2020-21	61
展覧会一覧 1986-2021	64
ギャラリー概要	74

Foreword	5
Yoshitoshi Kitajima (Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion)	

Introduction:

35 Years of ggg: My Personal Experience	6
Kazunari Hattori (Graphic Designer)	

1 Exhibitions	11
ginza graphic gallery (ggg) 2020-21	12
kyoto ddd gallery (ddd) 2020-21	22
Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) 2020-21	30

2 Education & Enlightenment	39
ggg, ddd Gallery Talk	40
CCGA Print Studio Workshops	44
Publications 2020-21	45

3 Archiving	47
DNP Graphic Design Archives	48

4 International Exchange	53
Joint Planning	
"Giappone: Disegno e Design. Dai libri illustrati Meiji ai manifesti d'art contemporanea"	
Exhibition at Castello di Masnago, Musei Civici di Varese, Italy	54
Online Talk on Japanese Sports Posters	56

5 Research Grants	57
Graphic Culture Research Grants	58

Review of ggg, ddd and CCGA 2020-21	61
List of Exhibitions 1986-2021	64
Galleries' General Information	74

Foreword

はじめに

今年3月、ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) は、開設35周年を迎えました。これも皆様のご愛顧のおかげと感謝しております。

この1年半余り、当財団も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、展覧会の延期や中止など、予定されていた企画展は大幅な変更を迫られました。そうした中、開催にあたっては万全の感染対策を行って展覧会を継続してまいりました。

gggでは3回の企画展を開催しました。なかでも、「石岡瑛子展」は、前期と後期に分けて開催し、コロナ禍にも関わらず、過去最多の19,412名の来場者数を記録しました。また、「TDC2020展」と「永井一正展」では、コロナ禍で来場できない方のために、DNPの360°ビューモーフィング技術を用いたバーチャル・ギャラリーツアー映像を、ギャラリーのホームページで公開しました。

京都dddギャラリー (ddd) では、3回の企画展を開催しました。「コントラプンクト展」では、展覧会特設サイトを開設し、オンラインでも展覧会を楽しんでいただきました。

CCGA現代グラフィックアートセンターでは、3回の企画展を開催しました。昨年7月には、CCGA開館25周年記念展として「共鳴する刻 [しるし] - 木口木版画の現在地」を開催し、13人の現代作家の作品と秀英舎（大日本印刷の前身のひとつ）が明治時代に使用していたアルビオン・プレス型平圧印刷機の展示を通して、木口木版の魅力を伝えました。

ギャラリートークは、7回開催しました。開催にあたっては、従来の対面式のイベントに代わるものとして、YouTubeにDNP文化振興財団公式チャンネルを開設し、作家やゲストキュレーターによるオンライン・トークイベントの映像を配信しました。

コロナ禍の今、コミュニケーションのあり方は、大きく変わろうとしています。そうしたなか、DNPではグラフィック文化の未来像を思い描きながら、新しい価値を提供できるよう文化的事業を推進していきたいと考えています。今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

In March 2021, ginza graphic gallery (ggg) marked its 35th anniversary. I wish to express my sincere gratitude to everyone who has made this milestone possible.

Over the past year and a half, the Foundation's activities have been significantly impacted by the COVID-19 pandemic, with many scheduled exhibitions having to be postponed or, in some cases, cancelled. Amid these adversities, we proceeded with a number of exhibitions at our three galleries, at all times implementing stringent measures to prevent virus contagion.

At ggg, three exhibitions were held in 2020. "SURVIVE – EIKO ISHIOKA" was divided into two sessions and, despite the pandemic, this event attracted a record-setting 19,412 visitors. With the "Tokyo Type Directors Club Exhibition 2020" and "Kazumasa Nagai Exhibition," for would be visitors who were unable to come to the gallery due to the pandemic, we offered virtual gallery tours online using DNP's 360° view morphing technology.

kyoto ddd gallery (ddd) also held three exhibitions during the year. For "Kontrapunkt Type," a special venue was set up, and viewers could also enjoy the exhibition online.

The Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) likewise managed to hold three exhibitions in 2020. "Marks in Resonance: Wood Engraving Today" took place in July to celebrate CCGA's 25th anniversary. Visitors were introduced to the fascinating appeal of wood engraving through works by 13 contemporary artists, complemented by a display of the Albion press (an early hand printing press) used by Shueisha (forerunner of Dai Nippon Printing) during the Meiji period.

Seven Gallery Talk sessions took place during the year. In lieu of in-person events, the Foundation created its own YouTube channel over which visitors could watch online discussions by featured artists and guest curators.

The COVID-19 pandemic has led to significant changes in the way we communicate. At DNP, going forward we will continue to undertake cultural events that offer new values contributing to the future image of graphic culture. We ask for your continued support and understanding.

公益財団法人 DNP文化振興財団 理事長
北島義俊

Yoshitoshi Kitajima
Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion

個人的な体験としての ggg 35 年

服部 一成

グラフィックデザイナー

デザイン科の学生だった 1986 年の春、インターネットもスマートフォンもない時代にどうやって知ったのかは忘れたが、銀座にグラフィックデザインのギャラリーができたらしいと、オープンしてまだ数日の ggg（ギンザ・グラフィック・ギャラリー）を僕は訪ねている。建て直す前の大日本印刷のビルは石の外壁で、見上げると縦長の黄色い旗が通りに突き出て風になびいていた。ニューヨークのソーホーのギャラリーみたいだ、などと思ったりしたが、実際にはまだニューヨークには行ったことがなかった。中に入ると、古い風合いの黒っぽい石の床は鈍く光っていて、真新しい白い壁には第 1 回展の大橋正さんのトウモロコシやニンジンの絵が掛かっていた。最初の ggg は一階のひと部屋だけだったから、改装を重ねて地下にも展示室がある現在と比べれば、展示の規模はだいぶこじんまりしていたと思う。

まだ自分が本当にグラフィックデザイナーになれるのかどうかもわからない不安な時期に見た ggg の展示のいくつかは、グラフィックデザイナーとはいったいどういう仕事なのか、その像を具体的に教えてくれたと思う。オープンして 2 年目の 1987 年に、松永真さんの展示があった。並んでいたのは「スコッティ」のパッケージや書籍『日本国憲法』など、すでに見知っているものが多かったはずだ。ひとつひとつの仕事は、それぞれの状況によって作られて、違う顔つきをしている。けれども、展覧会場に集められたそれらを俯瞰して眺めてみると、それは確かにひとりのデザイナーの頭と手が作り出したものなのだ。

オープン当初の ggg の告知はハガキだけだったと思う。当時の僕には、生でグラフィックデザインに触れられる貴重な印刷物だった。ハーバート・バイヤー展やルウ・ドーフスマン展のハガキを、タイトルの英文字にうつとりしながら持ち帰った覚えがある。ハガキに驚き、考えさせられたのは、装幀家の菊地信義さんの 1990 年の展示のときだ。宛名の面に「棚」というタイトルと少しの情報がかり、裏は真っ白で何も印刷がなかった。菊地さんはグラフィックデザインの業界からは少し離れて、むしろ文学の世界にいる人のように勝手に思っていたので、ggg で展示をやること自体が意外だった。真っ白いハガキはただ意表をついたのではなく、デザインとは何かと無言で問うようで、なるほど菊地さんの展示なのだと思えてくるのだった。

学校を卒業して入社したライトパブリシティは銀座にあり、ggg は

すぐ近くだったが、展示されているような華麗なデザインの世界は自分には遠かった。入社して 6 年目の 1993 年、写真家の稲越功一さんの展示でポスターやチラシをデザインすることになって、初めて ggg に関わった。細谷巖さんがデザインした稲越さんの写真集に関連した展示で、細谷さんはなぜか告知物を僕に作らせた。稲越さんはきっと細谷さんにデザインして欲しかったはずだ。でもそんな素振りは全く見せずに、「いいですね、このデザイン」、などと年下の僕に優しくした。いま見るとポスターとしては地味だし、写真の扱いが小さすぎるのではないだろうか。細谷さんは本当はひやひやして見ていたはずだが、僕の作業にはほとんど口を出さなかった。

そのころ ggg を取り仕切っていた平山好夫さんは、眼光鋭く、独特の通る声で話し、若い僕にとっては少し怖い存在だった。チラシに入れる ggg のロゴを規定の青ではなく黒にしたいと何度か言ってみたが、平山さんは許してくれなかった。後年、平山さんにそのことを話したらしきりと恐縮されていた。今から思えば、小さなギャラリーを質を保ちながら守り続けていく、その責務の大きさと難しさを平山さんはよくわかっていて、常に緊張して仕事に臨もうとしていたのだと思う。

この展示の会場構成は細谷さんが担当したが、ggg での最初の打ち合わせの席で、いきなり話を始めた平山さんを細谷さんは「ちょっと待ってよ」と制して、設営を担当する職人さんたちひとりずつに頭を下げて「細谷です」と名乗って回った。なぜか忘れがたい光景で、今でもときどき思い出す。

2003 年、平山さんが僕の事務所にやってきて、佐野研二郎君、野田凧さんと 3 人展をやらないかと言う。そのころ ggg では年に 1 回、若手 3 人のグループ展のシリーズ企画があった。僕はライトパブリシティをやめてフリーになり、雑誌「流行通信」の仕事を始めたころだった。佐野君と野田さんは僕より 8 歳ほど下で、二人とも新鋭のアートディレクターとして話題作を連発していた。

この展示で僕は、展覧会で見せるための作品をつくるということの難しさをつくづく味わった。地階にはそれまでの仕事でデザインしたポスターや書籍などを展示したが、現実の諸条件を乗り越えて世に出たそれらには、デザインの成否とはまた別の次元で、それぞれに存在理由が備わっている。それに比べて、一階の壁に並べた、自由に制作したはずの僕の作品はなんとも頼りなかった。オープニン

グのあとのバーの席で、仲條正義さんが「服部ももう輝きがなくなったな」と言い放っていたそう。その話は翌日、細谷さんが嬉しそうに教えてくれた。僕は内心青ざめたが、思い当たるところもあったし、「次を見ている」という気持ちにもなった。そんなふうに率直に言ってくれる仲條さんもありがたいし、わざわざそれを本人に伝えてくれる細谷さんもありがたいというほかない。展覧会をやるということは、あるいはこんな罵声を浴びる権利を手に入れることだと言えるのかもしれない。

3人展での僕は単に力不足だったただけだが、一般的に言って、日常の悪条件の中で数々の優れたデザインを作り出してきた人が、自由な作品制作となると説得力を欠いて苦戦してしまうということはよくあると思う。これはデザインの宿命がからむ問題なのかもしれない。しかし例外もある。すぐに思いつくのは仲條さんで、gggでの3回の個展でも、飛び抜けて印象深い作品群を生み出している。なぜ、仲條さんにはそれが可能だったのだろう。ひとつの答えは、仲條さんのデザインはもともと絵画のような要素を含んで視覚的な刺激が強く、その個性が展示に向いているのではないかと、ということだ。もうひとつの答えは、仲條さんのデザインは個性的に見えてその実、観客が何を望んでいるかをいつも鋭く見通しており、展覧会をやる場合でもそれをひとつのデザイン行為と捉えて作っていて、観客がギャラリーという場で今どんなものを欲しているのかをよく見極めているからなのではないかと、ということだ。このことについて本人に聞いたことはない。

3人展から7年経った2010年、僕はgggで個展をした。このときは、展示について入念に考え、ベニヤ板を使った仮設の展示空間を構想した。設営の日、展示が概ね出来上がったところで、藤本晴美さんが颯爽と現れた。藤本さん率いるMGS照明設計事務所はgggのライティングをオープンからずっと担当している。抱えてきた山ほどのシュークリームを現場の全員にふるまい、照明をきびきびとチェックし、展示をひと通り見回ったあとで、藤本さんは入口横の白い壁を指差しながら、「服部さん、ちょっと完璧すぎるわね、ここに手書きでなにか書いてください」と言った。「え、ここにですか?」「はい、書いてください」。僕は命じられるままに展覧会タイトルを黒のマーカーで大きく手書きした。山ほどの展覧会に関わってきた藤本さ

んの目には、カジュアルを装っていながら肩にかなりの力が入ったままの僕の展示の息苦しさ、きっと透けて見えていたのだろう。gggの北沢永志さんからこんなエピソードも聞いた。2012年の横尾忠則さんのブックデザイン展のとき、設営の終了間際に横尾さんが外から電話で藤本さんにひとこと「田舎の便所の灯りにしたい」と言い、ピンときた藤本さんは照明を全てやり直して、薄暗い会場に横尾さんの装幀が浮かび上がる独特の展示空間ができあがったそう。

2015年、「21世紀琳派ポスターズ」という展示に参加した。10人のデザイナーが制作した横長の巨大な作品の、その会場構成を僕は任された。狭い和室で大きな襖絵を眺めるようなイメージで、ギャラリー内に3つの部屋を仮設して作品を展示したが、出来上がってみると圧迫感もある。オープニングの日、不安を抱いてgggに向かうと、外の道端で喫煙中の浅葉克己さんに「服部くん、会場よかったよ」と声をかけられたのだが、どうも口調が優しすぎる気がしてますます不安が募った。ギャラリーに入ると、佐藤晃一さんが僕を見つけて「会場、評判悪いよ」とニヤニヤしている。きっと本当にそうだったろうと思うのだが、そのひとことで不思議とほっとした気分にもなった。

gggが35年に渡って、グラフィックデザインの魅力や意義を広く社会に伝えるための場所であり続けたことは言うまでもない。でもいくつかの展示に関わることができた僕の実感、少し違うところにある。この場所は、グラフィックデザイナーとしての僕を鍛えた。まずは展示を見ることで、また、時に展示に参加することで、そして誰かと接することで。ここで僕が鍛えられ、少なからず影響を受けたことは間違いない。きっと他の多くのデザイナーにとっても、そうだっただろう。このことは、社会の大きさから見れば豆粒のように小さな出来事に過ぎない。そうではあっても、ある場所が存在し続ける理由というのは、例えばそういうことの中にあるのではないかと。

35 Years of ggg: My Personal Experience

Kazunari Hattori

Graphic Designer

In the spring of 1986 when I was still studying design as a university student, I heard that a gallery dedicated to graphic design had opened in Ginza, although I don't remember exactly how I found out in those days without Internet or smartphones. A few days later I paid the gallery – ggg (ginza graphic gallery) – a visit. The building that housed Dai Nippon Printing in those days, before it was later rebuilt, had stone walls, and looking up I saw a hanging banner in yellow jutting out into the street, fluttering in the breeze. It reminded me of the kind of gallery found in New York's SoHo district, although at the time I had never actually been to New York. Entering inside, I discovered an old-looking black stone floor with a dull shine, and on the brand-new white walls were hung pictures of corn and a carrot by Tadashi Ohashi, the featured designer of the gallery's first exhibition. That original ggg consisted of a single room on the ground floor, so compared to today, before repeated renovations and the addition of an exhibition room below ground, the display was quite compact in scale.

A number of the exhibitions I saw at ggg in those days, when I was still uncertain whether or not I had what it took to become a graphic designer, taught me in a tangible way just what a graphic designer actually does. In the gallery's second year, 1987, there was an exhibition of works by Shin Matsunaga. On display were many items I was already familiar with: his package design of Scottie tissues, his book design for a volume on the Constitution of Japan, and so on. Each work had been created under different circumstances and had a different appearance. Yet when all the works on display were viewed as a whole, I could easily see they had indeed all been created by a single designer.

As I recall, ggg's publicity materials in its early days consisted solely of post cards. To me at the time, those cards were a precious way to become familiar with real graphic design. I especially remember taking home the cards advertising the gallery's exhibitions of Herbert Bayer and Lou Dorfsman, and being fascinated by the English lettering of the exhibition titles. One card that surprised me and got me thinking was the card publicizing an exhibition featuring book designer Nobuyoshi Kikuchi in 1990. The address side contained the exhibition title, "Shelf," and a bit of information, and the reverse side was left completely blank, without any printing. Since up to then I had always thought of Mr. Kikuchi as someone slightly different from a graphic designer, someone belonging more to the realm of literature, I was surprised to learn he would be the subject of an exhibition at ggg. His exhibition's post card, almost completely blank, not only caught me by surprise, it also seemed to silently question the definition of what constitutes design, and that's when I realized why ggg was mounting an exhibition of Mr. Kikuchi's works.

After graduating from university, I joined Light Publicity, which is located

in Ginza very close to ggg. But the grand world of design on exhibit at the gallery was far distant from my everyday reality. Then in 1993, my sixth year at Light Publicity, I was assigned to design a poster and leaflet for an exhibition of works by photographer Koichi Inakoshi. That was my first involvement with ggg. The exhibition was being held in conjunction with a book of Mr. Inakoshi's photos designed by Gan Hosoya, and Mr. Hosoya for some reason had requested that I work up the publicity materials. Mr. Inakoshi must surely have wanted Mr. Hosoya to do the design, but if so, he never let on in the least. He was very kind to me, a young designer well his junior in age, and complemented me on what he said was a "good design." Looking back now at what I had created, my poster strikes me as understated and my treatment of photos too small. Mr. Hosoya must surely have looked on in dread, but he made little attempt to influence what I was creating.

The person in charge of ggg in those days was Yoshio Hirayama. He had a piercing gaze, spoke in a clear distinctive voice, and was a bit frightening for the young neophyte I was at the time. I suggested several times that I wanted to use black for the ggg logo on the leaflet, rather than the designated blue, but Mr. Hirayama wouldn't allow it. When I mentioned the episode to him in later years, he was altogether apologetic. Looking back on it now, I think Mr. Hirayama always approached his job with a sense of tense concentration, understanding all too well the enormity and difficulty of his responsibility to watch over a small gallery and maintain its quality at a high level.

Mr. Hosoya was in charge of the exhibition's layout design. At the first brainstorming session held at ggg, no sooner had Mr. Hirayama started speaking than he was immediately interrupted by Mr. Hosoya: "Wait just a minute." Mr. Hosoya proceeded to introduce himself, bowing politely to each of the workers in charge of the construction work. For some reason, it's a scene that remains indelible in my mind, one I recall from time to time even now.

One day in 2003, Mr. Hirayama suddenly appeared in my office. He asked if I would be interested in holding a group show together with Kenjiro Sano and Nagi Noda. In those days, ggg held an annual series of group exhibitions featuring three young designers. I had already left Light Publicity and gone freelance, and had just begun working on the magazine "Ryuko Tsushin." Mr. Sano and Ms. Noda were about eight years younger than me, but they were already up-and-coming art directors producing one hit after another.

With that show, I learned all too well the difficulty of creating works specifically for an exhibition. In the underground level, I showed mostly posters and books I had previously designed. They had all come into

the world having overcome the various restrictions presented to me, and they each had their own *raison-d'être* irrelevant to the success or failure of their design. In contrast, the works I displayed on the ground floor, which I created free of any restrictions, were all quite weak. I later heard that Masayoshi Nakajo, over drinks at a bar following the opening party, had remarked, "Hattori's already lost his sparkle." The one who told me about it, the following day, was Mr. Hosoya, who conveyed the episode somewhat gleefully. I could feel myself turning pale with embarrassment, but deep down I knew that what had been said was correct. I became determined that next time, "I'll show you what I can do." I'm grateful to Mr. Nakajo for his honesty in speaking up as he had, and equally grateful to Mr. Hosoya for purposely telling me about it. In a sense, being given the opportunity to show one's works perhaps means acquiring the privilege to receive such criticism.

In the case of the group exhibition, my dismal showing owed simply to the fact that I didn't have enough creative strength. In general, though, I think it often happens that an artist who creates many outstanding designs under normally harsh conditions ends up struggling from a lack of persuasive artistry when creating works completely free of restrictions. This may be a problem tied to design's inherent fate. And yet, there are exceptions. One who immediately comes to mind is Mr. Nakajo, whose three solo shows at ggg have all been graced with truly amazing, impressive works. How has he been capable of this? One answer may be that Mr. Nakajo's designs contain painterly elements, are highly stimulating visually, and have individual distinctiveness perfectly geared to exhibitions. Another answer is perhaps that Mr. Nakajo's designs appear individualistically unique, and he has the ability to always see straight through and know what his viewers want; then, when he holds an exhibition, he takes that event as an act of design and proceeds to create, perceiving precisely what visitors want when they come to a gallery. This is just speculation on my part; I've never asked him about it.

Seven years after that first group show, in 2010 I held a one-man exhibition at ggg. This time, I gave a great deal of thought to how to display my works, and, using plywood, I worked up a layout plan. On the day of actual construction, just as the display setup was nearing completion, Harumi Fujimoto swept in. Her company, MGS Lighting, has been in charge of ggg's lighting ever since its opening. After first passing around a huge box of cream puffs she had brought for everyone, she then got immediately down to the business of checking the lighting and looked over the displays. She then turned to me and, pointing to the white wall alongside the entrance, she said, "Hattori-san, it's a bit too perfect. Please write something by hand here." "Here??" "Yes. Please write something." Yielding to her instruction, in

large script I wrote the title of the exhibition using a black marker pen. Ms. Fujimoto has been involved in countless exhibitions, and she must have detected a stuffy awkwardness in my display, which, while feigning to be casual was actually overbearingly stiff and formal.

I also heard the following anecdote from ggg's Eishi Kitazawa. When the gallery mounted an exhibition of Tadanori Yokoo's book design works in 2012, just as the construction work was nearing completion Mr. Yokoo telephoned Ms. Fujimoto from outside the gallery with a single request: "I want lighting like in a toilet in the boonies." Ms. Fujimoto immediately knew what he meant, and she redid the lighting entirely. The result was a highly unusual exhibition space in which Mr. Yokoo's book designs seemed to float in half-darkness.

In 2015, I took part in the "21st Century Rimpa Posters" exhibition, which featured giant-size extra-wide works by 10 designers. I was in charge of the layout design, and I designed a display in which I converted the gallery into three separate rooms, aiming for an image suggestive of gazing at a large fusuma (sliding partition) painting inside the confined space of a small Japanese-style room. The result imparted a sense of oppressiveness on the viewer. On the opening day, filled with a tinge of anxiety I went to ggg. Outside the gallery, smoking a cigarette, was Katsumi Asaba. "Hattori-san, I like the job you did," he said in greeting me. There was something about the way he said it though – to me, his words seemed a bit too nice – that made me feel all the more worried. Entering the gallery, I was approached by Koichi Sato, a slight smirk on his face. "The layout's getting panned." I imagine what he said was true, but, strangely, his comment left me with a sense of relief.

For 35 years, inarguably, ggg has continued to serve as a venue that widely conveys the fascinating appeal and significance of graphic design. And yet, to me, having had the privilege of being involved in a number of its exhibitions, what I feel is slightly different. ggg is a place that has given me the disciplined training that enabled me to develop as a graphic designer: first, by teaching me how to look at a display; next, through occasional participation in its exhibitions; and finally, in getting me to interact with others. Without question, ggg is where I was trained and, to no small degree, influenced. I'm sure the same can be said of many other designers also. In the grand scheme of the world, this may seem miniscule in importance. But even so, this may be one reason why this place – why ggg – continues to exist and to thrive.

展示事業

Exhibitions

ginza graphic gallery 2020-21

June 22 – August 29, 2020

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2020

October 9 – November 21, 2020

Poems of Eternal Life: The World of Kazumasa Nagai's Images and Words

December 4, 2020 – January 23, 2021

Survive – Eiko Ishioka First Session (Advertising Campaigns)

February 3 – March 19, 2021

Survive – Eiko Ishioka Second Session (Graphic Art)

ggg



Tokyo Type Directors Club Exhibition 2020

June 22 – August 29, 2020

TDC 2020



東京TDC賞2020の成果。グランプリを受賞したM/M(Paris)「Galeries Lafayette Champs Élysées」のVIをはじめ、本年も質が高い内容であった。Covid-19の影響で会期が変更になったが、世界先鋭150作品との出会いの場を、デザインを学ぶ若い世代に届けることができ幸いであったと言える。オープンを待つ間、「展覧会場VRコンテンツ」がgggのサイトに登場。また受賞者が受賞作品を語るTDCDAYのYouTube配信を実施したが、緊迫したロックダウン下にいる海外受賞者から送られてきたプレゼンテーション映像は大変に迫力があり、価値あるデザインコンテンツを発信し続ける東京TDC賞への感謝、賛辞の言葉を世界からいただいた。

東京TDC 照沼太佳子

The exhibition displayed the works that won, or were nominated for, Tokyo TDC Awards in 2020. Again this year, the winning works – including the Grand Prize winner: the VI for “Galeries Lafayette Champs Élysées” by M/M (Paris) – were all of outstanding quality. Although the exhibition schedule had to be changed amid the Covid-19 pandemic, ultimately we were fortunate in being able to provide the young generation of students studying design a venue where they could view 150 of the world’s latest exciting works. In the run-up to the delayed opening, the works on display in the gallery could be viewed in VR on ggg’s website. We also posted a video on YouTube of “TDCDAY2020,” in which the award

recipients talked about their winning works. The presentations contributed by overseas winners, many of whom were in tense lockdown at the time, were especially impressive. We were very pleased to receive their messages of appreciation and praise for Tokyo TDC’s continuing dissemination of valuable design contents.

Takako Terunuma, Tokyo TDC



Poems of Eternal Life: The World of Kazumasa Nagai's Images and Words

October 9 – November 21, 2020

いきることば つむぐいのち 永井一正の絵と言葉の世界

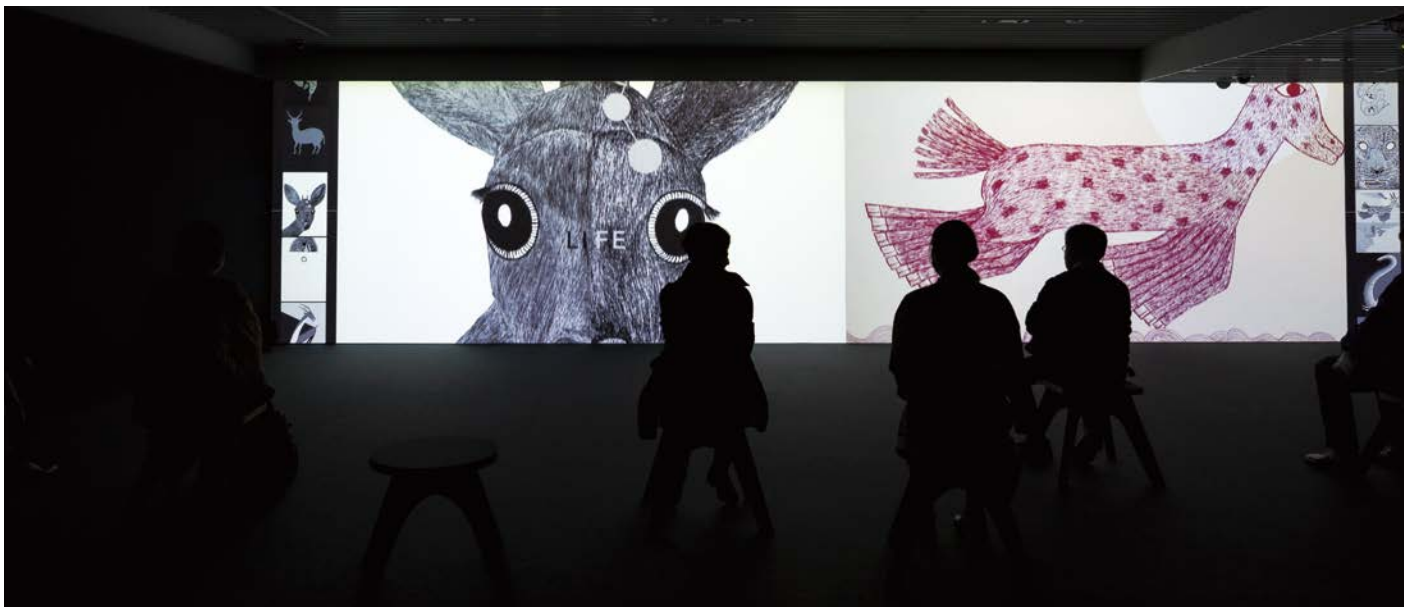
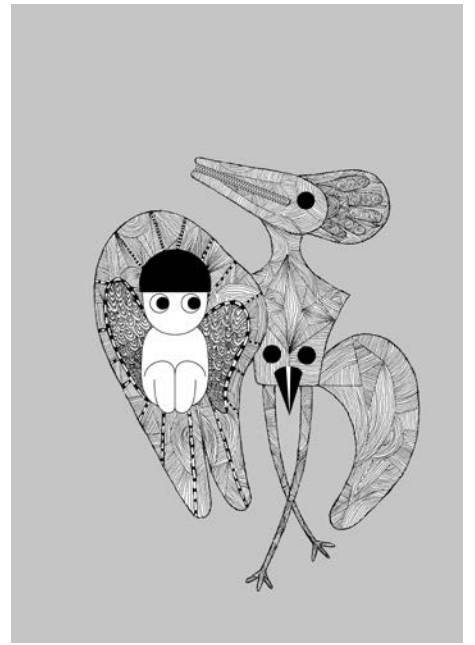
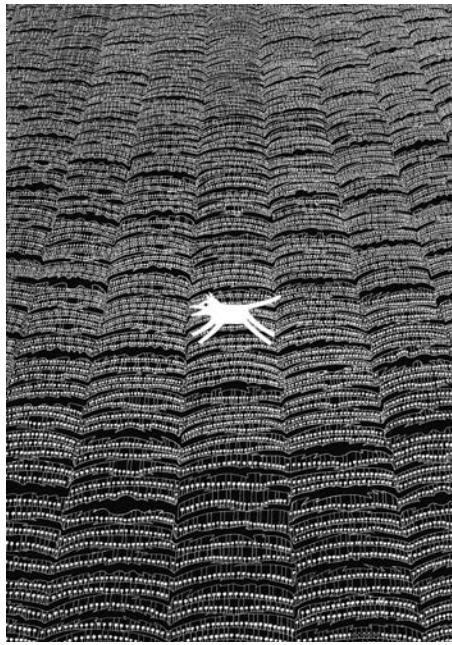
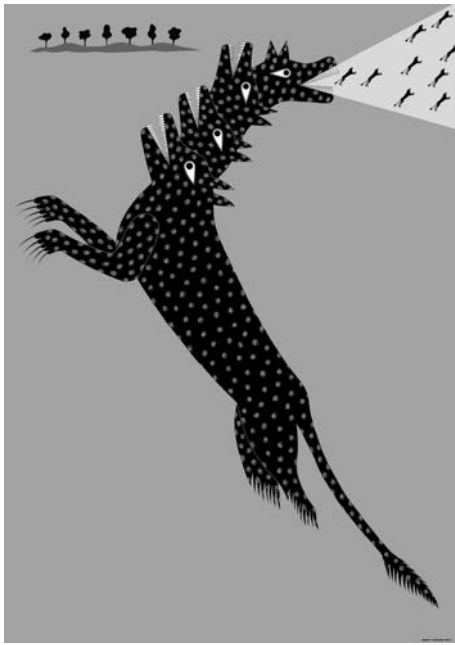


2020年4月に発行された私の著書『いきることば つむぐいのち』(芸術新聞社)がコロナ禍の今の時代にふさわしいとのことで、展覧会を企画していただいた。私の本のディレクションをしてくれた永井一史に展覧会の構成をすべてまかせることにした。私のLIFEのポスターをモノクロームにして和紙に印刷し、本の世界を森のような立体的に構成したのは私自身も驚いた。そして木に彫り込んだ文字が光るようにLED照明で絵と文字が相互に浮かび上がるようになったのは不思議な感じがした。又地下は田中良治氏の協力を得て、私のLIFEの動物たちを大画面に映像として動かし迫力あるものになった。その他にも多くの人々の協力を得てこのような展覧会が実現されたことに感謝している。 永井一正

The gallery organized this exhibition in response to the publication, in April 2020, of my new book titled *Poems of Eternal Life* (Geijutsu Shinbunsha), which was seen to be befitting of these pandemic times. I opted to leave supervision of the exhibition entirely in the hands of Kazufumi Nagai, who did the direction work for the book. His decision to print my "LIFE" posters in monochrome on washi paper and transform the world depicted in my book into a forest-like installation took even me by surprise. I also marveled at how LED lighting caused the visuals and the words carved into the "trees" to bathe in light in alternating succession. With the cooperation of Ryoji Tanaka, the gallery's basement level featured a

video production of my "LIFE" animals moving dynamically on a large screen. I am grateful to them and to the many others whose cooperation enabled this exhibition to take place.

Kazumasa Nagai



Survive – Eiko Ishioka First Session (Advertising Campaigns)

December 4, 2020 – January 23, 2021

石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか 前期(アド・キャンペーン篇)



瑛子さんのデザインに宿る“熱量”を、どうやれば若い世代に届けられるか？彼女の“言葉”を時代を超えて響くものにするには？一考え続けた5年間だった。「劇場」「ボイス」「肉体」etc. キーワードが浮かんでは消え、白紙に戻るを繰り返す。最後に浮上したのが「サバイブ」だ。10年前、瑛子さんに最後にインタビューしたときのテーマであり、彼女が私にくれた“宿題”でもある。怜子さんを核とするチームの結束はしなやかに強靱で、仕上げは急ピッチで進んだ。命が躍る赤い空間が、パンデミック禍の銀座に光を放ち、大勢の人々が詰めかけた。ビジュアルに打たれ、語録に共鳴し、降り注ぐ声に喝を入れられていた。石岡瑛子はサバイブしている。そう私は確信した。

河尻亨一

How could I convey to the younger generation the intense passion imbued in Eiko's designs? How could I make her “words” resonate after her time, in any age? These are questions I pondered over the course of five years. Keywords came to mind – “theater,” “voice,” “body,” etc. – and faded away, repeatedly putting me back where I started. Ultimately, what popped into my mind was “survive.” That was the topic of my last interview with her 10 years ago, and what she left me to toss over in my mind after the interview. The solidarity of our production team, centered on Ryoko, was strong yet flexible, and the exhibition came together with alacrity. The space bathed in red light, leaping with life,

shined a ray of hope in Ginza amid the pandemic, and many people came to the gallery. They were struck by Eiko's visuals, resonated with her words, and buoyed by her voice filling the venue. Eiko Ishioka survives. I now know that for sure.

Koichi Kawajiri

Survive – Eiko Ishioka Second Session (Graphic Art)

February 3 – March 19, 2021

石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか 後期(グラフィックアート篇)



kyoto ddd gallery 2020-21

June 9 – October 3, 2020

Kontrapunkt Type

October 17 – December 19, 2020

Graphic Design of Food

January 16 – March 19, 2021

Graphic West 9: Sulki & Min



Kontrapunkt Type

June 9 – October 3, 2020

コントラプンクト タイプ



dddは、私にとってとても大切な場所となった。
dddで展示の機会をいただき、10月に実際に訪れ、成功は間違いないと確信した。gggでの経験で、展示の仕方やクオリティ含め、ddd一面の壁に投影される姿が完全に想像できたのだ。その後Covid-19のパンデミックに襲われたが、スタッフの尽力でなんとか開催。大変感謝している。コロナ禍での展覧会は私にとってとても印象的だ。4月の開催予定が6月になったが、その間により多くの人にdddと同じ経験を家でもと、コンピュータから誰もがオンラインで楽しめるバーチャル展示もオープン。このバーチャル展示を承認いただいたことにも感謝している。

ボー・リネマン コントラプンクト共同創設者
兼 エグゼクティブデザインディレクター

I was offered the opportunity to exhibit Kontrapunkt Type at ddd in 2019.

And after visiting the gallery in October, I was convinced it would be a success. I could envision the work projected on the walls of ddd, including how the quality of the work would be displayed.

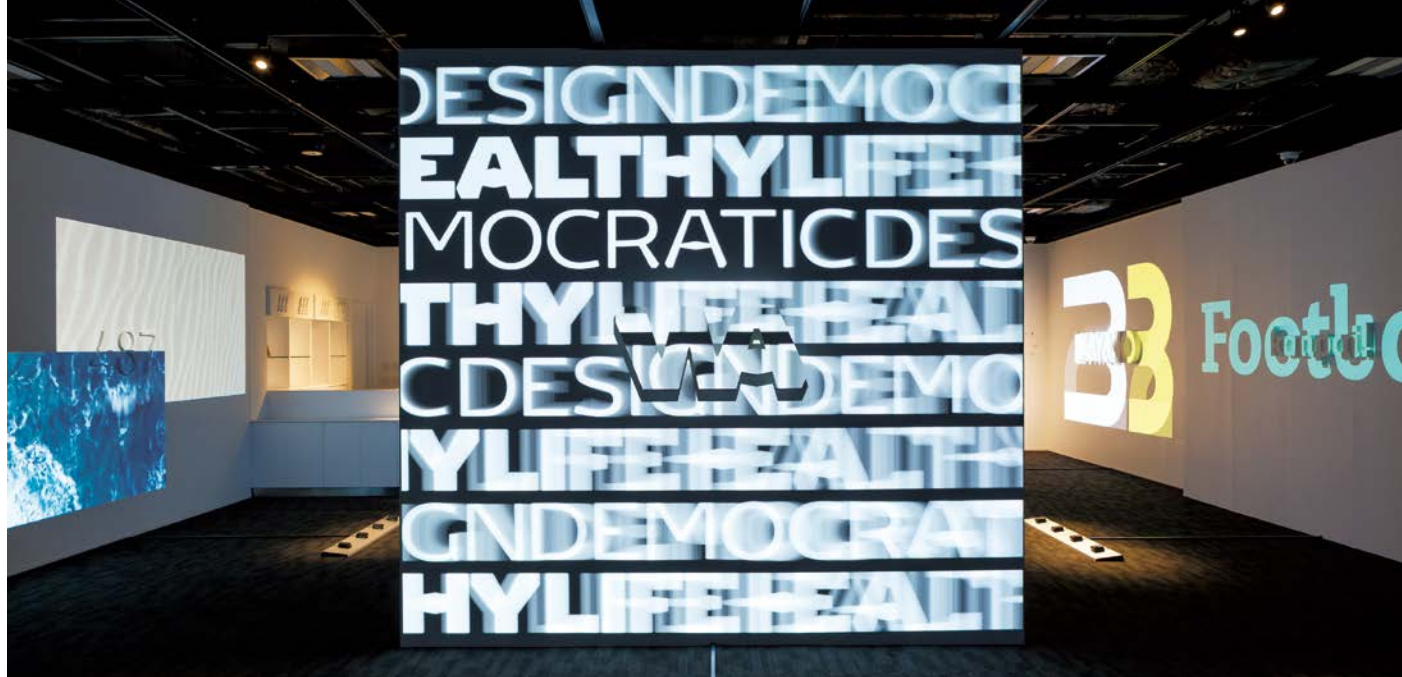
Unfortunately, we were hit by the pandemic of Covid-19, but thanks to the efforts of everyone at ddd, we were able to exhibit Kontrapunkt Type regardless. We are very grateful for your efforts.

During the exhibition at ddd, we-at Kontrapunkt -decided to turn the physical exhibition into an online, immersive experience. In light of the pandemic, we wanted to give people, who were

isolated at home, the same sense of inspiration and enlightenment you feel when visiting the ddd. So, we would also like to thank you for your approval of this virtual exhibition. It has been a great success and would not have come to life if not for the physical exhibition - and your blessing to share the exhibition with the rest of the world online.

Thank you.

Bo Linnemann
Co-founder and Executive Design Director
of Kontrapunkt



Graphic Design of Food

October 17 – December 19, 2020

食のグラフィックデザイン



2020年度はコロナに翻弄され続けた1年であった。当初計画していた展覧会予定はコロナによる制約で軒並み先延ばしせざるを得なくなった。幸いにもCCGAで開催された本展を巡回することができた。視察を行い極力取りこぼしなく展示できる様、作品配置を計画した。グラフィックデザインが人々の生活や社会と不可分であるからこそ反映された、食、ひいては生活全般に対する人々のイメージを戦後まもなくから、記憶に新しい2000年代までの作品を通じて振り返る展示となった。またデザイナーたちが食の力を伝えるべく思い思いに腕をふるったポスターや雑誌を展示する事で、そこに見られる表現を通して、現代の食と人間の関係性を探る一助となったと思う。 京都dddギャラリー 熊本和夫

2020 was a year continuously battered about by the coronavirus. One after another, scheduled exhibitions had to be postponed due to constraints amid the pandemic. Fortunately, we were able to hold this exhibition, which had earlier been held at CCGA. After making an initial tour of the show at CCGA, I planned a layout that would enable as many works to be displayed as possible. Graphic design, an indivisible element of our lives and social milieu, profoundly reflects the images we embrace of food and, by extension, of life general. This exhibition was a retrospective of those images starting early in the postwar years up to the familiar period of the 21st century. Through displays of posters and magazines in which

designers each exercised their talents to the fullest to convey the power of food, I think what we find expressed in them served as an aid to probing our relationship with food today.

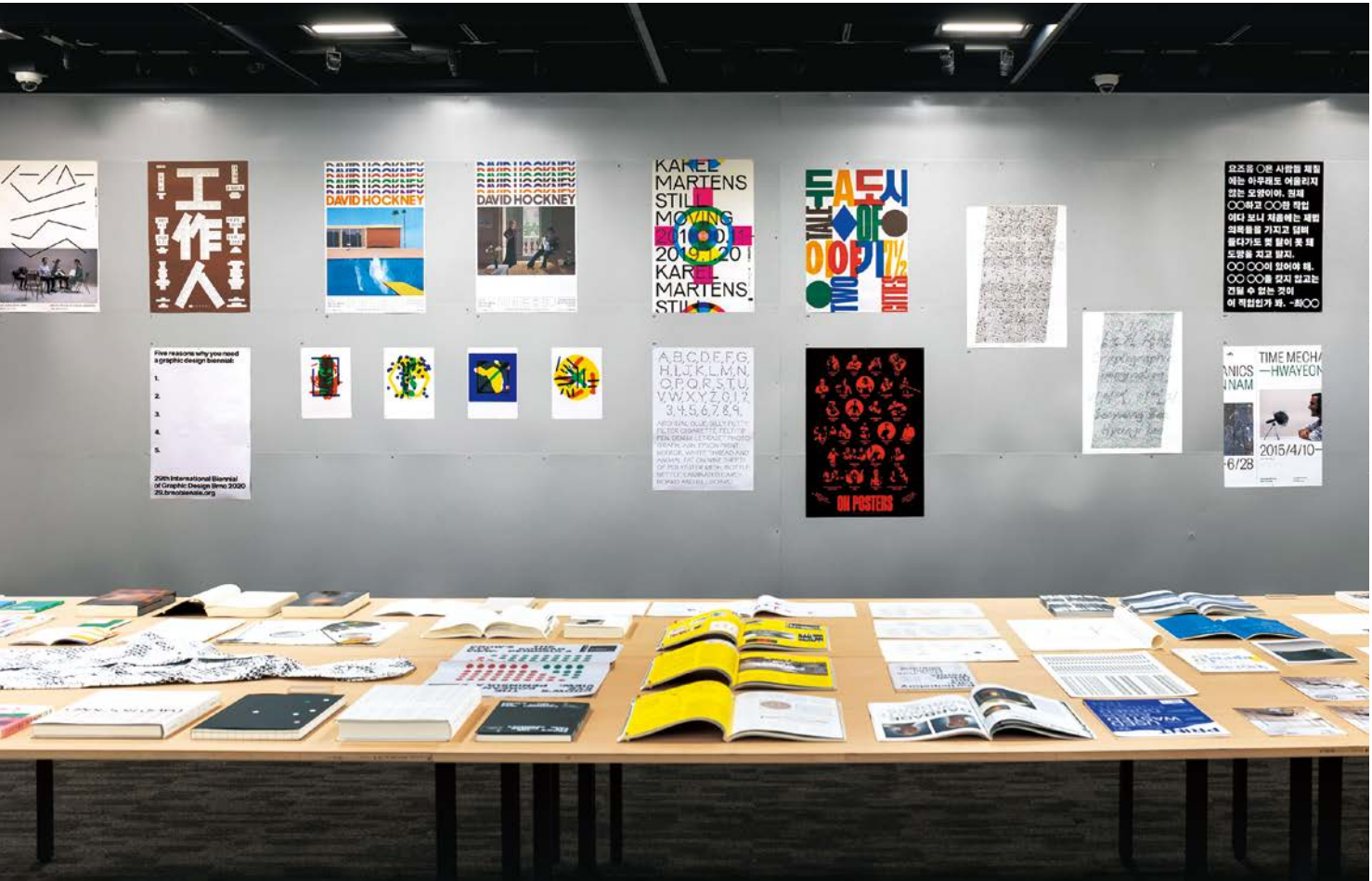
Kazuo Kumamoto, kyoto ddd gallery



Graphic West 9: Sulki & Min

January 16 – March 19, 2021

Graphic West 9: Sulki & Min



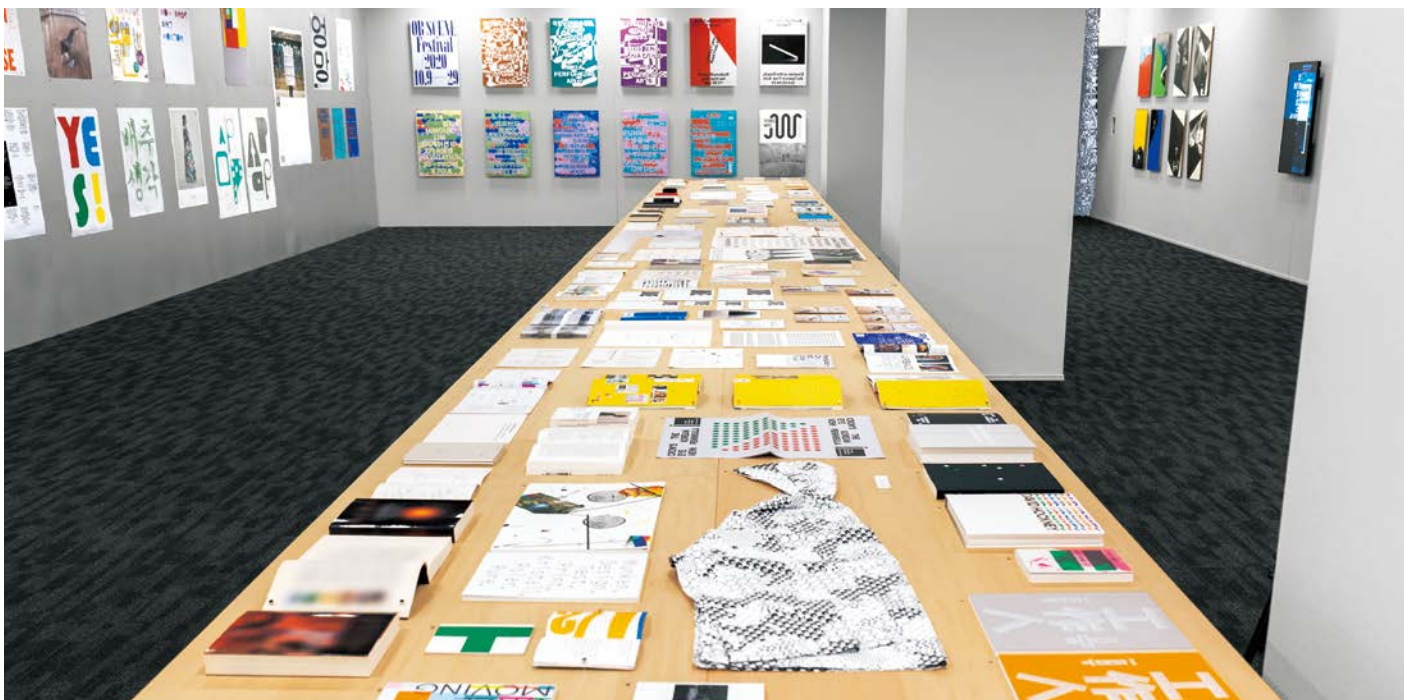
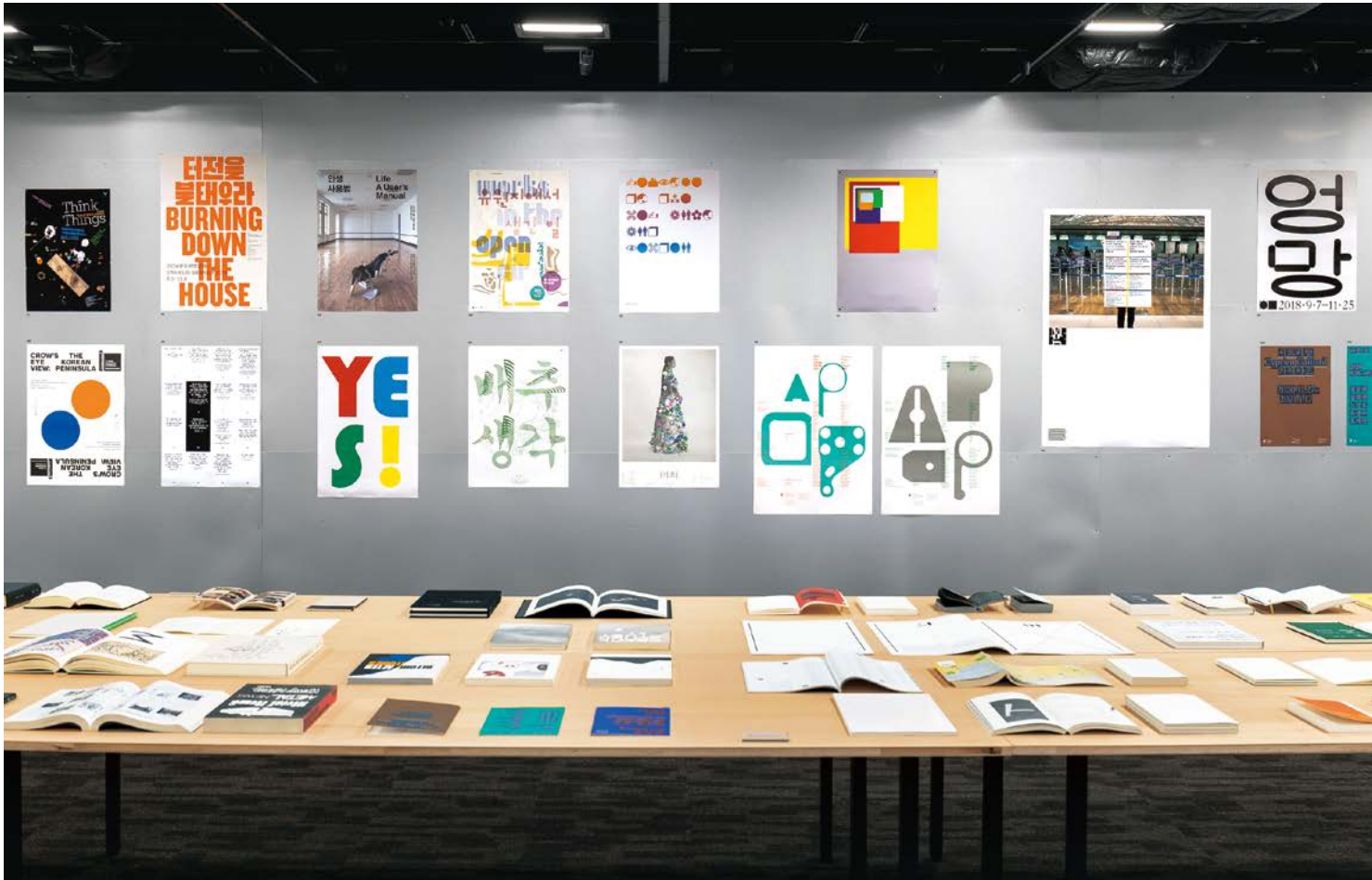
展覧会は私たちの初の中間報告展でした。後藤哲也氏との協働により、コミッションプロジェクトから自発的作品、出版など、多岐にわたる作品を紹介しました。またビジュアルスタイルではなく、概念的な厳密さ、批評的な野心によって特徴づけられる私たちのアプローチの幅を示そうと試みました。No Architectsによる会場構成では、展示を立体的な索引に見立て、個々の項目に全体的な文脈へ誘導する機能を持たせました。展覧会は、私たちの書籍『Explained』と、展示内容の検討で使ったシートをもとにした特設サイトとも連携させました。バーチャルとリアル、プロセスと結果—それは、パンデミック、移動の制限という困難な状況に対する答えでもありました。

チェ・スルギ、チェ・ソンミン (Sulki & Min)

It was our first mid-career survey. The curator, Tetsuya Goto, and we wanted to show the breadth of our work, from commissioned projects to autonomous art, writing, and publishing. We also tried to indicate the spectrum of our approaches, which are often defined by conceptual rigor and critical ambitions, not by any visual styles. The show was designed—by No Architects—as a physical index, where each item functions as a pointer to a fuller context. It was connected to our book, *Explained*—freshly translated into Japanese by Goto—as well as an exhibition mini-site, which, in turn, was based on a spreadsheet we used to plan the show. This coordination of the virtual and the actual—and

that of process and outcomes—was partly a response to the challenges of the times: the pandemic and the restrictions on movement.

Choi Sulki and Choi Sung Min (Sulki & Min)



Center for Contemporary Graphic Art and Tyler Graphics Archive Collection 2020–21

March 1 – June 28, 2020

Graphic Design of Food

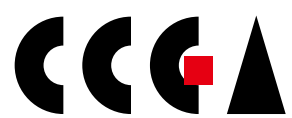
July 4 – September 6, 2020

Marks in Resonance: Wood Engraving Today

September 12 – December 20, 2020

Words and Prints:

33rd Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection



Graphic Design of Food

March 1 – June 28, 2020

食のグラフィックデザイン



ポスターをはじめとするグラフィックデザインには、時代を反映した多くの食の表象を見ることができる。私たちの生活や社会と不可分の存在であるグラフィックデザインだからこそ、食、ひいては生活全般に対する人々のイメージが色濃く反映されるのだろう。本展ではDNPグラフィックデザイン・アーカイブから、食に関するグラフィックデザインの作品を展示した。デザイナーたちが食の力を伝えるべく思い思いに腕をふるったポスターや雑誌などに見られる表現を通して、現代の食と人間との関係性を探った。

In posters and other works of graphic design, we can see numerous representations of food that reflect their times. Because graphic design is indivisible from our lives and social setting, it vividly reflects people's images of food, and by extension, life in general. This exhibition displayed graphic works relating to food gleaned from the DNP Graphic Design Archives. What we find expressed in posters, magazines and other works in which graphic designers skillfully strove to convey the power of food, probed our relationship with food today.



Marks in Resonance: Wood Engraving Today

July 4 – September 6, 2020

共鳴する刻[しるし]—木口木版画の現在地



木口木版画は、黄楊（つげ）や椿などの堅い木を輪切りにした面（木口）を銅版画用のビュランで彫ることで、細密な表現ができる木版画である。決して大きくはない画面の中に、ときに高度な象徴性や文学性をまとった濃密なイメージが展開する作品は、私たちの心を惹きつけてやまない。その繊細で詩的な刻線は、作家の精神と物質としての版木が出会い、共鳴することで生まれた世界の痕跡ともいえる。本展は13人の現代作家が手がけた作品により、いまに生きる木口木版画の魅力を展覧した。

Wood engravings employ the cross-sectional cuts of hardwood trees such as boxwood and camellias, and are created using a tool known as a “burin,” which is typically used in intaglio printing and enables finely detailed expression. Within their diminutive area, wood engravings are imbued with a density of imagery often having a highly symbolic or literary quality, making these works immeasurably attractive. Their delicate and poetic lines also seem to function as traces of the world born when the psyche of the creator encounters and resonates with the materiality of the wood. The exhibition featured wood engravings by 13 contemporary artists that together presented an overview of the appeal of this living art form today.



Words and Prints: 33rd Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

September 12 – December 20, 2020

ことばと版画：タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.33



古くは書物の挿絵として発展し、文字や言葉とともにある存在だった版画。そうした性質は今日でも、版画集や詩画集のような形式の中に生きている。またイメージと言語の関係を問い直すといった現代的な視点により、画面に文字や言葉が導入された作品も生まれてきている。本展はCCGA所蔵のタイラーグラフィックス・アーカイブコレクションから、ロバート・マザウェルの詩画集やロイ・リキテンスタインの文字が画面に描かれた作品を展示し、言葉と版画の関係について考察した。

Woodcut prints initially developed as book illustrations, and were thus paired with characters or words. The nature of this relationship continues today as well, in such forms as woodcut print collections and illustrated poetry anthologies. Out of a desire to rethink the relationship between image and language, we now find an increasing number of works that feature letters and words. This exhibition probed the relationship between words and prints through works gleaned from CCGA's Tyler Graphics Archive Collection, with a focus on illustrated poetry anthologies by Robert Motherwell and works featuring lettering by Roy Lichtenstein.



教育・普及事業

Education & Enlightenment

ギャラリートーク概要

いきることば つむぐいのち 永井一正の絵と言葉の世界 (YouTube配信)

出演者

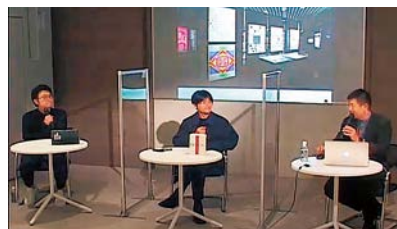
コロナ禍の影響のためggg初となったオンライン・ギャラリートークは、永井一正氏と永井一史氏の父子によるデザインと表現をめぐる対話となり、編集者の河尻亨一氏が司会を務めた。セッション冒頭では、永井一史氏が一正氏による「LIFE」シリーズを独自の視点で読み解きながら解説。「父が91歳の現在にいたるまで、枯れることなく、時代からずれることもなく、毎年のように表現スタイルを変えながら創作を続けていることに驚かされます」と一史氏。河尻氏による「創造のエネルギーはどこから湧いて来るのでしょうか?」という問いに対して、永井一正氏は「年齢を重ねるにつれ、人に生きる勇気をもってもらうことが表現者の使命と考えるようになりました。社会に恩返しをしたい。その思いが私の表現の根底にあります」と語った。一正氏にとって、クリエイションは「自然(いのち)への共鳴から始まる」ものであり、デザインは「文化と社会、経済をつなぐことば」なのだという。混迷の時代を生きるデザイナーにとって示唆に富む、多彩な「ことば」がつむがれるセッションとなった。



石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか④ (YouTube配信)

出演者: 伊賀大介+小杉幸一+河尻亨一

トークシリーズ最終回は、スタイリストの伊賀大介氏とアートディレクターの小杉幸一氏をゲストに、「次の時代をクリエイトする表現者」というテーマで活発なディスカッションが行われた。「石岡さんの主な仕事については、知ってたつもりだったんですけど、ポスターの現物を目にしたときのインパクトは全然違いましたね。デザインの様々なエッセンスが凝縮された圧や熱量、生命的エネルギーまで伝わってくる気がして」(小杉氏)「コロナ禍の東京でこの展示が行われたのはエポックなこと。『TIMELESS・ORIGINALITY・REVOLUTIONARY』という瑛子さんのマントラも、『サバイブ』というテーマも強烈なリアリティをもって迫ってきました。僕は自分だけの“必殺技”や“サインチャー(自分であることの証)”を持たなきゃダメだと痛感しましたね」(伊賀氏)「瑛子さんのDNAをどんな形で僕は引き継いでいけるのか? そんな問いを展示の中に仕込みたいと思いました。たんなる“回顧”や“鑑賞”に終わらず、人を行動にまで駆り立てる企画が実現できたと思います」。河尻氏は、こんなコメントで4ヶ月に渡る展示を総括した。



石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか① (YouTube配信)

出演者: 河尻亨一+北沢永志

4回にわたって開催された石岡瑛子展のギャラリートーク第1弾は、展示会場内(1F)で実施、オンライン配信された。石岡瑛子氏とともに本展の監修を務め、評伝『TIMELESS 石岡瑛子とその時代』の著者でもある河尻亨一氏と、北沢永志(DNP文化振興財団)が、資生堂やパルコ他 of 広告キャンペーンやグラフィックアートの名作を解説しながら、没後10年をへて宝石のような輝きを放つ「瑛子さん」の仕事と人間性の魅力を語り合う。なぜ、いま、石岡瑛子なのか? 展示タイトル「サバイブ」にこめたメッセージとは? 長年この企画に取り組んできた二人から、展示の背景が明かされ、知られざるエピソードが紹介されていく。「ひとと言うなら、今回の展示は“石岡瑛子劇場”。会場のビジュアルと言葉、そして瑛子さんの肉声から、創造のエネルギーを全身に浴びていただきたいですね」(河尻氏)。「gggの大事な役割のひとつは、“おくりびと”であることだと思っています。瑛子さんのような巨匠の業績をきちんと評価して、若い世代に伝えていくという意味で」(北沢)。



食のグラフィックデザイン 学芸員解説 (YouTube配信)

出演者: 森崎陵子 (CCGA現代グラフィックアートセンター学芸員)

まず展覧会を企画した学芸員が「食」というテーマで収蔵品の中から選んだ作品から何を伝えたいかを語る。そして展示作品の中から3作品について、作家と作品を解説。一つ目の大橋正氏によるキャラメル of 広告作品は、終戦後、漸く始まった菓子の自由販売の中で、幾何学模様を使ったモダンなデザインが新しい時代を感じさせる。2つ目の青葉益輝氏の作品は、広告ではなく、反戦のメッセージを直接的なビジュアルとコピーで表現。但し10ヶ国語で示された広島原爆投下についての文章が、広く世界への問題提起を目指す氏のソーシャルデザインへの立場を伝えている。三つ目の福田繁雄作品は、遊びやユーモア、ウィットや皮肉をだまし絵やトリックアートで表現した作家の展覧会ポスター。ここでも世界中の誰もが知るアート作品をモチーフとすることで世界中にメッセージを伝えようという意図がうかがえる。動画をきっかけに来場して多くの作品を鑑賞して欲しいとコメント。



石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか② (YouTube配信)

出演者：榎本了亮＋河尻亨一

トークシリーズ「瑛子さんを語る!」。2回目は榎本了亮氏をゲストに迎え、河尻亨一氏が聞き手を務めた。アートディレクターである榎本氏だが、吉祥寺PARCOオープンのキャンペーン(1980年)には「コピーライター」として参加するなど、いくつかのプロジェクトで石岡瑛子との協働作業を体験している。伝説の雑誌「ピクチャーハウス」の立ち上げ人でもある榎本氏から、パルコと渋谷の文化について、そして石岡とのコラボレーションについて、「ここだけの濃密な話」が聞けるセッションとなった。ノマドのように世界を飛び回り、ボーダーレスに活動した石岡の仕事がいま振り返ることの意義は大きいと榎本氏は強調する。「展覧会のタイトルにもなっている『サバイブ』というのは、たんにデザイン業界の中で生き残っていくという意味ではなく、社会や時代からスプーイルされずに私を貫くには、どうすればいいか?という石岡さんからの問いかけだと思うんです。広告やデザインといった業界が今後も持続可能なのかという疑問も、早い時期から彼女は抱いていたのかもしれないね」(榎本氏)



GRAPHIC WEST9: Sulki & Min 展覧会解説 (YouTube配信)

出演者：スルギ&ミン、後藤哲也、No Architects 西山広志

パンデミック下で会場に来られなかったスルギ&ミンによる自己紹介と本展の解説。彼らのこれまでの個展は、特定のテーマを深く掘り下げるものだったが、本展は2005年から現在までの全ての作品を広く見せる事で、彼らを知ってもらえるきっかけとなる事を目的とした。告知物やハンドアウトに使用したスプレッドシートをキービジュアルとしたのは、彼らのプロジェクトは常にスプレッドシートを用いて進行されているからだという。親交のあるキュレーターの後藤氏は、彼らとオンラインで綿密に協働する事で展覧会を企画。会場では『作品解説』や『アイデア』特集号を補完メディアとして配置しより深い理解を支援。展示デザイン担当のNo Architects西山氏は、展示ではなく提示をコンセプトに彼らのウェブサイトの作品背景に用いられたホワイトノイズをガルバリウム鋼板で再現。スプレッドシートに基づく年代順配列により、作家性よりも作品性を伝えたという。オンラインを用いながら、相互の信頼関係により満足のできる展覧会になったとスルギ&ミンが締めくくった。



石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか③ (YouTube配信)

出演者：篠原ともえ＋永井裕明＋河尻亨一

3回目は、本展のグラフィックデザインを手がけた永井裕明氏、衣装デザイナーとしても活躍する篠原ともえ氏をゲストに迎えた。永井氏は、手描きや写植の技術が必須であったDTP以前の「印刷」についてふれ、その時代に生み出された石岡瑛子のグラフィックワークに宿る「緻密さ」と「すこみ」が、若い世代にも伝わるように解説。「アートディレクターは、デザインの現場における棟梁のような存在。仕事の全プロセスに責任を持ち、優秀な人材をその気にさせてシャープなものを生み出し続けた瑛子さんは、リーダーとしても飛び抜けた人だったと思います」(永井氏)。一方、篠原氏は初個展「SHIKAKU」の出品作なども紹介しながら、石岡への憧れやあとに続く世代としての意気込みを語る。「瑛子さんのことはずっと前から尊敬していたんですけど、手の届かないところにいる人だと思っていました。今回の展示を見て、自分はデザインが好きなんだということに改めて気づかされたし、チームの一人一人が強い思いを抱いて自分を磨いていけば、総合力で瑛子さんの高みに近づけるんじゃないかという勇気までもらえました」(篠原氏)



GRAPHIC WEST9: Sulki & Min オンラインギャラリーツアー：原田祐馬の視点 (YouTube配信)

出演者：原田祐馬 (UMA/design farm代表)、西まどか (『アイデア』編集長)、後藤哲也 (本展キュレーター)

デザイナー原田氏が視た展覧会を視線カメラで撮影。後藤氏の進行で、原田氏、西氏のゲスト2人が動画を見ながら解説。コロナ禍を受け来場できない方にも疑似体験できる様に企画された。各自、作家との交流の歴史を紹介。続いて視線カメラ映像を見つづパチャルに鑑賞。原田氏は個々の作品より先に展示構成から始めるという。随時、後藤氏が作品について解説。原田氏は、年代順の配置から作家の興味の遷移が感じられると言う。ポスターには展覧会用に日本でオンデマンド印刷されたモノも多く、作家のこだわりの所在が垣間見られる。後藤氏によると書籍は手に取れないが、適宜見開きに展示。西氏は十分世界観が伝わったという。会場の映像展示は、印刷データを再利用してプログラムによる自動生成で反復の無いコラージュ作品。作家の思考方法が感じられる。ほぼ全作品が作家のウェブサイトで見られる中、今回の展示は展覧会でこそ感じられる作品を通じた作家への信頼感とリアルなソウルのグラフィックデザインシーンだと原田氏は語った。



※ここで紹介しているギャラリートークは
公益財団法人DNP文化振興財団の
公式YouTubeページで視聴いただけます。
〔「食のグラフィックデザイン 学芸員解説」は除く〕

Poems of Eternal Life – The World of Kazumasa Nagai's Images and Words (posted on YouTube)

Participants : Kazumasa Nagai + Kazufumi Nagai + Koichi Kawajiri

ggg's very first online Gallery Talk, held in lieu of a public event due to the Covid-19 pandemic, linked up Kazumasa Nagai and Kazufumi Nagai, his son, for a discussion on design and artistic expression, with editor Koichi Kawajiri serving as moderator. The talk opened with Kazufumi Nagai critiquing the featured artist's "LIFE" series from his unique perspective. "It's amazing how my father, now 91, has continuously kept up his creative work, changing his style of expression year after year, his artistic vigor never waning and his work never falling out of step with the times." Mr. Kawajiri then asked Mr. Nagai the source of his creative energy. "As I've gotten older," the ever-youthful designer replied, "I've come to believe that the mission of every artist is to give people the courage to live. I want to pay back the world for all it has given me, and it's this desire that underlies my artistic creativity." Mr. Nagai says that, for him, creation begins with a resonant appreciation of Nature, of life; and design is "the language that forms connections between culture, society and economics." This talk session generated an array of richly suggestive "words" for designers living in the current era of turmoil.



SURVIVE – EIKO ISHIOKA ① (posted on YouTube)

Participants : Koichi Kawajiri + Eishi Kitazawa

This Gallery Talk, the first of four held in conjunction with this exhibition, took place in the gallery and was streamed online. The participants were Koichi Kawajiri, author of the critical biography TIMELESS: Eiko Ishioka and Her Times who co-directed the exhibition with Ryoko Ishioka, and Eishi Kitazawa of the DNP Foundation for Cultural Promotion. While critiquing her renowned graphic artworks and advertising posters for Shiseido, PARCO and others, they discussed Eiko's work, 10 years after her death, retains its jewel-like brilliance, and her tremendous appeal as a human being. Why hold an exhibition on Eiko Ishioka now? What message is imbued in the exhibition title, "SURVIVE"? Mr. Kawajiri and Mr. Kitazawa, who have both been involved in ggg's exhibitions for many years, revealed how this exhibition came about, adding some little unknown episode. "In a nutshell, this exhibition is the 'Eiko Ishioka Theater'," Mr. Kawajiri said. "From the visuals and words on display and Eiko's voice heard inside the gallery, I hope visitors will feel her creative energy to the core." "One of the major roles of ggg, I believe, is to pay homage to designers who have departed," Mr. Kitazawa added. "We must properly convey to the younger generations the outstanding work performed by giants of their craft like Eiko."



SURVIVE – EIKO ISHIOKA ④ (posted on YouTube)

Participants: Daisuke Iga + Koichi Kosugi + Koichi Kawajiri

The guests for this fourth and final Gallery Talk in the series were stylist Daisuke Iga and art director Koichi Kosugi. They engaged in a lively discussion on what it takes to create a new era. Mr. Kosugi observed, "I thought I knew everything there was to know about Eiko Ishioka's core works, but when I saw her posters with my own eyes, their impact was altogether different. In them I sensed power and intensity derived from a compression of a variety of design essences, and even a vital energy." Mr. Iga stated that "holding this exhibition in Tokyo during the coronavirus pandemic was nothing less than 'epoch-making'." He added, "The three concepts that formed Eiko's mantra of design – timeless, originality and revolutionary – and her theme of 'survival' struck deep within me with overwhelming reality. I realized that it's necessary for us to each have our own 'killer' technique and personal signature." Mr. Kawajiri closed the session with the following comment on the exhibition's four-month run: "In this exhibition I wanted to ask in what form we can carry on Eiko Ishioka's DNA, and I think we succeeded in putting together an exhibition that, rather than just being a 'retrospective' or 'appreciation' of her works, will inspire others to take action."



Graphic Design of Food Curator's Commentary (posted on YouTube)

Speaker: Takako Morizaki, Curator, CCGA (Center for Contemporary Graphic Art)

Ms. Morizaki discussed what she sought to convey from the works selected from the DNP Graphic Design Archives collection on the theme of "food". She commented on three of the works and their designers. The first was an advertisement for caramel candy by Tadashi Ohashi. Created early in the postwar era, when the sale of candy and confections was freed from wartime sumptuary constraints, it features a modern geometric pattern design that suggests the arrival of a new era. The second work, by Masuteru Aoba, wasn't an advertisement but rather a visual with written copy directly expressing an anti-war message. The text on the atomic bombing of Hiroshima, written in 10 languages, conveys his stance toward social design, his aim to make the whole world think about this critical issue. The third work was a poster created by Shigeo Fukuda. The work employs trompe-l'oeil, or trick art, and is filled with humor, wit and irony. The designer uses motifs familiar to everyone conveying his message worldwide. Ms. Morizaki hoped that the video would inspire visitors to come to the gallery and see many works.



SURVIVE – EIKO ISHIOKA ② (posted on YouTube)

Participants : Ryoichi Enomoto + Koichi Kawajiri

For this second session of "Let's talk about Eiko!" Koichi Kawajiri led a discussion with guest participant Ryoichi Enomoto. Mr. Enomoto is an art director who collaborated with Eiko Ishioka on a number of projects, including his participation as copywriter for PARCO's grand opening campaign in Kichijoji in 1980. He is also the founder of the legendary sub-culture magazine Bikkuri House, and he spoke in depth about PARCO and Shibuya's culture and about his experiences working with Ms. Ishioka. He stressed how significant it is to look back over the work performed by Eiko Ishioka, who traveled the world like a nomad and worked creatively across all borders. "The 'survival' alluded to in the exhibition title isn't just surviving within the realm of professional designers," he said. "I think it's Eiko's way of asking what designers need to do to remain true to themselves and not get tainted by the world at large or the times in which they live. She may have been among the first to harbor doubts concerning the sustainability of the advertising and design professions in the world of the future."



SURVIVE – EIKO ISHIOKA ③ (posted on YouTube)

Participants : Tomoe Shinohara + Hiroaki Nagai + Koichi Kawajiri

This exhibition's third Gallery Talk featured two guests: Hiroaki Nagai, who undertook the exhibition's design, and designer / artist Tomoe Shinohara. Mr. Nagai spoke of "printing" in the days before desktop publishing (DTP), when hand-drawing and type-setting technologies were requisite, and he explained the attention to detail and awesome power of Eiko's graphic works created in those days so that they would be appreciated by the younger generation, too. "An art director functions like the master carpenter at a building site," he suggested. "Eiko was an outstanding leader who took responsibility for all work processes, inspired people of superlative talent, and continuously produced works of crisp sharpness." Tomoe Shinohara introduced the works that she had shown at "SHIKAKU," her very first solo exhibition, and spoke of her strong aspiration and determination to follow in Eiko's footsteps as a member of the succeeding generation. "I'd long respected Eiko's works, but I thought she was way out of my league," she explained. "Seeing this exhibition made me realize once again how much I love design, and from it I've gained the courage to believe that if every member of my team is driven to improve themselves, by pooling our strengths, it just might be possible to reach close to the heights attained by Eiko."



GRAPHIC WEST 9: Sulki & Min Exhibition Commentary (posted on YouTube)

Participants : Sulki & Min + Tetsuya Goto +
Hiroshi Nishiyama (NO ARCHITECTS)

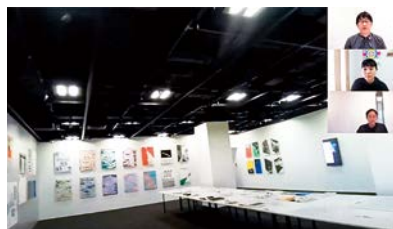
Sulki & Min explained their approach to their exhibition. Whereas their previous solo exhibitions specific themes have delved deeply into for this exhibition they were presenting a broad overview of all their works created since 2005, as a way for people to get to know them. The reason they used a spreadsheet motif as the key visual in the exhibition's publicity materials, was their projects were always carried out using such spreadsheets. Followed by curator Tetsuya Goto, who has been on close terms with the duo since 2011, to foster deeper understanding, he had added supplementary materials in the gallery: explanations of individual works and the feature that appeared in "IDEA" magazine. Hiroshi Nishiyama of NO ARCHITECTS, who was in charge of the exhibition design, spoke on how he had reproduced on galvalume steel sheets the white noise that Sulki & Min use in the background of their digital works, favoring a focus on presentation over display. Mr. Nishiyama said he was able to emphasize the works rather than the artists. Sulki & Min commented that they were able to achieve a very satisfactory exhibition thanks to the relationship of mutual trust achieved through online communication in the planning phase.



GRAPHIC WEST 9: Sulki & Min Online Gallery Tour: "Yuma Harada's Perspective" (posted on YouTube)

Participants : Yuma Harada (principal of UMA/design farm) +
Madoka Nishi (editor-in-chief of "IDEA" magazine) +
Tetsuya Goto (exhibition curator)

This gallery tour was shot from the perspective of Yuma Harada, an Osaka-based graphic designer, using a wearable camera. Curator Tetsuya Goto served as moderator with Mr. Harada and Madoka Nishi as guest commentators watching the recording. The presentation opened with the participants each introducing their exchanges with Sulki & Min to date. Next, while watching the video filmed from Mr. Harada's perspective, they observed the works on display virtually. Mr. Goto continually interspersed his comments as curator. Mr. Harada said that from a chronological arrangement he gets a sense of the transitions in an artist's interest. Of the posters on display, many had been printed on demand in Japan for the exhibition, offering insight into the artists' strong preferences. Ms. Nishi said the artists' worldview was fully conveyed. The video displays were nonrepetitive collages automatically generated by computer program reusing printing data. Mr. Harada remarked that although nearly all the works can be viewed on Sulki & Min's website, the gallery show offered an understanding of Seoul's true graphic design scene and the trust toward these artists that can be sensed only through works in an exhibition setting.



CCGA Print Studio Workshops

CCGA 版画工房ワークショップ

CCGAでは版画教育の拠点としての機能を強化し、地域でのグラフィックアートの普及振興にいっそう貢献するために、小規模ながらも本格的な版画制作を行うことのできる工房を2012年に開設、市民向け版画ワークショップの定期開催を開始した。版画工房にはエッチング用プレス機等のほか、大日本印刷の前身である秀英舎で100年以上前に実際に使われていたアルビオン・プレス（活版用手動平圧印刷機）を再生して設置している。

工房開設以来、さまざまな版種の版画制作ワークショップを毎年数回のペースで開催するとともに、2013年には工房の一般開放を開始した。これは、CCGAでのワークショップ受講などによる版画制作の経験がある方を対象に、毎週土曜日（ワークショップ開講日およびCCGA休館日を除く）に工房を開放して、継続的に版画制作を行えるようにしたものである。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら版画工房は2020年はじめよりワークショップ・一般開放ともに休止した。ワークショップのみ2021年6月に再開したが、すべて元の状態に戻った暁には、グラフィックアートにより深く接する機会を得る場として、地域の皆様にまた活用していただくことを願っている。

In 2012 CCGA opened a studio, small in scale but enabling full-fledged print production, in a quest to strengthen its function as a base for education about printmaking and to contribute further to the promotion of graphic art locally. Since its opening, print workshops open to local citizens have been held here on a regular basis. The studio is equipped with an etching press and other standard equipment as well as a restored Albion press that was actually used more than 100 years ago at Shueisha, the forerunner of Dai Nippon Printing Co., Ltd.

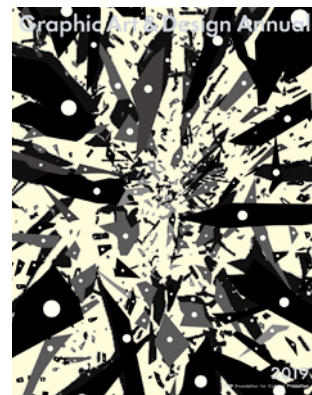
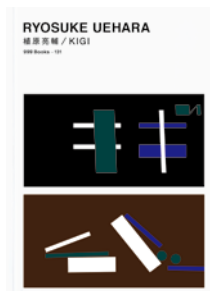
Every year, a number of workshops have been conducted at the studio on various types of printmaking, and starting in 2013 the studio itself was made open for use by the general public. Every Saturday (except when a workshop is being held or CCGA is closed), people who have experience in printmaking through attendance at CCGA's workshops or otherwise are free to use the studio, enabling them to continue their printmaking hobby without interruption.

Regrettably, the workshop program and open use of the print studio were both suspended early in 2020, in order to prevent the spread of the novel coronavirus. The workshop program was resumed in June 2021, and once the situation returns completely to normal, CCGA hopes that the print studio will again be actively used by local citizens as a venue affording them opportunities to become more deeply acquainted with graphic art.



Publications 2020-21

出版活動

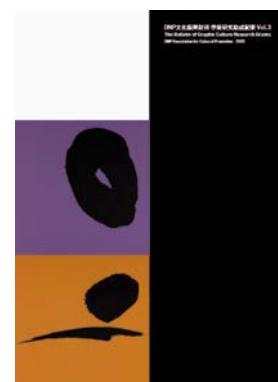


■ Graphic Art & Design Annual 2019



- ggg Books 131 植原亮輔／KIGI
- ggg Books 132 渡邊良重／KIGI
- Eiko Ishioka Survive
- Kazumasa Nagai
(プリモアート®)
- DNP文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.3

- ggg Books 131 Ryosuke Uehara
- ggg Books 132 Yoshie Watanabe
- Eiko Ishioka Survive
- Kazumasa Nagai
(Primo Art)
- The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.3



アーカイブ事業

Archiving

Poster Archives 2020-21

Kijuro Yahagi Archives

矢萩喜從郎 アーカイブ

“切ったら血が出るデザイン”

1980年のワルシャワ国際ポスタービエンナーレで特別賞を受賞し、ポーランドの著名な芸術雑誌の「Projekt」に特集を依頼され、1980年から1984年に、一作品に言葉一つを選び、その言葉から啓発される図像を考え、100種類のポスターを制作したことが、わたしにとってコンセプチュアル・ポスター制作の始動になった。その後、文字のないコンセプチュアル・ポスターを制作して1990年の同ビエンナーレで金賞を受賞し、この種の作品を次々に制作し続け、現在、約300種類になっている。同じコンセプトで、超大判のおびたしい数の写真作品構成、あるいは別のコンセプトで彫刻のインスタレーションを海外のアートビエンナーレで発表していることでも明らかのように、いつしか、全ての作品でコンセプチュアル・アートを制作していると言われることに違和感はなくなっている。

では、わたしはどのような作品制作を目指しているのだろうか。ル・コルビュジエに師事した坂倉順三の所員だった西澤文隆が書いたエッセイで知ったことが、坂倉から直に、切ったら血が出るデザインをしなさい、と言われたと。切ったら血が出るデザインとは、何と名言なのだろうと感じ、わたしもその様な作品を生み出せることができるか、一生、逃げずに向き合うべき課題だと思う。

「歴史的な事実を積み重ねていった結果日本になる」と名言を披露したのは、今日、為政者が公文書破壊等、幾度となく不都合なことに蓋をする行為が跋扈していることを憂え、公文書管理法制度に道を付けた福田康夫元首相。日本で、グラフィックデザインをアーカイブすることも、健やかな日本の未来が訪れる為に責任を持つという重要な意義があること。わたしも、そのアーカイブの片隅に居られると感じ、誇りに思っている。

矢萩喜從郎

Design That Bleeds with a Cut

After I received a Special Prize at the 8th International Poster Biennale in Warsaw in 1980, I was invited to work up a special feature for “Projekt,” a well-known Polish arts magazine. Between 1980 and 1984, I proceeded to create a series of 100 posters each visually inspired by a single word of my own choosing, and this marked the start of my creative work in conceptual posters. Subsequently, I continued to create conceptual posters but without any text, for which I won a Gold Prize at the same biennale in 1990. Since then I have kept to creating works of this kind, and today they number roughly 300 in total. I have also assembled huge numbers of outsize photographs on the same concept as well as sculptural installations on other concepts, which I have shown at art biennales overseas. As this clearly indicates, at some point it became completely natural for *all* of my works to be labeled conceptual art.

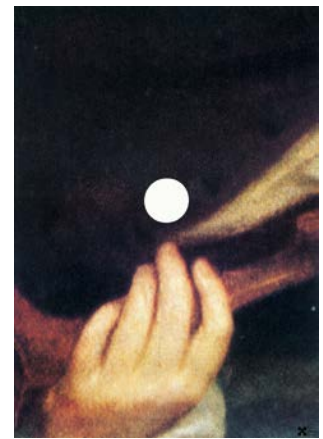
What, then, do I aim for in my creative work? Fumitaka Nishizawa, who worked under Junzo Sakakura, a protégé of Le Corbusier, once wrote that his mentor had advised him to create “design that bleeds with a cut.” What a brilliant statement! So impressed was I by it, I began questioning whether I myself am capable of producing such work, and this became a lifelong challenge from which I have never sought to escape.

Former Prime Minister Yasuo Fukuda once commented, with equal brilliance, that Japan is the end result of its accumulated historical facts. Lamenting today's rampant perpetuation of actions by the nation's politicians to stifle inconvenient truths – for example, by shredding official documents – Fukuda laid the groundwork for establishing the Public Records and Archives Management Act. The archiving of graphic design in Japan too has great significance to fulfill our responsibility to ensure a healthy future for Japan. I am proud to take my place in one small corner of that archive.

Kijuro Yahagi



1980-1984



1988



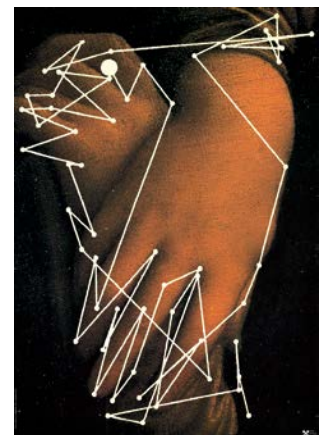
1980-1984



1989



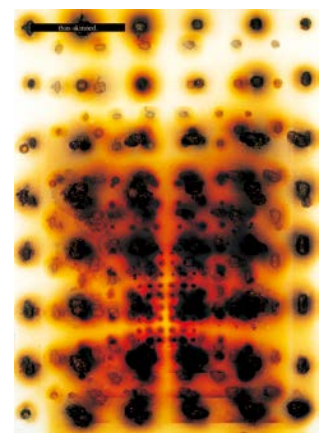
1980-1984



1992



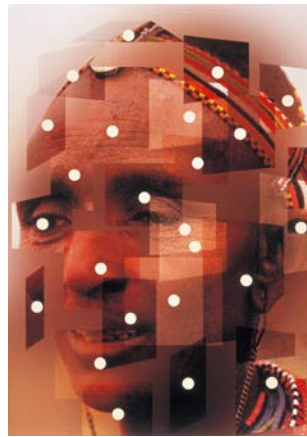
1980-1984



1993



1994



1999



2014



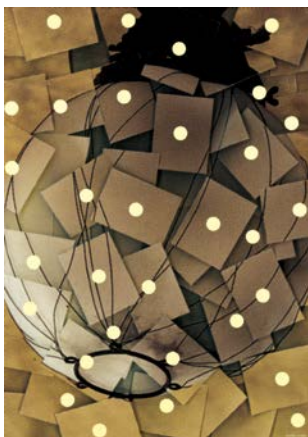
1994



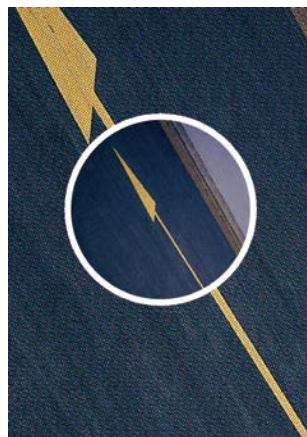
2000



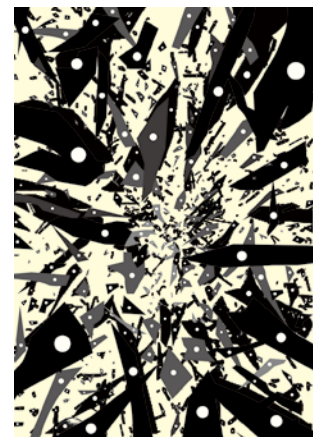
2020



1998



2009



2020



1998



2014



2020

Cooperation in “Eiko Ishioka: Blood, Sweat, and Tears—A Life of Design” Exhibition at Museum of Contemporary Art Tokyo (MOT)

November 14, 2020 – February 14, 2021

企画展「石岡瑛子 血が、汗が、涙がデザインできるか」協力 東京都現代美術館

本展はアートディレクター、デザイナーとして広告をはじめエディトリアル、プロダクト、映画や演劇の衣装など多岐にわたる仕事で世界を舞台に活躍した石岡瑛子の、世界初の大規模な回顧展である。展示はTimeless, Fearless, Borderlessという3つのセクションでその幅広い活動が紹介された。1960～80年代の資生堂、パルコ、角川書店などの広告キャンペーンに始まり、2000年以降のオペラや映画の衣装デザインやオリンピックのユニフォームなど、領域を越え常に新しいことに挑戦し続けた石岡の人生の軌跡をもとめるかのような展示構成が印象的であった。本展は、同時期に開催したギンザ・グラフィック・ギャラリーの石岡瑛子展とともに大変な評判を呼び、若い世代が石岡瑛子の業績を再認識するきっかけにもなった。DNP文化振興財団からは70点以上のポスターを貸与するとともに、2011年5月に行った石岡のインタビュー音源（聞き手：河尻亨一）を提供した。このインタビューは会場内で流され、石岡の熱量を持ったメッセージも大変評判となった。

展覧会名: 石岡瑛子 血が、汗が、涙がデザインできるか

会期: 2020年11月14日～2021年2月14日

会場: 東京都現代美術館 企画展示室 1F / 地下2F

主催: 公益財団法人東京歴史文化財団 東京都現代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛: ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、パルコ

協力: 公益財団法人DNP文化振興財団、劇団四季、資生堂、七彩

助成: オランダ王国大使館

後援: 公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会

This was the world's first large-scale retrospective of Eiko Ishioka, art director and designer who was active worldwide across a broad spectrum of artistic realms, including advertising, editorial design, product design, film and stage costume design, etc. The breadth of her activities was introduced in three sections: “Timeless: Designing the Times”; “Fearless: Designing Encounters”; and “Borderless: Designing the Future.” In whatever area she delved into – starting with advertising campaigns for the likes of Shiseido, Parco and Kadokawa Shoten in the 1960s through 1980s, to costume design for opera and film after 2000, Olympic Games uniforms, etc. – she consistently sought to expand beyond the conventional, and this exhibition was remarkable in tracing back over the various phases of her life and career. Together with the exhibition “EIKO ISHIOKA – SURVIVE” held simultaneously at ginza graphic gallery, this exhibition at MOT was highly acclaimed, and it afforded the younger generation an opportunity to recognize anew her phenomenal achievements. The DNP Foundation for Cultural Promotion loaned more than 70 posters for this event, as well as the audio from an interview (by Koichi Kawajiri) of Eiko Ishioka conducted in May 2011. The interview tape was played in the gallery, and visitors were enthralled by the enthusiasm imbued in her message.

Title: Eiko Ishioka: Blood, Sweat, and Tears – A Life of Design
Period: 14 November 2020 – 14 February 2021

Venue: Museum of Contemporary Art Tokyo Exhibition Gallery 1F / B2F

Organized by: Museum of Contemporary Art Tokyo operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture, The Yomiuri Shimbun, The Japan Association of Art Museums

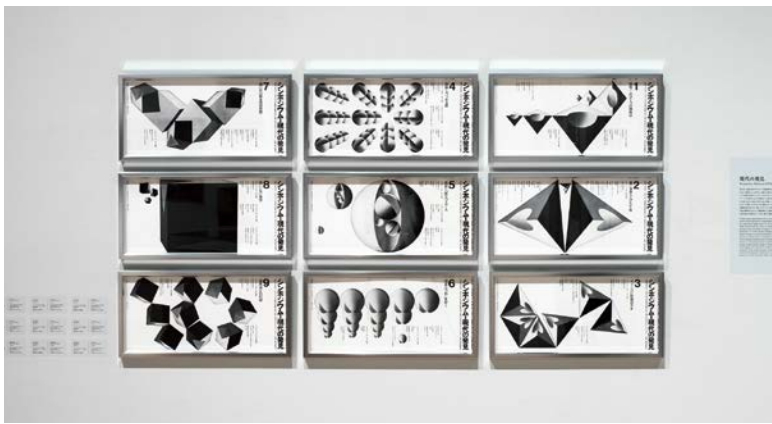
Sponsored by: Lion Corporation, Dai Nippon Printing Co., Ltd., Sompo Japan Insurance Inc., Nippon Television Network Corporation, Parco Co., Ltd.

In Cooperation with: DNP Foundation for Cultural Promotion, Shiki Theatre Company, Shiseido Co., Ltd., Nanasai Co., Ltd.

Supported by: Embassy of the Kingdom of the Netherlands in Tokyo

Endorsed by: Japan Graphic Designers Association Inc.





撮影 森田兼次 Photo Kenji Morita

DNP Graphic Design Archives

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ

◆ポスターアーカイブ (2021年3月現在)

- ① 収蔵作家：238名 (国内作家120名、海外作家118名)
- ② 総点数：15,807点
- ③ 2020年4月～2021年3月の受入れ状況：

<日本>	
・矢萩 喜從郎	608点
・渡邊 良重	1点
計	
609点	
<海外>	
・スルギ&ミン	10点
計	
10点	

◆アーカイブ作品貸出

- ① 21_21 DESIGN SIGHT
「マル秘展 めったに見られないデザイナー達の原画」
2019年11月22日～2020年9月22日
※新型コロナウイルス感染拡大防止のための
中断をはさんで会期延長
永井一正作品の原画類 16点 (6作品分)
- ② 東京都現代美術館
「石岡瑛子 血が、汗が、涙がデザインできるか」
2020年11月14日～2021年2月14日
石岡瑛子作品 73点
- ③ 島根県立石見美術館
「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」
2021年3月20日～5月16日
※終了後、国立新美術館へ巡回
石岡瑛子作品 2点
山口はるみ作品 1点

◆Poster Archives (as of March 2021)

- ① Artists represented: 238
(120 domestic, 118 from overseas)
- ② Items in collection: 15,807
- ③ Items received between April 2020 and March 2021

< Domestic >	
・ Kijuro Yahagi	608
・ Yoshie Watanabe	1
Total	
609	
< Overseas >	
・ Sulki & Min	10
Total	
10	

◆Loans of Archived Works

- ① Secret Source of Inspiration:
Designers' Hidden Sketches and Mockups
Exhibition at 21_21 DESIGN SIGHT
November 22, 2019 – September 22, 2020
(Extended until September 22)
* Extension of the session after the suspension
due to prevent the spread of COVID-19.
16 Kazumasa Nagai original sketches (for the 6 works)
- ② Eiko Ishioka: Blood, Sweat, and Tears—A Life of Design
Exhibition at the Museum of Contemporary Art Tokyo
November 14, 2020 – February 14, 2021
73 Eiko Ishioka works
- ③ Fashion in Japan 1945-2020
Exhibition at Iwami Art Museum
March 20 – May 16, 2021
* After the exhibition,
traveled to the National Art Center, Tokyo.
2 Eiko Ishioka works
1 Harumi Yamaguchi work

国際交流事業

International Exchange

Joint Planning “Giappone: Disegno e Design. Dai libri illustrati Meiji ai manifesti d’arte contemporanea” Exhibition at Castello di Masnago, Musei Civici di Varese, Italy

June 26, 2021 – September 11, 2022

企画展「日本：デッサンとデザイン 明治の挿絵本から現代美術としてのポスターまで」共同企画



イタリアのロンバルディア州のヴァレーゼ市が、ミラノ大学、DNP文化振興財団、京都の出版社 芸艸堂と共同企画した展覧会。

展覧会は2部構成。1部では、ヴァレーゼ市立図書館のコレクションである、明治時代に芸艸堂が出版した挿絵本（木版画本）の数々を展示。これらは最近発見され、研究されたもので、神坂雪佳（1866-1942）、古谷紅麟（1875-1910）、幸野樸嶺（1844-1895）等による作品が中心となっている。2部では、DNP文化振興財団のポスターアーカイブと出展作家やご遺族の協力のもと、日本の古典美術（特に琳派や浮世絵）や1部で展示されている作家たちの流れを汲む、田中一光（20世紀琳派の代表）をはじめ、永井一正、横尾忠則等、日本を代表する16名のグラフィックデザイナーのポスター作品64点が展示されている。なお、作品は全て、ヴァレーゼ市とミラノ大学へ寄贈された。

本展は、新型コロナウイルス拡大の影響により、展覧会は約1年延期されていたが、本年6月26日のオープニングセレモニーには、ヴァレーゼ市長ダビデ・ガリンベルティ氏をはじめ、在ミラノ日本領事館の総領事雨宮雄治氏他がご出席され、イタリアと日本との密なる文化交流が再開された。

会 場：ヴァレーゼ市マサナゴ城現代美術館

主 催：ヴァレーゼ市、ミラノ大学文化遺産環境学部

共 催：イタリア文化遺産庁、在ミラノ日本総領事館、日本文化会館、イタリア日本研究学会（AISTUGIA）、ヴァレーゼ商工会議所
キュレーター：ロッセッラ・メネガッツ（ミラノ大学東アジア美術史教授）、エリオラ・ランザ（ミラノ大学博士課程）

共同企画：公益財団法人DNP文化振興財団、芸艸堂

出展作家：亀倉雄策、山城隆一、中村誠、永井一正、栗津潔、田中一光、勝井三雄、仲條正義、横尾忠則、小島良平、松永真、佐藤晃一、奥村靉正、葛西薫、新村則人、服部一成（敬称略、年齢順）

日本の美術研究に重要な意味

イタリアでの日本美術研究に大きな貢献

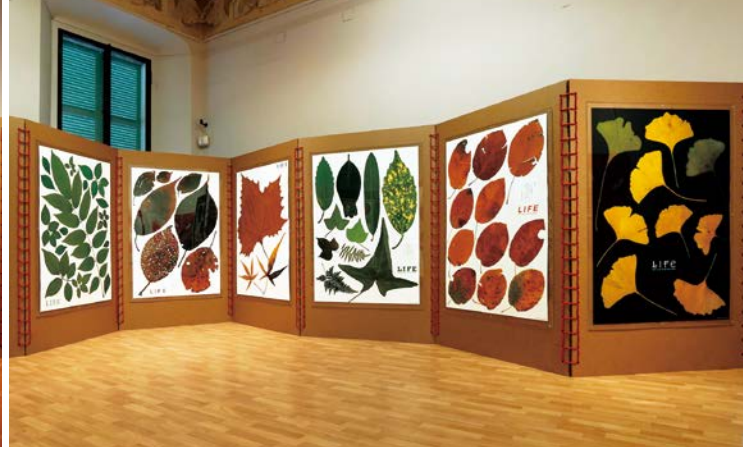
今回、ヴァレーゼでの展覧会は、COVID-19が世界的に蔓延して以降、初めてイタリア共和国内で開催される日本美術に関連する展覧会でした。普段の生活に制限のある中、開催期間の延期等の様々な困難がありましたが、それを乗り越えて開催するという事は、今後のイタリア国内において、日本の美術研究に重要な意味を持つことになることでしょう。ヴァレーゼ市が所蔵する日本の明治時代の挿絵本（デザイン見本帳）を展示することによって、日本のデザインの変貌を

俯瞰して鑑賞することができる、とても貴重な資料の展覧会となっています。本展に展示されている挿絵本は、普段イタリア国内では研究者以外目にすることが稀な資料となっています。日本の伝統的絵画のテーマから図案へ、そしてデザインへ、というように変化していく流れを紹介するコンセプトの企画は、イタリア国内では初めての事です。

また、DNP文化振興財団との共同企画によって選ばれた、日本を代表する16人のグラフィックデザイナーが、伝統というモチーフに対し、どのように取り組み、アプローチしたかを鑑賞することもできます。

DNP文化振興財団、作家の皆様、ご遺族よりご寄贈いただいた16人のポスターは、ヴァレーゼ市、ミラノ大学のアーカイブとして、日本美術及びデザインのための研究成果に大きな影響を与えるであろうと考えています。また、今回の展覧会に新たなメッセージを込めて、8枚のポスターを特別に制作していただいた松永真先生へ、心から感謝いたします。そして、今回ご協力いただいたDNP文化振興財団の北沢永志、田仲文、両名のご協力がなければ、近代の伝統的な図案から現代的なデザインへの変貌を企画展示することができませんでした。改めて心から感謝いたします。

ロッセッラ・メネガッツ



**Important Meaning for Research on Japanese Art,
A Great Contribution to Japanese Art Studies in Italy**
This exhibition in Varese was the first related to Japanese art and culture to be held in Italy since COVID-19 became a global pandemic. Amid the limitations imposed on everyday life, the exhibition faced a variety of difficulties, including postponement of the show itself. But having overcome those obstacles, the exhibition will surely have important meaning for future research on Japanese art and design in Italy.
This exhibition of precious works held in the permanent collection of Varese city – illustrated color woodblock printed books that served as design sample catalogues in Japan during the Meiji Period – enables us to enjoy a sweeping overview of the changes that took place in Japanese zuan-design. The works on display are rare materials normally accessible in Italy only to research scholars. This is the first exhibition in Italy to introduce, on the basis of an accurate study, the evolution of Japanese traditional painting subjects into design illustrations, commonly referred to with the word zuan, and then to contemporary graphic design.

For the first time, 16 graphic designers' posters representative of contemporary Japan - whose works were selected in joint planning with the DNP Foundation for Cultural Promotion - offer us an opportunity to appreciate comparatively how graphic design approached and transformed traditional art motifs into a new language.
The posters by these 16 designers, donated by the DNP Foundation for Cultural Promotion and the artists or their heirs and collected as archives of Varese city and the University of Milan, will surely have a significant impact on our research on Japanese art and design. I also wish to express our heartfelt appreciation to maestro Shin Matsunaga for specially creating 8 significant new posters for this exhibition. Finally, without the kind cooperation provided by Eishi Kitazawa and Aya Tanaka of the DNP Foundation for Cultural Promotion, this exhibition on the evolution from traditional illustrations (zuan) of the modern era to contemporary graphic design would not have been possible. We thank you sincerely once again with friendship.

Rossella Menegazzo

Place: Castello di Masnago, Musei Civici di Varese
Organizers: City of Varese, University of Milan (Department of Cultural Heritage and Environment)
Co-organizers: Ministry of Culture, Consulate General of Japan in Milan, Istituto Giapponese di Cultura, Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi (AISTUGIA), Varese Chamber of Commerce and Industry
Curators: Rossella Menegazzo (Associate Professor of East Asian Archaeology, Art History and Philosophy at University of Milan), Eleonora Lanza (PhD student in Japanese art history at University of Milan)
Joint Planners: DNP Foundation for Cultural Promotion, Unsodo Art Publisher
Featured Artists: Kiyoshi Awazu, Kazunari Hattori, Yusaku Kamekura, Kaoru Kasai, Mitsuo Katsui, Ryohei Kojima, Shin Matsunaga, Kazumasa Nagai, Masayoshi Nakajo, Makoto Nakamura, Yukimasa Okumura, Koichi Sato, Norito Shinmura, Ikko Tanaka, Ryuichi Yamashiro, Tadanori Yokoo

Online Talk on Japanese Sports Posters

DNP Ginza Building, 3rd Floor Conference Room

September 2, 2020

「日本のスポーツポスター」に関するオンライン講演会 DNP銀座ビル3F会議室

国際交流基金ロンドン日本文化センターより、日本の様々な芸能や文化をオンラインで紹介する活動の一環として、「日本の優れたグラフィックデザインとスポーツの表現」に焦点をあてた講演依頼があった。

スポーツの高揚感や迫力、ワクワク感をいかに一枚の紙面に表現してきたのか？東京2020オリンピック・パラリンピック開催は、一年後に延期となったが、この講演会では、財団スタッフが、歴史的な名作となった1964年の「東京オリンピックポスター」(亀倉雄策)を皮切りに、昭和から令和にかけて生みだされてきたスポーツに関わる優れた日本のポスター作品約60点を厳選し、その時代背景や特徴を語った。

講演会申し込み数は、425名、当日参加人数は209名(24歳以下の参加者:27.6%)。概ね高評価を得、参加者の満足度は94.4%。オンラインイベントに参加した理由に、日本のグラフィックデザインへの興味が76.1%、日本の文化への興味から79%という結果となった(アンケート回答者:110名)。*参加申し込みは、イギリスのほか、イタリア、カナダ、オーストラリアからもあった。

講演タイトル: 動きの感覚を呼び起こすー

日本のグラフィックデザイナーとスポーツポスター

開催日時: 2020年9月2日(水) 20:00-21:15

(イギリス時間:12:00-13:15)

開催方法: ZOOM

講演者: 北沢永志 (DNP文化振興財団)

サラ・ティーズリー (元王立美術院教授)

司会: 竹川純子 (国際交流基金ロンドン文化センター)

主催: 国際交流基金ロンドン日本文化センター

協力: 公益財団法人DNP文化振興財団

This online talk, focused on Japan's outstanding sports-related graphics, came about at the request of The Japan Foundation, London, as part of its activities introducing Japanese arts and culture online.

How have Japanese graphic designers historically expressed the thrill and excitement and powerful intensity of sports on a single sheet of paper? Though the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games were postponed by a year, for this online talk in September 2020 a DNP Foundation staff member gleaned some 60 outstanding Japanese posters related to sports produced from Showa through Reiwa, starting with Yusaku Kamekura's masterpieces created for the Tokyo 1964 Olympics. He spoke of the various posters' historical contexts and what made each so special.

In all, 425 people applied to participate, including applications from the UK, Italy, Canada and Australia. Ultimately 209 took part in the talk, 27.6% under the age of 24. Overall, the event received high marks, with a level of participant satisfaction of 94.4%. In response to a follow-up questionnaire (110 respondents), 76.1% said they had participated out of interest in Japanese graphic design, and 79% out of interest in Japanese culture.

Title: "Conjuring a Sense of Movement –
Japanese Graphic Designers and Sports Posters"

Date & Time: Wed, September 2, 2020 20:00 – 21:15 JST
(12:00 – 13:15 BST)

Platform: Zoom

Speakers: Eishi Kitazawa (DNP Foundation for Cultural Promotion)
Dr. Sarah Teasley (former Professor at the Royal College of Art)

Moderator: Junko Takekawa (The Japan Foundation, London)

Organizer: The Japan Foundation, London

Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion



写真 国際交流基金ロンドン文化日本文化センター提供 Photos courtesy of The Japan Foundation, London

研究助成事業

Research Grants

Graphic Culture Research Grants

グラフィック文化に関する学術研究助成

2020年度、DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、国内48件、海外4件、計52件の応募があった。コロナ禍で研究の見通しがつきにくい中、多くの応募があったことは、大変喜ばしく思う。

今年度から研究助成対象期間をよりわかりやすくするため、年単位（1月1日～12月31日、最大2年間）に変更した。審査は例年どおり、書類審査で行う一次審査と審査委員が一堂に会する二次審査の二段階で行った。討議の結果、グラフィックに関わる幅広いテーマを対象とするA部門で10件、アーカイブをテーマとするB部門で2件、計12件を本年度の新規採択研究に選出した。また、2019年度採択研究のうち継続助成希望のあった11件については、中間報告書にもとづく審査の結果、すべての継続助成が承認された。採択された研究者の皆さまには、研究が充実したものとなり、有意義な成果の発表を聞けることを期待している。

また、2019年度と2018年度の採択研究者について、コロナ禍による研究遂行の大幅な遅れを考慮し、2000年6月に臨時開催した審査委員会において、助成期間を約1年延長する特例措置を決定した。

In 2020, the DNP Foundation for Cultural Promotion research grants program attracted 52 applications, including 48 from Japan and 4 overseas. We are delighted to have received so many applications, as the COVID-19 pandemic has made that difficult to predict the prospects for research.

This year, the research grant period was changed to a yearly basis (January 1 to December 31, maximum two years) to make it easier to understand.

As in previous years, the grant winners for 2020 were decided in a two-part screening process; The first part evaluates the application documents. The second part was a final evaluation session attended by the complete judging panel.

After discussions, ultimately, the judges selected a total of 12 research topics to receive new grant awards: 10 in Category A, encompassing a broad array of research topics relating to graphic design or graphic art, and 2 in Category B concerning archives. In addition, 11 of the grant winners of 2019 had requested the continuation of support for a second year. After a review of these interim reports, the judges approved ongoing assistance for all 11.

Furthermore, the significant delays in the execution of research due to the COVID-19 pandemic, a particular measure was decided at an extraordinary meeting of the Review Committee held in June 2000 to extend the grants by approximately one year for the researchers selected 2019 and 2018.

2020年度募集要項

- A部門 グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究
- B部門 グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究
- 助成対象 大学、美術館等の研究機関に所属する研究者（大学院修士課程在籍者以上）、またはそれに準じる研究実績のある者（大学教授または美術館館長の推薦のある者）
- 助成金額 1件につき上限50万円
- 助成期間 2021年1月1日～2021年12月31日まで（1回を限度に次年度に継続研究が可）
- 申請方法 所定様式の申請書を郵送とメール
- 申請期間 2020年4月1日～6月17日まで

Overview of the 2020 Grant Program

Category A	Research on graphic design or graphic art in general
Category B	Research on graphic culture-related archives
Eligibility	Scholars affiliated with research institutions (universities, art museums, etc.) or individuals having corresponding research credentials
Grant amount	Maximum 500,000 yen
Grant period	January 1, 2021, to December 31, 2021. (Grants are awarded on an annual basis, with extension for a second year possible, but one time only.)
Application method	Designated application form, to be submitted by regular post and e-mail.
Application period	April 1 to June 17, 2020



応募件数

	国内	海外	計
A部門	37	2	39
B部門	11	2	13
計	48	4	52

Number of Applications

	Japan	Overseas	Total
Category A	37	2	39
Category B	11	2	13
Total	48	4	52

2020年度 採択研究(12件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	16世紀にキリスト教宣教師がもたらした銅版画の役割	蟬川 順子	関西大学 東西学術研究所 客員研究員	400,000円
A	戦後フランスの複製技術による芸術の共有化に関する研究 —フォートリエの「複数原画」を手掛かりに	木水 千里	早稲田大学 助教	500,000円
A	チェッコリ絵における逆遠近法の解釈と、 その造形的研究に基づくデザイン展開	林 東煥	九州大学大学院 芸術工学府 大学院博士 後期課程	400,000円
A	マイノリティ文化の越境とそのグラフィックデザイン資源化過程 —日本における中国ナシ族のトンパ象形文字	高 茜	中国雲南芸術学院 教授	500,000円
A	近代日本における〈学校用民間教育掛図〉の図像学的研究	牧野 由理	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授	500,000円
A	沖縄写真史における基礎的研究	仲嶺 絵里奈	沖縄県立芸術大学 非常勤講師	500,000円
A	間戦期グラフィック文化としてのグラフ映画： 横浜シネマ、小西六、伴野商店の小型映画戦略の国際的な位置づけ	小川 翔太	名古屋大学 准教授	500,000円
A	戦後日本のデザインにおける勝負の国際的役割	碓井 麻央	富山県美術館 学芸員	500,000円
A	百貨店における生活の表象とグラフィック： 日本橋高島屋の海外商品展(1954-65)を中心に	菊地 尊也	東北大学 博士後期課程	250,000円
A	牧野文庫コレクションにみる日本のボタニカルアート研究 —江戸時代の植物画と牧野富太郎植物解剖図の造形特徴比較—	大友 邦子	筑波大学 准教授	400,000円
B	金属活字における平仮名・片仮名の字形一覧の作成と研究	石崎 康子	横浜市歴史博物館 主任学芸員	400,000円
B	《原爆の図》をめぐるグラフィック文化／受容史に関する調査研究	岡村 幸宣	公益財団法人 原爆の図丸木美術館 学芸員	400,000円

2020 Selected Research Topics

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	The Functions of the Engravings brought to Japan by Christian Missionaries in the 16th Century	Junko NINAGAWA	Visiting Researcher, The Institute of Oriental and Occidental Studies, Kansai University	400,000
A	A study on the universalization of art through mechanical reproduction in post-war France: from the point of view of Fautrierr's "Les Originaux Multiples".	Chisato KIMIZU	Assistant Professor, Waseda University	500,000
A	A study on the interpretation of the reverse perspective method of Chaekgeori painting and the development of design based on its formative research	Donghwan IM	Graduate Student Doctor's Cours, Graduate School of Design, Kyushu University	400,000
A	Minority culture cross-border and its graphic design resource recycling process: The Tompa Hieroglyph of Naxi group of China in Japan	Qian GAO	Professor, Yunnan Arts University, China	500,000
A	Iconography on Private Company Wall Charts for Schools in Modern Japan	Yuri MAKINO	Associate Professor, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University	500,000
A	Basic study in the History of Okinawan Photography	Erina NAKAMINE	Part-time lecturer, Okinawa Prefectural University of Arts	500,000
A	Re-examination of "Graph Film" as Interwar Japan's Graphic Culture: Internationally Situating Small-gauge Film Programs led by Yokohama Cinema, Konishiroku, and Banno Shoten	Shota OGAWA	Associate Professor, Nagoya University	500,000
A	Masaru Katzmie's Role for Japanese Design after World War II	Mao USUI	Associate Curator, Toyama Prefectural Museum of Art and Design	500,000
A	Representations of Life and Graphics in Japanese Department Stores: Focusing on the Foreign Product Exhibitions of Nihonbashi Takashimaya in Tokyo, 1954-65	Tatsuya KIKUCHI	Doctoral Program, Tohoku University	250,000
A	Japanese Botanical Art Research in Makino Bunko Collection -Comparison of Drawing Features between Botanical arts in the Edo Period and Tomitaro MAKINO's Botanical Scientific Illustration-	Kuniko OTOMO	Assistant Professor, University of Tsukuba	400,000
B	A Study on the List of Hiragana and Katakana Characters in Metal Typefaces.	Yasuko ISHIZAKI	Senior Curator, Yokohama History Museum	400,000
B	The Hiroshima Panels: Research on the graphic culture / history of acceptance	Yukinori OKAMURA	Curator, Maruki Gallery For The Hiroshima Panels	400,000

2019年度 採択研究継続助成（11件）

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	患者・市民向けがん情報提供における効果的な メディカルイラストレーションの作成・活用に向けた大規模アンケート調査	原本 万紀子	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授	500,000円
A	1980年代におけるイラストレーターの社会的立ち位置と イラストレーション言説の恣意性をめぐる研究	塚田 優	多摩美術大学 油画研究室 助手	400,000円
A	都市空間に刻まれるグラフィックス文化：シーン街区の言語景観に関する研究	池田 真利子	筑波大学 助教	380,000円
A	日本近代石版画研究発展のための亀井至一・竹二郎研究	中山 恵理	郡山市立美術館 学芸員	200,000円
A	ペーパー・ギャラリー（誌上画廊）：パブリケーション・アートを通じた 日米交流について	廣 李果	オクシデンタル・カレッジ 助教授	380,000円
A	杉浦非水の戦争疎開資料に関する調査研究	折井 貴恵	川越市立美術館 学芸員	390,000円
A	日本の写真黎明期におけるカロタイプとアンプロタイプの実践にみる 写真の複製性にたいする認識	安藤 千穂子	京都工芸繊維大学 博士後期課程	500,000円
A	20世紀前半の日本・ドイツにおける文字改革運動の経済史的研究 —カナモジカイとパウハウスを手がかりに—	川嶋 稔哉	ペンシルヴェニア大学 博士課程大学院生	500,000円
A	第二次世界大戦後のイタリアのグラフィック・デザイナーと社会： アルベ・スタインレルに関する基礎的研究	太田 岳人	千葉大学 文学部 非常勤講師	500,000円
B	民間所在アーカイブズにおける写真の公開・活用体制の構築 —女性・子どもを記録した写真家を対象に—	阿久津 美紀	目白大学 人間学部 児童教育学科 助教	500,000円
B	粟津潔アーカイブにおけるポスター類画像データ公開と著作権対応について	石黒 礼子	金沢21世紀美術館 アーキビスト	500,000円

2020 Continuation Grants (2019 Selected Research Topics)

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Large-scale questionnaire survey for the creation and utilization of effective medical illustrations in providing cancer information to citizens	Makiko HARAGI	Associate Professor, School of Health and Social Services, Department of Health Sciences, Saitama Prefectural University	500,000
A	A study of the social position of illustrators and the arbitrary illustration discourse of the 1980s	Yutaka TSUKADA	Teaching Associate, Department of Painting (Oil Painting), Tama Art University	400,000
A	Graphic Culture in Urban Space: Research on Linguistic Landscapes in Scene Districts	Mariko IKEDA	Assistant Professor, Faculty of Art and Design, University of Tsukuba	380,000
A	Research on the Works of Kamei Brothers (Shiichi/Takejiro) for the Advanced Studies of the Lithography in Modern Japan	Eri NAKAYAMA	Curator, Koriyama City Museum of Art	200,000
A	Paper Gallery: Japan-U.S. Exchanges through Publication-Based Art	Rika HIRO	Assistant Professor, Occidental College	380,000
A	Study related to Sugiura Hisui's Wartime Evacuation in Kawagoe	Takae ORII	Group Manager, Kawagoe City Art Museum	390,000
A	Study on the Understanding of Duplication in the Practice of Calotype and Ambrotype in the Dawn of Japanese Photography	Chihoko ANDO	Doctoral Student, Kyoto Institute of Technology	500,000
A	An economic historical study of script reform movements in early twentieth-century Japan and Germany	Toshiki KAWASHIMA	Ph.D. candidate, University of Pennsylvania	500,000
A	Graphic designer and society in Italy after the Second World War: a study on Albe Steiner	Taketo OHTA	Part-time Lecturer, Chiba University	500,000
B	Designing Policies and Guidelines to Enable Photographs in Private Archives to be Used by the Public: A Case Study of Photographers who Took Pictures of Women and Children	Miki AKUTSU	Assistant Professor, Department of Childhood Education and Welfare, Meiji University	500,000
B	Copyright process and procedures of the poster images open to the public in AWAZU Kiyoshi Archive	Reiko ISHIGURO	Archivist, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa	500,000

研究成果報告会

2020年11月28日(土)14時～16時、研究成果報告会を開催した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにオンラインでの開催となった。
当日は、2020年3月末で助成期間を満了した採択研究者12名のうち5名が研究成果報告を報告し、計58名が参加した。

DNP文化振興財団学術研究助成紀要

『DNP文化振興財団学術研究助成紀要 Vol.3』は、2020年までに助成期間が終了した12名の採択研究者の成果論文を収録。また、2019年12月13日(金)に開催した、パウハウス100周年記念イベント「アフター・ザ・パウハウス：ニュー・パウハウスとブラック・マウンテン・カレッジ」の講演録を掲載した。紀要は、国立国会図書館、東京文化財研究所をはじめ、全国の大学図書館、美術館等へ献本した。また成果論文の要旨を日英2か国語で、当財団ホームページに掲載した。

Research Results Presentations

The Research Results Presentation was held on Saturday, 28 November 2020. This year, to prevent the spread of the COVID-19 infection, the meeting was held online.
On the day, five researchers whose grant period expired at the end of March 2020 reported their research results, and a total of 58 people attended.

The Bulletin of Graphic Culture Research Grants

The Bulletin of Graphic Culture Research Grants Vol.3 is a collection of research papers by 12 researchers whose grants have been completed by 2020. It also includes the Bauhaus centenary event "After the Bauhaus: New Bauhaus and Black Mountain College," held on 13 December 2019. The Bulletin was donated to the National Diet Library, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, university, libraries, and museums throughout Japan. Abstracts of the paper were posted on our foundation's website in two languages: Japanese and English.

Review of ggg 2020-21

ggg 展覧会概要

TDC 2020

会期 = 2020年6月22日 - 8月29日

受賞作家 = ○グランプリ = M/M (Paris) (ミカエル・アムザラグ・マティアス・オーギュスニアック)
○TDC賞 = Underware (アキエム・ヘルムリング・サミ・コルテマキ・パス・ヤコブ)、OK-RM (オリバー・ナイト・ロリー・マクグラス)、高田唯、メイ・シュジ・リエン・チエ・リー・シピン、パノス・ヴァシリウ・マノス・ダスカラキス、リー・シピン・リウ・ユートン ○ブックデザイン賞 = ジョナサン・エリリー・ローレンス・ウェイナー ○タイプデザイン賞 = ビエール・ペイン・ファール
○RGB賞 = カレン・アン・ドナチエ・アンディ・シミオナト ○特別賞 = 井上嗣也、立花文穂
展示概要 = 先端的なタイポグラフィ作品が一堂に会する国際コンペティション「東京TDC賞」(東京タイプディレクターズクラブ)の成果を紹介するTDC展。2019年秋の公募に寄せられた2,783点(国内1,529、海外1,254)の応募作から厳正な審査によって選ばれた「東京TDC賞2020」。受賞12作品をはじめ、ノミネート作品、優秀作品を合わせた約150点のタイポグラフィカルな作品を展示した。また今年は新型コロナウイルス流行による緊急事態宣言のため4月の会期を変更し6月から8月の開催となった。

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2020

Dates = June 22 - August 29, 2020

Award Winners = Grand Prix: M/M (Paris) (Michael Amzalag + Mathias Augustyniak). TDC Prize: Underware (Akiem Helming + Sami Kortemäki + Bas Jacobs), OK-RM (Oliver Knight + Rory McGrath), Yui Takada, Mei Shuzhi + Lian Jie + Li Xibin, Panos Vassiliou + Manos Daskalakis, Li Xibin + Liu Yutong. Book Design Prize: Jonathan Ellery + Lawrence Weiner. Type Design Prize: Pierre Pané-Farré. RGB Prize: Karen ann Donnachie + Andy Simionato. Special Prize: Tsuguya Inoue, Fumio Tachibana.

Exhibition Overview = The 2020 Tokyo Type Directors Club Exhibition introduced the results of an international competition organized by the Tokyo Type Directors Club (TDC) that brought together an array of today's most advanced works of typography. Award winners were selected from a pool of 2,783 open entries submitted starting in autumn 2019: 1,529 from within Japan and 1,254 from overseas. In all, approximately 150 works of typography were on display: not only the 12 award-winning works, but also works that reached the nomination stage as well as other outstanding entries. Because Tokyo was under a state of emergency in response to the Covid-19 pandemic, the exhibition, which normally takes place in April, was held this year from June to August.



Design: Sven Lindhorst-Emme

いきることば つむぐいのち 永井一正の絵と言葉の世界

会期 = 2020年10月9日 - 11月21日

監修 = 永井一史

協力 = 芸術新聞社

映像制作 = 田中良治・金子拓史

(セミトランスペラレント・デザイン)

音楽/音響 = evala (See by Your Ears)

作家略歴 = 1951年東京藝術大学彫刻科中退。

戦後のデザイン創成期から半世紀以上にわたって最前線で活躍する日本グラフィックデザイン界の重鎮。有機的な手描きの線や緻密な点描によって生み出された生命力あふれる動物の姿は、長年見る者の心を揺さぶり続けている。

展示概要 = 一階は永井氏の著書『いきることば つむぐいのち』と『つくることば いきることば』の中から厳選した絵と言葉が浮かび上がる異空間の森を演出、「不思議ないきものたち」と「心に深く語りかける言葉」が交差する幻想的な空間となった。地階では1980年代後半から現在まで、常に変化を遂げながら生み出され続けている「LIFE」シリーズのポスターを映像作品で紹介。音と映像を駆使し、壁一面にポスターの中のいきものたちが生き生きと躍動する世界を作り上げた。

Poems of Eternal Life The World of Kazumasa Nagai's Images and Words

Dates = October 9 - November 21, 2020

Supervision = Kazufumi Nagai

Cooperation = Geijutsu Shinbunsha

Video Production = Ryoji Tanaka, Hirofumi Kaneko

(Semitransparent Design)

Sound Production = evala (See by Your Ears)

Artist Profile = Kazumasa Nagai attended Tokyo National University of Fine Arts and Music (now, Tokyo University of the Arts), studying Sculpture, until 1951. He is one of the titans in the history of Japanese graphic design, his illustrious career spanning from the genesis of design in Japan in the postwar era up to the present day. His signature animals, created with organic handwritten lines and meticulously devised dots, brim with vitality.

Exhibition Overview = The ground floor of the gallery was transformed into an otherworldly forest of images and words gleaned from two of Mr. Nagai's collections: Poems of Life and Poems of Eternal Life. The result was a magical space where his remarkable creatures intersected with words that speak volumes to the heart. The gallery's basement level was dedicated to video presentations of Mr. Nagai's "LIFE" posters. Through use of sound and video, visitors were treated to encounters with the vibrantly alive creatures featured in his many poster graphics.



Design: Kazumasa Nagai

石岡瑛子 グラフィックデザインはサバイブできるか

会期 = 前期: 2020年12月4日 - 2021年1月23日

後期: 2021年2月3日 - 3月19日

監修 = 石岡怜子、河尻亨一

デザイン = 永井裕明 (N.G.inc.)

展示構成 = 中沢仁美 (シーピーケー)

展示映像 = 加藤貴大 (motion graphic director)

+ 熊本直樹 (design director) + EDP graphic works (motion graphic design)

作家略歴 = 東京藝術大学卒。1961年、資生堂宣伝部入社。前田美波里を起用したポスターなどで頭角を現し独立。70年代にはバルコ、角川書店など時代を揺るがす数々のキャンペーンなどを手がける。80年代初頭に活動の拠点をNYに移して以降は、美術及び衣装デザインなど、さらに仕事の領域を広げ、舞台「M. バタフライ」でニューヨーク批評家協会賞、アルバム「TUTU」でグラミー賞、映画「ドラキュラ」でアカデミー賞を受賞。

展示概要 = 石岡氏のデビューから1980年代にニューヨークに渡るまでの、主に日本でのグラフィックデザインの仕事に焦点を当てた。前期(アド・キャンペーン篇)は資生堂やバルコなど広告キャンペーンの名作を中心に、後期(グラフィック・アート篇)は映画や演劇のポスターを

始め、今まであまり見る機会がなかったグラフィック・アート作品なども紹介した。一階のオリジナルの映像作品や、地階で流した石岡氏の生前最後のロングインタビュー音声も注目を集めた。また同時期に東京都現代美術館でも石岡氏の展覧会が開催され、華やかな衣装デザインの仕事など、両会場を合わせて石岡氏の仕事の全貌を振り返ることの出来る充実した内容となった。

Survive - Eiko Ishioka

Dates = First session: December 4, 2020 -

January 23, 2021 / Second session: February 3 -

March 19, 2021

Supervision = Ryoko Ishioka, Koichi Kawajiri

Design = Hiroaki Nagai (N.G.inc.)

Exhibition Composition = Hitomi Nakazawa (CBK

Co., Ltd.)

Exhibition Visuals = Kidai Kato (motion graphic

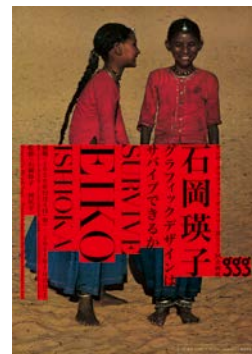
director) + Naoki Kumamoto (design director) +

EDP graphic works (motion graphic design)

Artist Profile = Eiko Ishioka graduated from Tokyo National University of Fine Arts and Music (now, Tokyo University of the Arts). In 1961, she joined the advertising department of Shiseido. After distinguishing herself with posters featuring actress Bibari Maeda, she opened her own agency. In the 1970s, Ms. Ishioka created and produced a string of groundbreaking advertising campaigns for Parco and Kadokawa Shoten, among others. After relocating her base to New York in the early 1980s, she further expanded the scope of her work to include art direction and costume design. Eiko Ishioka received a Grammy Award for Best Recording Package for the Miles Davis album TUTU, and an Academy Award (Oscar) for Best Costume Design for Bram Stoker's Dracula.

Exhibition Overview = The exhibition focused on Eiko Ishioka's graphic works created in Japan from her debut until she relocated to New York in the

1980s. The first session concentrated on her brilliant advertising campaigns for clients such as Shiseido and Parco, while the second session showcased a selection of her rarely seen graphic art pieces, including film and theater posters. Original videos shown on the ground floor, and the audio from her last long interview played in the gallery's lower level, also attracted much attention. Simultaneous with this exhibition at ggg, a show including Ms. Ishioka's eye-catching costume designs was held at the Museum of Contemporary Art Tokyo (MOT). Together, these two events offered an outstanding retrospective of the entirety of Eiko Ishioka's creative output.



Design: Hiroaki Nagai



Design: Hiroaki Nagai

コントラプンクト タイプ

会期＝2020年6月9日－10月3日
後援＝デンマーク王国大使館
作家略歴＝北欧のリーディングデザインエージェンシー。35年の歴史の中で、政府機関、インフラ、NGO、文化団体から大企業に至るまで、多数のブランディングを手がける。世界中のデザイン賞も多数受賞。グラフィックデザインから、空間デザイン、タイポグラフィ、デジタルと多岐にわたるエリアのデザインでブランディングを一貫して手がけている。
2015年には日本法人も設立。機能美がありつつ、心の琴線に触れるデザインを基本とし、国境や文化を超え、時を超えるようなデザインを得意とし、日本の企業のブランディングデザインも多数手がける。
展示概要＝gggから巡回。当初4月開幕予定で準備が完了するも、COVID-19の影響で大幅に会期を見直すこととなった。会場の改良を加えた床のペダルと壁に投影された映像の変化でタイポグラフィを様々な角度から体験する斬新な展示だが、COVID-19の影響により自宅で過ごす時間に世界中からも鑑賞できる様、WEBによるバーチャル展覧会サイトも用意された。

Kontrapunkt Type

Dates = June 9 – October 3, 2020
Support = The Royal Danish Embassy in Japan
Artist Profile = Kontrapunkt is one of Scandinavia's leading design agencies. For 35 years this creative group has created branding for a long list of governmental organizations, infrastructure providers, NGOs, cultural associations and top-tier businesses; and in the process, it has received numerous design awards from all over the world. Kontrapunkt focuses on branding design encompassing such diverse areas as graphic design, spatial design, typography and digital design. In 2015, the company established Kontrapunkt Japan in Tokyo, and it has already performed branding design for a host of Japanese businesses. Kontrapunkt consistently aims for functional beauty integrated with design that will move people. Its strength is in creating designs that transcend country borders, cultures and time.
Exhibition Overview = This exhibition, which was first held at ggg, was originally scheduled for April 2020 and preparations were completed. Ultimately, its opening was delayed due to the COVID-19 pandemic. All-new ways to experience typography were created through the use of interactive pedals on the floor and shifting imagery projected on the gallery walls. For people worldwide who had to stay home during the pandemic, a virtual exhibition site was also prepared for online viewers.



Design: Kontrapunkt

食のグラフィックデザイン

会期＝2020年10月17日－12月19日
展示概要＝CCGAからの巡回。食という生物の根幹をなす活動は、人々の生活の変化とも密接に繋がっている。人々の食への関心の対象は美食やグルメにとどまらず、栄養価、安全性、さらには生産地／生産者、フェア・トレードといった食の取引や流通など多岐に及んできている。これからの生活や未来を探る上にも不可欠だといえよう。ポスターをはじめとするグラフィックデザインには、時代を反映した多くの食の表象が見て取れる。戦後間もないころのチョコレートポスターからは菓子へのあこがれや喜びが、野菜や果物の美しい表現には、大地への畏敬や感謝の念が含まれているかのようである。デザイナーたちが食の力を伝えるべく思い思いに腕をふるったポスターや雑誌に見られる表現を通して、現代の食と人間との関係性を探索する展示となった。

Graphic Design of Food

Dates = October 17 – December 19, 2020
Exhibition Overview = This exhibition was first held at CCGA. Eating is an activity essential to all living beings, and food is closely connected to changes in our lifestyles. As humans, our interest in food is not limited to matters of taste – a quest for delicious or gourmet food – but extends broadly to considerations of nutritional value, safety, and even matters relating to trade and distribution: where and by whom it was produced, whether it is traded fairly, etc. Issues surrounding food thus inevitably affect how humanity will live and thrive in the future. Posters and other graphic works contain numerous representations of food mirroring the times when they were created. Posters of chocolate in the immediate postwar period, for example, reflect the special yearning for and joy derived from sweets in those impoverished times, and works that beautifully depict fruits and vegetables evince a humble respect and appreciation toward the earth that produces them. Through this exhibition of posters and magazine illustrations painstakingly crafted by designers to convey the power of food, visitors were able to probe our relationship with food today.



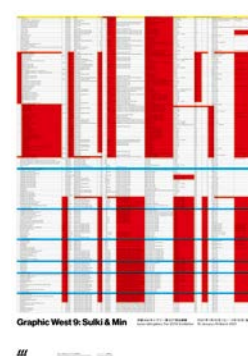
Design: Takuya Tsunashima

Graphic West 9: Sulki & Min

会期＝2021年1月16日－3月19日
作家略歴＝Sulki & Min (チェ・スルギとチェ・ソンミン)は韓国・ソウルを拠点に活躍するグラフィックデザイナー。これまでに国内外の数多くの展覧会に参加。また、作品は世界の名立たる美術館／博物館のパーマナントコレクションに収蔵。スルギは桂園芸術大学で准教授を、ソンミンはソウル市立大学で教授を務める。
展示概要＝東京以西(あるいは以外)のグラフィックデザイナーと協働する実験的展覧会シリーズGRAPHIC WEST。9回目となる今回は、韓国のグラフィックデザイナー・デュオ、Sulki & Minとのコラボレーション。ソウルを拠点にしながら従来の韓国／アジア的なデザインの枠組みを超えた、国際的かつ批評的な活動を行うチェ・スルギとチェ・ミンの思考に迫った。いわゆるクライアントワークだけでなく、展覧会用の作品制作や出版活動、映像・ウェブ制作、翻訳・執筆など、現代のグラフィックデザイナーの関心にあるほとんどすべての領域で高レベルの作品を発表しつづける二人の、活動を始めた2000年代半ばから現在に至るまでの作品を網羅的に紹介。

Graphic West 9: Sulki & Min

Dates = January 16 – March 19, 2021
Artist Profile = Choi Sulki and Choi Sung Min, known professionally as Sulki & Min, are Korean graphic designers based in Seoul. They have participated in numerous exhibitions both at home and abroad, and their works are included in the permanent collections of globally renowned museums and art museums. Sulki is an associate professor at Kaywon University of Art & Design, and Min is a professor at the University of Seoul.
Exhibition Overview = GRAPHIC WEST is a series of experimental exhibitions produced in collaboration with graphic designers who are based westward (or outside) of Tokyo. The ninth event in the series was a collaboration with Sulki & Min, a duo of Korean graphic designers. The exhibition focused on the philosophy of this pair who, although based in Seoul, engage in international, critical activities transcending the framework of conventional Korean and Asian design. They continuously create superlative works in almost all areas that today's graphic designers are interested in: not only works designed for a client, but also works prepared for exhibitions, publishing activities, video/internet production, translation/writing, etc. The exhibition introduced an extensive selection of Sulki & Min's works spanning from the mid-2000s, when they launched their careers, up to the present.



Design: Sulki & Min

Review of CCGA 2020

CCGA 展覧会概要

食のグラフィックデザイン Graphic Design of Food

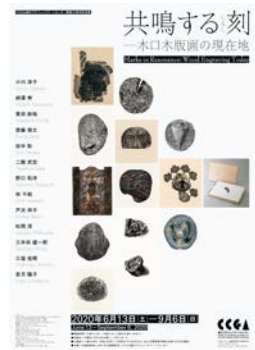
会期＝2020年3月1日－6月28日
Dates＝March 1－June 28, 2020



Design: Takumi Miyagi, Eri Nagamine /
Helvetica Design inc.

共鳴する刻 [しるし]－ 木口木版画の現在地 Marks in Resonance: Wood Engraving Today

会期＝2020年7月4日－9月6日
Dates＝July 4－September 6, 2020



ことばと版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.33 Words and Prints: 33rd Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

会期＝2020年9月12日－12月20日
Dates＝September 12－December 20, 2020



1986

- 3月 1回 大橋正展 野菜のイラストレーション
4月 2回 福田繁雄展 Illustic412
5月 3回 奥村毅正展 燦々彩譜
6月 4回 秋山育展 ピクチャーレリーフ
7月 5回 1986 ADC展
8月 6回 アートワークス展Ⅰ The World is Art.
9月 7回 佐藤晃一展 箱についてー2
10月 8回 栗津潔展 エノタメノジブンカクメイ
11月 9回 追悼・ハーバート・バイヤー展
ヴィジュアル・コミュニケーションのバイオニア
12月 10回 K2 Live!展 ケイを知らずにツーといふな。

1987

- 1月 11回 いろはの絵展 辻修平と
The CA WorkshopによるCGカリグラフィ
2月 12回 花の万博十博覧会のシンボルマーク展
3月 13回 藤嶋正樹展 geometric love
4月 14回 松永真 毎日デザイン賞受賞記念展
5月 15回 安西水丸 二色
6月 16回 ルウ・ドーフスマンとCBSの
クリエイティブワークス展
7月 17回 1987 ADC展
8月 18回 アートワークス展Ⅱ Rest in Peace
9月 19回 五十嵐威輔の立体数字展
10月 20回 青葉益輝プリンティングアート展 Graphically
11月 21回 オルガー・マチスのポスター展 意外性の真実
12月 22回 ミルトン・グレイザー展 イメージの魔術師

1988

- 1月 23回 木村勝パッケージングディレクション展
リングになった箱と動詞になった箱
2月 24回 谷口広樹展 猿の記憶
3月 25回 銀座百点 表紙原画展：創刊400号記念
4月 26回 吉田カツ・描き下し刷り下し展
5月 27回 AGI 88 Tokyo展
世界のグラフィックデザイン
6月 28回 イッセイ・ミヤケのポスター展 I.I.I. at GGG
7月 29回 1988 ADC展
8月 30回 アートワークス展Ⅲ Peace by Piece
9月 31回 情報ポスター・リクルート展
10月 32回 早川良雄「女」原画展
11月 33回 仲條正義展 NAKAJOISH
12月 34回 スタシスのポスターとイラストレーション展
存在の深淵に迫る東欧からのメッセージ

1989

- 1月 35回 ショッピング・バッグ・デザイン
2月 36回 矢萩喜從郎展
3月 37回 Texture 皆川魔鬼子+田原桂一+山岡茂
4月 38回 タナカノリユキ展 Gokan-都市の表層
5月 39回 オトル・アイヒャー展
現代哲学の先駆者 W.フォン・オッカム
6月 40回 操上和美展 Photographis
7月 41回 若尾真一郎展 Wakao Collection
8月 42回 アートワークス展Ⅳ 百花繚乱
9月 43回 永井一正展
10月 44回 Europolia '89 Japan
新作ポスター 12人展
11月 45回 チャールズ S. アンダーソン最新作品展覧会
12月 46回 清原悦志の仕事 オーマージュ

1990

- 1月 47回 秋月繁展 遊びの箱
2月 48回 菊地信義 装幀の本「棚」
3月 49回 原田維夫木版画展 馬
4月 50回 田中一光グラフィックアート植物園

- 5月 51回 山城隆一 猫のいないイラスト展
6月 52回 松井桂三3D展
7月 53回 寺門孝之展 遺伝子導入天使
8月 54回 アートワークス展Ⅴ 東京標本箱1990
9月 55回 田原桂一展 光の香り
10月 56回 浅葉克己の新作展 アジアの文字
11月 57回 伊勢亮也展 イメージのマカロニ
12月 58回 蓬田やすひろ展 ビープル

1991

- 1月 59回 舟橋全二展
2月 60回 太田徹也のダイヤグラム
3月 61回 ペア・アーノルディ展
Posters, Prints and Painting
4月 62回 澤田泰廣展 P2 [Painting×Printing]
5月 63回 新井苑子展 インスピレーションを描く
6月 64回 Communication & Print
新作ポスター 10人展
7月 65回 オブジェ・ブック展
中垣信夫+中垣デザイン事務所
8月 66回 アートワークス展Ⅵ
"Bacteriat" Messages from Dream Island
10-11月 67回 Trans-Art 91
12月 68回 1991 ADC展

1992

- 1月 69回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
2月 70回 立花ハジメ初の個展 ape-MAN
3月 71回 第4回東京TDC展
4月 72回 ヘンリク・トマシェフスキ展
5月 73回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
6月 74回 鹿目尚志展 BOX・XX
7月 75回 中村誠 個展
8月 76回 リック・バリセンティ展
9月 77回 葛西薫展 'AERO'
10月 78回 薙本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展
11月 79回 ボール・ランド展
12月 80回 フロシキ展

1993

- 1月 81回 小島良平展 Tropica Grafica
2月 82回 稲越功一展 アウト・オブ・シーズン
3月 83回 1992 ADC展
4月 84回 第5回東京TDC展
5月 85回 U.G.サトーのポスター展 "Freedom"
6月 86回 オーマージュ 向秀男展
7月 87回 文字からのイマジネーション
8月 88回 現代香港のデザイン8人展
9月 89回 勝井三雄展 光の国：夜と昼の挟間に
10月 90回 1993 Illustration 4
安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦
11月 91回 ソール・パス展
12月 92回 グリーティング・ポップアップ13人展

1994

- 1月 93回 栗津潔展 H²O Earthman
2月 94回 第6回東京TDC展
3月 95回 上條喬久展 Windscape Mindscape
4月 96回 片山利弘展
5月 97回 永井一正展
6月 98回 オランダのグラフィックデザイン100年
7月 99回 1994 ADC展
8-9月 100回 グラフィック・グッス展
デザインからの贈りもの
10月 101回 平野甲賀展 文字の力
10月 102回 九州の九人の九つの個性展

- 11月 102回 亀倉雄策ポスター新作展
12月 103回 原研哉展
12月 特別展「私の好きなもの」
土橋とし子、中村幸子、メグ・ホソキ3人展

1995

- 1月 104回 ブルーノ・ムナーリ展
2月 105回 日本のブックデザイン展1946-95
3月 106回 第7回東京TDC展
4月 107回 ビーター・ブラッティンガ展
5月 108回 田中一光展 人間と文字
6月 109回 ニクラウス・トロックスラーポスター展
7月 110回 1995 ADC展
8月 111回 リズム&ヒューズの
コンピュータグラフィックス展
9月 112回 八木保展 自然観
9月 特別展 世界のグラフィック20人 ギンザ・グラフィック・
ギャラリー 10周年 / ggg Books 20冊記念
10月 113回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー1
11月 114回 戸田正寿 イヤイヤランド展
12月 115回 日本のイラストレーション50年展

1996

- 1月 116回 蓬田やすひろ展 お江戸で、ゆらゆら
2月 117回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー2
3月 118回 NIPPONJIN ポスター 23人展イン・サンバワロ
4月 119回 第8回東京TDC展
5月 120回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
6月 121回 勝岡重夫タイポグラフィックアート展
Departure
7月 122回 1996 ADC展
8月 123回 前田ジョン かみとコンピュータ展
9月 124回 K2・黒田征太郎 / 長友啓典
二脚の椅子展
10月 125回 チェコ・アヴァンギャルド・ブックデザイン
1920s・30s
11月 126回 Graphic Wave 1996
青木克憲 / 佐藤卓 / 山形季央
12月 127回 アラン・ル・ケルネ展

1997

- 1月 128回 下谷二助展 人じん
1月 特別展 CCGA特別展：
ジョセフ・アルバース展
2月 129回 大橋正展 体温をもつ野菜たち
3月 130回 創立10周年記念 東京TDC展
4月 131回 仲條正義〇〇〇展
5月 132回 今日の雑誌8誌による・特集エコロジー展
6月 133回 横尾忠則ポスター展
吉祥招福繁昌描き下ろし!!
7月 134回 1997 ADC展
8月 135回 河原敏文とボリゴン・ピクチュアス展
ロッキー・ホラ商會
9月 136回 メキシコ10人展
10月 137回 Graphic Wave 1997
秋田寛 / 井上里枝 / 福島治
10月 特別展 勝見勝寛 10周年記念展
11月 138回 福田繁雄のポスター 〈Supporter〉
12月 139回 GLOBAL展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

- 1月 140回 鈴木八朗展 8RO ART & AD
2月 141回 オーデルマット+ティッシ
グラフィックデザイン展
3月 142回 スタシス・エイドリグヴィチウス展
4月 143回 1998 TDC展

- 5月 144回 スタジオ・ドゥンパー展
6月 145回 山本容子展 オペラレッスン
7月 146回 1998 ADC展
8月 147回 河口洋一郎展 電脳宇宙への旅
9月 148回 Graphic Wave 1998
蛭名龍郎 / 平野敬子 / 三木健
10月 149回 グンター・ランボー展
11月 150回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
12月 151回 ヘルベルト・ロイピン展

1999

- 1月 152回 海外作家によるFuroshiki Graphics展
2月 153回 日本のタイポグラフィック1946-95
3月 154回 木村恒久構成フォト・グラフィックス展 What?
3月 特別展 堀内誠一の仕事展 雑誌づくりの決定的瞬間
4月 155回 1999 TDC展
5月 156回 現代ブルガリアのグラフィックデザイン展
6月 157回 日比野克彦展 誘拐したい
7月 158回 1999 ADC展
7月 特別展 前田ジョン One-line.com
8月 159回 矢萩喜從郎展
9月 160回 Graphic Wave 1999
鈴木守 / 松下計 / 米村浩
10月 161回 FUSE展
11月 162回 松井桂三展
12月 163回 ボール・デイヴィスのポスター展
12月 特別展 アーヴィング・ベン
三宅一生の仕事への視点

2000

- 1月 164回 Graphic Message for Ecology
1月 特別展 篠山紀信&マニュエル・ルグリ展
フォトセッションinパリ・オペラ座1998-1999夏
2月 165回 ブルーノ・モングッツィ展 形と機能の詩人
3月 166回 伊藤憲治展 医学誌「ステスコープ」の
表紙デザイン半世紀
4月 167回 2000 TDC展
5月 168回 Poster Works Nagoya 12
岡本滋夫+11人のデザイナーたち
6月 169回 なにわの、こてこてグラフィック展
7月 170回 2000 ADC展
8月 171回 日宣美の時代
日本のグラフィックデザイン1951-70展
9月 172回 Graphic Wave 2000
秋山具義 / Tycoon Graphics / 中島英樹
10月 173回 D-ZONE / 戸田ツトム展
11月 174回 ビエール・ベルナール展
現実的であれ、不可能を試みろ!
12月 175回 本とコンピュータ展 書物変容-アジアの時空

2001

- 1月 176回 二〇〇一年木田彦展
2月 177回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
3月 178回 "Spring has come"
松永真、ディテールの競演。
4月 179回 2001 TDC展
5月 180回 コントラプンクト展
デンマーク国家のデザインプログラム
6月 181回 原弘のタイポグラフィ
7月 182回 2001 ADC展
8月 183回 薙本唯人 にんげんもよう
9月 184回 Graphic Wave 2001
澁谷克彦 / 永井一史 / ひびのこづえ
10月 185回 ハングルポスター展
11月 186回 サイトウマコト展
12月 187回 チップ・キッド展

2002

- 1月188回 ウーヴェ・レシュ展
- 2月189回 宇野亜喜良展
- 3月190回 デザイン教育の現場から
セント・ジュースト大学院の手法
- 4月191回 2002 TDC展
- 5月192回 DRAFT 展
- 6月193回 アラン・チャン展 東情西韻
- 6月 特別展 花森安治と暮らしの手帖展
- 7月194回 2002 ADC展
- 8月195回 タナカノリユキ展 OUT OF DESIGN
- 9月196回 Graphic Wave 2002
左合ひとみ／澤田泰廣／新村則人
- 10月197回 SUN-AD 人
- 11月198回 ブラジルのグラフィックデザイン展
ブックデザインにみる今日のブラジル
- 12月199回 ハーブ・ルバリン展

2003

- 1月200回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
- 2月201回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式、言葉と形象
- 3月202回 現代中国平面設計展
- 4月203回 2003 TDC展
- 5月204回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
- 6月205回 空山基展
- 7月206回 2003 ADC展
- 8月207回 新島夷展 色彩とフォントの相互作用
- 9月208回 Graphic Wave 2003
佐野研二郎／野田風／服部一成
- 10月209回 副田高行「広告の告白」展
- 11月210回 ステファン・サグマイスター展
- 12月211回 河野鷹患展
昭和を駆け抜けたモダニスト 1906-99

2004

- 1月212回 永井一正ポスター展
- 2月213回 伊藤桂司・谷口広樹・ヒロ杉山展
- 3月214回 雑誌をデザインする集団キャップ展
- 4月215回 2004 TDC展
- 5月216回 佐藤卓展 Plasticity
- 6月217回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセクション
- 7月218回 2004 ADC展
- 8月219回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
- 9月220回 Graphic Wave 2004
工藤青石／GRAPH／生息気
- 10月221回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
- 11月222回 佐藤可士和 Beyond
- 12月223回 もう一人の山名文夫 1920-70年代

2005

- 1月224回 七つの顔のアサバ展
- 2月225回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン
- 3月226回 青木克憲XX展
- 4月227回 2005 TDC展
- 5月228回 和田誠のグラフィックデザイン
- 6月229回 チャマイエフ&ガイスマー展
40年間にわたるデザイン活動
- 7月230回 2005 ADC展
- 8月231回 佐藤雅彦研究室展 課題とその解答
- 9月232回 Graphic Wave 2005
谷田一郎／東泉一郎／森本千絵
- 10月233回 CCCP研究所＝ドクター・ベッシー &
マドモアゼル・ローズ展

- 11月234回 祖父江慎＋cozfish展
- 12月235回 スイスポスター 100年展

2006

- 1月236回 亀倉雄策 1915-1997
日本デザイン界を牽引したパイオニア
- 2月237回 野田風展
Hanpanda コンテンポラリーアート
- 3月238回 シアン展
- 4月239回 2006 TDC展
- 5月240回 永井一史
HAKUHODO DESIGN「ブランドとデザイン」
- 6月241回 田名網敬一主義展
- 7月242回 2006 ADC展
- 8月243回 アレクサンダー・ゲルマン展
ニューヨーク・コネクション
- 9月244回 Graphic Wave 2006 School of Design
古平正義／平林奈緒美／水野学／山田英二
- 9月 特別展 AGI日本デザイン総会開催記念：掛け軸展
- 10月245回 勝手に広告展
〔中村至男＋佐藤雅彦〕の活動No.6
- 11月246回 中島英樹展 Clear in the Fog
- 12月247回 早川良雄 日本のデザイン黎明期の証人

2007

- 1月248回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part I]
- 2月 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
- 3月249回 キムラカツ展 問いボックス店
- 4月250回 2007 TDC展
- 5月251回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アディテュード
- 6月252回 廣村正彰 2D ⇄ 3D
- 7月253回 2007 ADC展
- 8月254回 ワルシャワの風 1966-2006
ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞受賞作品展
- 9月255回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ
- 10月256回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
- 11月257回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
- 12月258回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー

2008

- 1月259回 アーツダ！戸田正寿ポスターアート展
- 2月260回 グラフィックデザインの時代を築いた
20人の証言 Interviews by 柏木博
- 3月261回 Textasy
プロディ・ノイエシシュヴァンダー展
- 4月262回 2008 TDC展
- 5月263回 アラン・フレッチャー
英国グラフィックデザインの父
- 6月264回 がんばれニッポン、を広告してきたんだ
そういえば、俺。応援団長佐々木●宏
- 7月265回 2008 ADC展
- 8月266回 Now Updating... THA／
中村勇吾のインタラクティブデザイン
- 9月267回 平野敬子 デザインの起点と終点と起点
- 10月268回 白 原研哉展
- 11月269回 M/M [Paris] The Theatre Posters
- 12月270回 OYKOT Wieden+Kennedy Tokyo:
10 Years of Fusion

2009

- 1月271回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展

- 2月272回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
- 3月273回 DRAFT Branding & Art Directors
- 4月274回 2009 TDC展
- 5月275回 矢萩喜徳郎展
[Magnetic Vision／新作100点]
- 6月276回 グラフィックデザイナー マックス・フーパー展
- 7月277回 2009 ADC展
- 8月278回 [ラストショー]細谷巖アートディレクション展
- 9月279回 銀座界限隈ガヤガヤ青春ショー
～言い出しっぺ横尾忠則～
瀧本唯人・宇野亜喜良・和田誠・横尾忠則4人展
- 10月280回 山形季央展
- 11月281回 北川一成
- 12月282回 広告批評展
ひとつの時代の終わりと始まり

2010

- 1-2月283回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅰ
田中一光ポスター 1953-1979
- 3月284回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
- 4月285回 TDC展 2010
- 5月286回 Talking the Dragon 井上勲也展
- 6月287回 NB@ggg ネヴィル・プロディ 2010
- 7月288回 2010 ADC展
- 8月289回 ララル・シュライフォークル展
- 9月290回 ブッシュビーン・パラダイム
シーモア・クワスト | ボール・デヴィス |
ミルトン・グレイザー | ジェームズ・マクミラン
- 10月291回 海と山と新村則人
- 11月292回 服部一成二十年十一月
- 12月293回 EUPHRATES ユーフラテス展
～研究から表現へ～

2011

- 1月294回 秀英体 100
- 2月295回 イアン・アンダーソン／
ザ・デザイナーズ・リパブリックが
トーキョーに帰ってきた。
- 3月296回 デザイン 立花文徳
- 4月297回 TDC展 2011
- 5月298回 佐藤晃一ポスター
- 6月299回 レイモン・サヴィニャック展：
41歳、「牛乳石鹸モンサヴォン」の
ポスターで生まれた巨匠
- 7月300回 2011 ADC展
- 8月301回 [ジー ジー ジー] グルーヴィジョンズ展
- 9月302回 工藤青石展 形と色と構造の感情
- 10月303回 100 ggg Books 100 Graphic Designers
- 11月304回 イデオポリス東京：
スクール・オブ・ヴィジュアルアーツ
美術学修士課程卒業制作展
- 12月305回 杉浦康平・マンガラ発光

2012

- 1-2月306回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
- 3月307回 ロトチェンコ
ー慧星のごとく、ロシア・アヴァンギャルドの麗児ー
- 4月308回 TDC展 2012
- 5月309回 キギ展 植原亮輔と渡邊良重
- 6月310回 ジャンピン・ヘ フラッシュバック
- 7月311回 2012 ADC展
- 8月312回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

- 9月313回 寄藤文平の夏の研究
- 10月314回 AGI展
- 11月315回 横尾忠則 初のブックデザイン展
- 12月316回 テセウス・チャン ヴェルクNo.20：銀座
The Extremities of the Printed Matter

2013

- 1月317回 松永真ポスター 100展
- 2月318回 カリ・ビッポ ポスターとドローイング
シンブル・ストロング・シャープ
- 3月319回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
- 4月320回 TDC展 2013
- 5月321回 KM [ケーエム] カレル・マルテンス
- 6月322回 ホワイ・ノット・アンシエイツ
予定は失敗のもと。未定は成功のもと。
- 7月323回 2013 ADC展
- 8月324回 大宮エリー展
- 9月325回 PARTY そこにいない。展
- 10月326回 長崎わかこ展
[Between Human and Nature]
- 11月327回 ヤン・チヒョルト展
- 12月328回 トマシェフスキ展 世界を震わす詩学

2014

- 1月329回 勝井三雄展 兆しのデザイン
- 2月330回 「指を置く」展 佐藤雅彦＋齋藤達也
- 3月331回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
- 4月332回 TDC展 2014
- 5月333回 phono / graph sound, letters, graphics
- 6月334回 永井裕明展 Graphic Jam Zukō
- 7月335回 2014 ADC展
- 8月336回 ひのこづさいぼー：
ひびのこづえ＋「にほんごであそぼ」のしごと
- 9月337回 So French ミシェル・ブーヴェ・ポスターズ
- 10月338回 セミトランスベアレント・デザイン 退屈
- 11月339回 Persona 1965
グラフィックデザイン展(ペルソナ) 50年記念
- 12月340回 荒井良二だもん

2015

- 1月341回 浅葉克己のタイポグラフィ展
Asaba's Typography.
- 2月342回 Line in the sand ボール・デヴィス
- 3月343回 APPLE+ 三木健 学び方のデザイン
「りんご」と日常の仕事
- 4月344回 TDC展2015
- 5月345回 2 Men Show
スタンリー・ウォン【黄炳培】×
アナザーマウンテンマン【又一山人】
- 6月346回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
- 7月347回 2015 ADC展
- 8月348回 ラース・ミューラー 本 アナログリアリティー
- 9月349回 色部義昭 Wall
- 10月350回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
- 11月351回 字字字 大日本タイポ組合
- 12月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
THE NIPPON POSTERS

2016

- 1-3月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
千代田区立日比谷図書文化館主催／
DNP文化振興財団共催
祖父江慎＋コズフィッシュ展 ブックデザイ



1992-2021

4-5月352回 ggg30周年記念 明日に架ける橋
ggg 展覧会ポスター 1986-2016

6月353回 TDC 2016

7-9月354回 2016 ADC 展

9-10月355回 ノザイナー かたちと理由

11-12月356回 榎本了吾コーカイ記

2017

1-3月357回 仲條正義 IN & OUT, あるいは歌&囁吐
4月358回 TDC 2017

5-6月359回 ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気
7月360回 2017 ADC 展

7月 特別展 追悼!『長友啓典』特別展

8-9月361回 Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展

9-11月362回 組版造形 白井敬尚

11-1月363回 マリメッコ・スピリッツー パーヴォ・ハロネン/
マイヤ・ロウエカリ/アイノミヤ・メツツオラ

2018

1-3月364回 平野甲賀と晶文社展

4月365回 TDC 2018

5-6月366回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

7-8月367回 Harumi Yamaguchi × Yoshirotten
Harumi's Summer

9-10月368回 横尾忠則 幻花幻想幻画譚 1974-1975

10-11月369回 日本のアートディレクション展 2018

12-1月370回 続々 三澤遼

2019

2-3月371回 ボーラ・シェア: Serious Play

4月372回 TDC 2019

5-6月373回 Beginnings 井上嗣也展

7-8月374回 田名網敬一の観光展

8-10月375回 Sculptural Type コントラプンクト

10-11月376回 日本のアートディレクション展 2019

11-1月377回 カール・グルストナー 動きの中の思索

2020

1-3月378回 河口洋一郎 生命のインテリジェンス

6-8月379回 TDC 2020

10-11月380回 いきることば つむぐいのち

永井一正の絵と言葉の世界

12-3月381回 石岡瑛子

グラフィックデザインはサバイブできるか

1992

1-2月 1回 Trans-Art '91展

3月 2回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ

4-5月 3回 第4回東京TDC展

5-6月 4回 リック・バリセンティ展

6-7月 5回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻

7-8月 6回 デザイン・プリント・ペーパー展

8-9月 7回 ヴァン・オリバー展

10月 8回 中村誠 個展

10-11月 9回 マイケル・メイヴリー展

11-12月 10回 灘本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展

1993

1-2月 11回 フロシキ展

2-3月 12回 ホワイノット・アソシエイツ展

3-4月 13回 アレン・ホリ+ロバート・ナカタ展
解き放たれた声

4-5月 14回 1992 ADC 展

5-6月 15回 ラッセル・W・フィッシャー展

6-7月 16回 第5回東京TDC展

7-8月 17回 文字からのイマジネーション

8-9月 18回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part II

9-10月 19回 ビル・ソーバーン展

10-11月 20回 U.G. サトーのポスター展 Treedom

11-12月 21回 勝井三雄展 光の国:夜と昼の狭間に

12-1月 22回 現代香港のデザイン8人展

1994

1-2月 23回 ソール・バス展

2-3月 24回 グリーディング・ポップアップ13人展

3-4月 25回 リュディ・パウア/
インテグラルコンセプト展

4-5月 26回 Illustration4 安西水丸、河村要助・
矢吹申彦・湯村輝彦

5-6月 27回 ジェニファ・モラー展

6-7月 28回 永井一正展

7-8月 29回 ウーヴェ・レシュ展

8-9月 30回 1994 ADC 展

9-10月 31回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part III

10-11月 32回 アメリカのAD2人展

デビッド・カーソン+ゲラリー・ケブキ
エディトリアルデザインの新潮流

12月 33回 亀倉雄策ポスター新作展

1995

1-2月 34回 ヘルマン・モンタルボ ポスター展

2-3月 35回 ブルーノ・ムナーリ展

3-4月 36回 グラッパ・デザイン展

4-5月 37回 第7回東京TDC展

5-6月 38回 ミシェル・ブーヴェ展 ポスター、路傍の美

6-7月 39回 田中一光展 人間と文字

7-8月 40回 テレノング展

8-9月 41回 1995 ADC 展

9-10月 42回 デザイン・プリント・ペーパー展 IV

10-11月 43回 ベレ・トレント展

11-12月 44回 アジアのデザイナー 6人展

1996

1-2月 45回 日本のイラストレーション50年展

2-3月 46回 マーゴ・チェイス展

3-4月 47回 ヴェルネル・イエカー展

4-5月 48回 グンター・ランボー展

5-6月 49回 第8回東京TDC展

6-7月 50回 カリ・ビッポ展

7-8月 51回 現代ハンガリーのグラフィック4人展

8-9月 52回 1996 ADC 展

9-10月 53回 前田ジョン かみとコンピュータ展

10-11月 54回 アラン・ル・ケルネ展

11-12月 55回 ウッディ・バートル展

1997

1-2月 56回 ジョアン・マシャド展

2-3月 57回 K2オオサカ展 黒田征太郎+長友啓典

3-4月 58回 グラフィックデザイン・イン・チャイナ展

4-5月 59回 創立10周年記念 東京TDC展

5-6月 60回 メキシコ10人展

7月 61回 カトー・デザイン 思考するデザイン展

8-9月 62回 1997 ADC 展

9-10月 63回 ラルフ・シュライフォーグル展

10-11月 64回 ジェームズ・ビクトル展 貼紙禁止

11-12月 65回 GLOBAL 展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

1-2月 66回 ファイトヘルベ/デ・ヴリンゲル展
未来を振り返る

2-3月 67回 ジャン・ベノア・レヴィ展 その視覚的活動

3-4月 68回 《トロイカ》ロシア 3人展

4-5月 69回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター

6月 70回 1998 TDC 展

7月 71回 スタジオ・ダウンバー展

8-9月 72回 1998 ADC 展

9-10月 73回 ザフリキ展

10-11月 74回 現代イスラエルのビジュアルコミュニケーター
デビッド・タルタコーバ展

11-12月 75回 台湾四人展

1999

1-2月 76回 海外作家による Furoshiki Graphics 展

2-3月 77回 ビエール・ニューマン展

3-4月 78回 ボーラ・シェア展

5-6月 79回 ハンブルクのグラフィックデザイン展
オルガー・マチス+クリスティアーネ・フライリンガー

6-7月 80回 1999 TDC 展

7-8月 81回 ヤン・ライリッヒ Jr. 展 時代のミルハウス

8-9月 82回 1999 ADC 展

9-10月 83回 スコット・マケラ [WIDE OPEN] 展

10-11月 84回 尊厳
チャズ・マヴィヤネー・ディヴィースの世界展

11-12月 85回 マカオ2人展

ウン・ヴァイメン/ビクトル・ヒューゴ・マレイロス

2000

1-2月 86回 Graphic Message for Ecology

2-3月 87回 松井桂三展

3-4月 88回 ポール・ディヴィスのポスター展

4-5月 89回 なにわの、こてこてグラフィック展

5-6月 90回 2000 TDC 展

6-7月 91回 アントン・ベイク展 ボディ・アンド・ソウル

7-9月 92回 ビエール・ベルナル展
現実的であれ、不可能を試みよう!

9-10月 93回 2000 ADC 展

10-11月 94回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics

11-12月 95回 デザイン教育の現場から
ベルリン芸術大学
オルガー・マチス教室によるアプローチ

2001

1-2月 96回 二〇〇一年木田安彦展

2-3月 97回 コントラプンクト展

デンマーク国家のデザインプログラム

3-4月 98回 ギルツブルク音楽祭ポスター展

5-6月 99回 2001 TDC展
6-7月 100回 チップ・キッド展
7-8月 101回 ハングルポスター展
8-9月 102回 2001 ADC展
9-10月 103回 ウォルフガング・ワインガルト展
タイボグラフィへのわが道
10-11月 104回 “Spring has come”
松永真、ディテールの競演。
11-12月 105回 デザイン教育の現場からⅡ
セント・ジュースト大学院の新技术

2002

1-2月 106回 灘本唯人 にんげんもよう
2-3月 107回 サイトウマコト展
3-4月 108回 オットナシュタイン展
4-5月 109回 タピロ展 ヴェニス・ビエンナーレのポスター
5-6月 110回 2002 TDC展
7月 111回 ウィーンのパスター展
ウィーン市立図書館アーカイブ1883-2002
7-9月 112回 三木健展
9-10月 113回 2002 ADC展
10-11月 114回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式
11-12月 115回 中国グラフィックデザイン展

2003

1-2月 116回 SUN-AD 人
2-3月 117回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
3-4月 118回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
4-6月 119回 墨と椅子について
カン・タイキョン+フリーマン・ラウ
アート&デザイン展
6-7月 120回 2003 TDC展
7-8月 121回 ルーバル・ルコーバ展
8-9月 122回 2003 ADC展
9-10月 123回 ステファン・サグマイスター展
10-11月 124回 ヨーロッパの文化ポスター
ノイエ・ザムルング・ミュンヘンの
所蔵作品より
11-12月 125回 空山基展

2004

1-2月 126回 副田高行「広告の告白」展
2-3月 127回 永井一正ポスター展
3-4月 128回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセレクション
4-5月 129回 雑誌をデザインする集団キャップ展
5-6月 130回 2004 TDC展
6-7月 131回 ビエール・メンデル展
8-9月 132回 2004 ADC展
9-10月 133回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
10-11月 134回 チェコのポスター展
ブラハ美術工芸博物館
コレクション1960-2003
11-12月 135回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン

2005

1-2月 136回 疾風迅雷 杉浦康平の雑誌デザイン半世紀展
2-3月 137回 シアン展 ベルリンでの13年
3-4月 138回 佐藤可士和 Beyond
4-5月 139回 メーフィス&ファン・デュールセン展
5-6月 140回 2005 TDC展
7月 141回 CCCP研究所=ドクター・ベッシェ &
マドモアゼル・ローズ展
8-9月 142回 2005 ADC展

9-10月 143回 青木克憲XX展
10-11月 144回 ドイツAGIグラフィックデザイン展
パーフェクトフォルム
11-12月 145回 和田誠のグラフィックデザイン

2006

1-2月 146回 スイスポスター 100年展
2-3月 147回 グラフィック・ソート。ファシリティ展
GTF / 50プロジェクト
3-4月 148回 野田弘展
Hanpanda コンテンポラリーアート
4-5月 149回 ブルーノ・オルダーニ展
5-6月 150回 2006 TDC展
6-7月 151回 ブラック&ホワイトポスター展
8月 152回 2006 ADC展

2007

5-6月 153回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006
7-8月 154回 2007 TDC展
8-9月 155回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アティテュード
10-11月 156回 2007 ADC展
11-12月 157回 キムラカツ展 問いボックス店

2008

1-2月 158回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
2-4月 159回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ・オーサカ
4-6月 160回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
6-7月 161回 2008 TDC展
8月 162回 Now Updating... THA /
中村勇吾のインタラクティブデザイン
9-10月 163回 2008 ADC展
10-11月 164回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー
11-12月 165回 Graphic West 真 and / or 善
杉崎真之助と高橋善丸のグラフィックデザイン

2009

1-2月 166回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
3-4月 167回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
4-6月 168回 DRAFT Branding & Art Directors
6-7月 169回 2009 TDC展
8-10月 170回 2009 ADC展
10-12月 171回 矢萩喜俊郎展
[Magnetic Vision / 新作100点]

2010

1-3月 172回 Graphic West 2 感じる箱展
grafの考えるグラフィックデザインの実験と検証
3-5月 173回 北川一成
5-7月 174回 TDC展 2010
7-9月 175回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のビジュアル・ジャンピング
9-10月 176回 2010 ADC展
11-12月 177回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979

2011

1-3月 178回 Graphic West 3 phono / graph
一音・文字・グラフィック
3-5月 179回 秀英体100
5-7月 180回 TDC展 2011
7-9月 181回 服部一成二十年夏大阪

9-10月 182回 2011 ADC展
11-12月 183回 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

1-3月 184回 Graphic West 4 「奥村昭夫と仕事」展
3-5月 185回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
5-7月 186回 TDC展 2012
7-9月 187回 立花文穂展
9-10月 188回 2012 ADC展
11-12月 189回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

2013

1-3月 190回 Graphic West 5
type trip to Osaka typographics ti: 270
3-4月 191回 [デー デー デー ジー] グルーヴィジョンズ展
5-6月 192回 TDC展 2013
7-8月 193回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
9-10月 194回 2013 ADC展
11-12月 195回 大宮エリー展

2014

1-3月 196回 Graphic West 6
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
熱情と冷靜のアヴァンギャルド
3-4月 197回 「指を置く」展 佐藤雅彦+齋藤達也
5-6月 198回 TDC展 2014
6-7月 199回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
10-12月 200回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
THE NIPPON POSTERS

2015

1-3月 201回 永井裕明展
Graphic Jam Zukō in Kyoto
4-5月 202回 ラース・ミュラー 本 アナログリアディエー
6-7月 203回 TDC展 2015
8-10月 204回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ
20世紀琳派 田中一光
11-12月 205回 ニッポンのニッポン ヘルムートシュミット

2016

1-3月 206回 浅葉克己個展 「アサバの血肉化」
4-5月 207回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
5-7月 208回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
7-8月 209回 TDC 2016
9-10月 210回 物質性→非物質性 デザイン&イノベーション
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都工芸繊維大学
アートマネージャー養成講座連携企画展
なにで行く どこへ行く 旅っていいね
京都造形芸術大学プロジェクトセンター×
12月 特別展 京都dddギャラリー連携企画展
experimental studies | post past

2017

1-3月 211回 グラフィックとミュージック
5-6月 212回 仲條正義 IN & OUT, あるいは歌&嘔吐
7-8月 213回 TDC 2017
9-10月 214回 平野甲賀と晶文社展
11月 特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展
.communication
12-3月 215回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

2018

4-6月 216回 Graphic West 7: YELLOW PAGES
7-8月 217回 TDC 2018
8-10月 218回 田名網敬一の現在展
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都市立芸術大学
ビジュアル・デザイン研究室共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展

2019

1-3月 219回 組版造形 白井敬尚
3-6月 220回 本の縁側 矢萩多聞と本づくり展
6-8月 221回 ヘイセイ・グラフィックス
8-10月 222回 ドヴァランスーシステムを遊び場に
11-12月 223回 Graphic West 8:
三重野龍大全2011-2019「屁理屈」

2020

1-3月 224回 Design ZOO いのち・ときめき・デザイン展
6-10月 225回 コントラクンプト タイプ
10-12月 226回 食のグラフィックデザイン

2021

1-3月 227回 Graphic West 9: Sulki & Min

1995		
4-7月	1回	グラフィック・ビジョン： ケネス・タイラーとアメリカ現代版画の30年
8-10月	2回	ロイ・リキテンスタイン： エンタブラチュア→ヌード
11-1月	3回	一瞬の刻印：ロバート・マザウェル展

1996		
3-4月	4回	アメリカ版画の現在地点： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.1
4-7月	5回	デイヴィッド・ホックニー展
7-10月	6回	自律する色彩：ジョセフ・アルバース展
10-1月	7回	スタイルを越えて： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.2

1997		
3-6月	8回	ジェームズ・ローゼンクvist展
6-9月	9回	版画における抽象： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.3
10-11月	10回	大竹伸朗：Printing / Painting展
12-1月	11回	線／色彩／イメージ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.4

1998		
3-5月	12回	フランク・ステラ／ケネス・タイラー： 構築する版画 アーティストとプリンター、30年の軌跡
5-9月	13回	主張する黒： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.5
9-12月	14回	形象としての紙：アラン・シールズ展

1999		
3-5月	15回	福田美蘭展 New Works: Prints
6-9月	16回	かたる かたち： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.6
9-12月	17回	版画の話展

2000		
3-6月	18回	New Works 1998-1999： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.7
6-9月	19回	太田三郎：存在と日常
9-12月	20回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ設立展： ポスターグラフィックス 1950-2000

2001		
3-5月	21回	版画集への招待： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.8
5-7月	22回	折元立身：1972-2000
8-10月	23回	藤本由紀夫：四次元の読書
10-12月	24回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.2： グラフィックデザインの時代

2002		
3-6月	25回	空間に躍りでた版画たち： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.9
6-9月	26回	矢萩喜徳郎：視触、視弾、そして眼差しの記憶
9-12月	27回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.3： 個性の時代

2003		
3-4月	28回	絵画―永遠の現在を求めて： リチャード・ゴーマン展
4-6月	29回	色彩としての紙： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.10
6-9月	30回	ヘレン・フランケンサラー木版画展
9-12月	31回	タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション 新収蔵作品展： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.11

2004		
3-6月	32回	イラストレーションの黄金時代
6-9月	33回	パスワード：日本とデンマークの アーティストによる対話
9-12月	34回	版で発信する作家たち2004福島

2005		
3-6月	35回	アメリカ現代木版画の世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.12
6-9月	36回	Breathing Light：吉田重信
10-12月	37回	decade ― CCGAと6人の作家たち

2006		
3-6月	38回	版に描く： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.13
6-9月	39回	藤幡正樹：不完全さの克服 イメージとメディアによって創り出される、 新たな現実感。
9-12月	40回	野田哲也：日記

2007		
3-6月	41回	凹版表現の魅力： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.14
6-9月	42回	再生する版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.15
9-12月	43回	ユニーク・インプレッション： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.16

2008		
3-6月	44回	厚い色： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.17
6-9月	45回	大きな版画、小さな版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.18
9-11月	46回	黒のモノローグ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.19

2009		
2-6月	47回	作品と題名： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.20
6-9月	48回	きらめくデザイナーたちの競演 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
9-12月	49回	赤のちから： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.21

2010		
3-6月	50回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ 田中一光ポスター 1953-1979
6-9月	51回	ロイ・リキテンスタイン展： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.22
9-12月	52回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ 福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング

2011		
3月	53回	幾何学的抽象の世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.23 (東日本大震災のため中断)
6-9月	54回	秀英体 100
9-12月	55回	幾何学的抽象の世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.23

2012		
3-6月	56回	日本ポルトガル交流 版で発信する作家たち：after 3.11
6-9月	57回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ 没後10周年記念企画 田中一光ポスター 1980-2002
9-12月	58回	銅版の表現力： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.24

2013		
2月	特別展	第24回田善顕彰版画展
3-6月	59回	THE POSTERS 1983-2012 世界ポスタートリエンナーレヤマ受賞作品展
6-9月	60回	現代版画とリトグラフ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.25
9-12月	61回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ LIFE 永井一正ポスター展

2014		
2月	特別展	第25回田善顕彰版画展
3-6月	62回	プリント・イン・ブルー： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.26
7-9月	63回	20世紀モダンデザインの誕生― 大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
9-12月	64回	レリーフ・プリントの世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.27

2015		
2月	特別展	第26回田善顕彰版画展
3-6月	65回	開館20周年記念 21世紀のグラフィック・ビジョン
6-9月	66回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ 浅草克己ポスターアーカイブ展
9-12月	67回	ロバート・マザウェルのリトグラフ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.28

2016		
2月	特別展	第27回田善顕彰版画展
3-6月	68回	グラフィックとミュージック
6-9月	69回	中林忠良展：未知なる航海―腐食の海へ
9-12月	70回	フランク・ステラ<イマジナリー・プレイズ>： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.29

2017		
2月	特別展	第28回田善顕彰版画展
3-6月	71回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ 松永真ポスター展
6-9月	72回	加納光於―揺らめく色の穂先に
9-12月	73回	ジョセフ&アニ・アルバース、二つの抽象： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.30

2018		
2月	特別展	第29回田善顕彰版画展
3-6月	74回	少数精鋭の色たち―DNPグラフィック デザイン・アーカイブより
6-9月	75回	北川健次：黒の装置―記憶のディスタンス
9-12月	76回	ヘレン・フランケンサラー [エクスペリメンタル・インプレッション]： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.31

2019		
3-6月	77回	ヘイセイ・グラフィックス
6-9月	78回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅷ 蔵出し 仲條正義
9-12月	79回	柔らかな版： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.32

2020		
3-6月	80回	食のグラフィックデザイン
7-9月	81回	共鳴する刻[しるし]―木口木版画の現在地
9-12月	82回	ことばと版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.33

1986

- Mar. 1 Tadashi Ohashi:
Vegetable Illustration
- Apr. 2 Shigeo Fukuda: Illustration 412
- May 3 Yukimasa Okumura: Sunsun Saifu
- Jun. 4 Iku Akiyama: Picture Relief
- Jul. 5 1986 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 6 Art Works I The World is Art.
- Sep. 7 Koichi Sato: About Boxes 2
- Oct. 8 Kiyoshi Awazu:
Self Revolution for Painting
- Nov. 9 Herbert Bayer:
Pioneer of Visual Communication
- Dec. 10 K2 Live!
Don't Say "2" Without Knowing the "K"

1987

- Jan. 11 Iroha: CG Calligraphy of Shuhei Tsuji
and CA Workshop
- Feb. 12 Flower Expo + Expo Logo Exhibition
- Mar. 13 Masaki Fujihata: Geometric Love
- Apr. 14 The Works of Shin Matsunaga:
The Mainichi Design Prize
Commemorative Exhibition
- May 15 Mizumaru Anzai "2C"
- Jun. 16 Lou Dorfsman and
The Creative Works of CBS
- Jul. 17 1987 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 18 Art Works II Rest in Peace
- Sep. 19 Takenobu Igarashi: Igarashi Numbers
- Oct. 20 Masuteru Aoba: Graphically
- Nov. 21 Holger Matthies:
Unpredictable Reality
- Dec. 22 Milton Glaser: Conjurer of Image

1988

- Jan. 23 Katsu Kimura:
Works from Packaging Direction
- Feb. 24 Hiroki Taniguchi:
Homosapiens' Memory
- Mar. 25 Ginza Hyakuten Covers, Original Works
- Apr. 26 Katsu Exhibition, Spring: Original-
Lithography-Silk Screen-Offset Print
- May 27 AGI '88 Tokyo: World Graphic Design
- Jun. 28 Issey Miyake Poster Exhibition:
I.I.I. at GGG
- Jul. 29 1988 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 30 Art Works III Peace by Piece
- Sep. 31 Recruit / Information Posters
- Oct. 32 Yoshio Hayakawa:
Original Drawings "Woman"
- Nov. 33 Masayoshi Nakajo: NAKAJOISH
- Dec. 34 Posters and Illustrations of
Stasys Eidrigevicius

1989

- Jan. 35 Shopping Bag Design Exhibition
- Feb. 36 Kijuro Yahagi Exhibition
- Mar. 37 Texture: Makiko Minagawa +
Keiichi Tahara + Shigeru Yamaoka
- Apr. 38 Noriyuki Tanaka:
Gokan – The Urban Surface
- May 39 Ott Aicher: W.Von Ockham,
a Pioneer in Modern Philosophy
- Jun. 40 Kazumi Kurigami: Photographs
- Jul. 41 Shinichiro Wakao: Wakao Collection
- Aug. 42 Art Works IV
All The Flowers Have Come Here.
- Sep. 43 Kazumasa Nagai Exhibition

- Oct. 44 Posters by 12 Artists
for Europalia '89 Japan
- Nov. 45 The Current Works of Charles Anderson
- Dec. 46 Works of Etsushi Kiyohara: Hommage

1990

- Jan. 47 Shigeru Akizuki: Boxes for Fun
- Feb. 48 Nobuyoshi Kikuchi:
"Shelf" Bound Books
- Mar. 49 Tsunao Harada:
"Horse" Wood-block Print
- Apr. 50 Ikko Tanaka Exhibition:
Graphic Art Botanical Garden
- May 51 Ryuichi Yamashiro:
Illustration without Cats
- Jun. 52 Keizo Matsui:
Three Dimensional Graphics
- Jul. 53 Takayuki Terakado Exhibition
- Aug. 54 Art Works V Tokyo Specimen Boxes 1990
- Sep. 55 Keiichi Tahara: The Fragrance of Light
- Oct. 56 Katsumi Asaba's New Works:
Terrible Typography in Asia.
- Nov. 57 Macaroni: Katsuya Ise
- Dec. 58 Yasuhiro Yomogida: People

1991

- Jan. 59 Zenji Funabashi Exhibition
- Feb. 60 Tetsuya Ohta: Diagrams
- Mar. 61 Per Arnoldi:
Posters, Prints and Painting
- Apr. 62 Yasuhiro Sawada:
P2 [Painting × Printing]
- May 63 Sonoko Arai: Drawing Inspiration
- Jun. 64 Communication & Print:
Newly Created Posters by 10 Artists
- Jul. 65 Nobuo Nakagaki +
Nakagaki Design Office: Object Books
- Aug. 66 Art Works VI "Bacteriart" Messages
from Dream Island
- Oct.-Nov. 67 Trans-Art '91
- Dec. 68 1991 Tokyo ADC Exhibition

1992

- Jan. 69 Ivan Chermayeff: Collages
- Feb. 70 The First Solo Exhibition of
Hajime Tachibana: ape-MAN
- Mar. 71 The 4th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 72 Henryk Tomaszewski Exhibition
- May 73 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
- Jun. 74 Takashi Kanome: BOX:XX
- Jul. 75 Makoto Nakamura Solo Exhibition
- Aug. 76 Rick Valicenti Exhibition
- Sep. 77 Kaoru Kasai: AERO
- Oct. 78 Tadahito Nadamoto / Akira Uno /
Makoto Wada / Harumi Yamaguchi
Exhibition
- Nov. 79 Paul Rand
- Dec. 80 Furoshiki by 18 Artists

1993

- Jan. 81 Ryohei Kojima: Tropica Grafica
- Feb. 82 Koichi Inakoshi: Out of Season
- Mar. 83 1992 Tokyo ADC Exhibition
- Apr. 84 The 5th Tokyo TDC Exhibition
- May 85 U.G. Sato's Poster Exhibition: Freedom
- Jun. 86 Hideo Mukai: Hommage
- Jul. 87 Imagination of Letters
- Aug. 88 8 Designers in Today's Hong Kong
- Sep. 89 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light

- Oct. 90 1993 Illustration 4:
Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura /
Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
- Nov. 91 Saul Bass Exhibition
- Dec. 92 13 Pop-up Greeting

1994

- Jan. 93 Kiyoshi Awazu: H²O Earthman
- Feb. 94 The 6th Tokyo TDC Exhibition
- Mar. 95 Takahisa Kamiyo: Windscape Mindscape
- Apr. 96 Toshihiro Katayama Exhibition
- May 97 Kazumasa Nagai Exhibition
- Jun. 98 Dutch Graphic Design A Century
- Jul. 99 1994 Tokyo ADC Exhibition
- Aug.-Sep. 100 Graphic Goods: Gifts from Design
- Sep. 101 Koga Hirano: The Power of Letters
- Oct. Kyushu Nine Designers Nine Personalities
- Nov. 102 Yusaku Kamekura New Posters
- Dec. 103 Kenya Hara Exhibition
- Toshiko Tsuchihashi, Sachiko Nakamura,
Meg Hosoki: Favorites

1995

- Jan. 104 Bruno Munari Exhibition
- Feb. 105 Book Design in Japan 1946-95
- Mar. 106 The 7th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 107 Pieter Brattinga: Designs for People
- May 108 Ikko Tanaka: Man and Writing
- Jun. 109 Niklaus Troxler Posters
- Jul. 110 1995 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 111 Rhythm & Hues Computer Graphics:
A Postcard from Hollywood
- Sep. 112 Tamotsu Yagi: A View of Nature
- Sep. 20 Graphic Designers of the World:
ggg 10th Anniversary and 20 ggg Books
- Oct. 113 Transition of Modern Typography-1
- Nov. 114 Masatoshi Toda: Ear Ear Land
- Dec. 115 50 Years in Japanese Illustrations

1996

- Jan. 116 Yasuhiro Yomogida:
"yurayura" Swaying in Edo
- Feb. 117 Transition of Modern Typography-2
- Mar. 118 NIPPONJIN:
Posters by 23 Artists in Sao Paulo
- Apr. 119 The 8th Tokyo TDC Exhibition
- May 120 Contemporary Graphics in Hungary:
DOPP at GGG
- Jun. 121 Shigeo Katsukawa's Typographic Art:
Departure
- Jul. 122 1996 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 123 John Maeda Paper and Computers
- Sep. 124 K2 – Seitaro Kuroda /
Keisuke Nagatomo: Two Chairs
- Oct. 125 Czech Avant-Garde Book Design
1920s-'30s
- Nov. 126 Graphic Wave 1996: Katsunori Aoki /
Taku Satoh / Toshio Yamagata
- Dec. 127 Alain Le Querrec Exhibition

1997

- Jan. 128 Nisuke Shimotani: Man
Collection of CCGA:
The Prints of Josef Albers
- Feb. 129 Tadashi Ohashi: Warm Veggies
- Mar. 130 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
- Apr. 131 Masayoshi Nakajo: ○○○
- May 132 Special Issue "Ecology"
by 8 Magazines in Japan

- Jun. 133 Tadanori Yokoo's Poster Exhibition:
Lucky God Yokoo
- Jul. 134 1997 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 135 Toshifumi Kawahara and
Polygon Pictures: Rocky Hola Shop
- Sep. 136 10 Mexican Graphic Designers
- Oct. 137 Graphic Wave 1997: Kan Akita /
Satoe Inoue / Osamu Fukushima
- Oct. The 10th Anniversary of
Masaru Katsumi Award
- Nov. 138 Shigeo Fukuda's Poster Exhibition:
Supporter
- Dec. 139 Global Exhibition: Duo Posters by
33 Designers from around the World

1998

- Jan. 140 Hachiro Suzuki: 8ro Art & AD
- Feb. 141 Odermatt + Tissot Graphic Design
- Mar. 142 Stasys Eidrigevicius Exhibition
- Apr. 143 Tokyo TDC 1998 Exhibition
- May 144 Studio Dumber Exhibition
- Jun. 145 Opera Lesson by Yoko Yamamoto
- Jul. 146 1998 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 147 Yoichiro Kawaguchi:
Voyage through a Cyber Universe
- Sep. 148 Graphic Wave 1998: Tatsuo Ebina /
Keiko Hirano / Ken Miki
- Oct. 149 Gunter Rambow in Tokyo
- Nov. 150 Philippe Apeloig:
Posters in the Context of French Culture
- Dec. 151 Herbert Leupin Exhibition

1999

- Jan. 152 Furoshiki Graphics by 18 Designers
from around the World
- Feb. 153 Transition of Modern Typography in
Japan 1946-95
- Mar. 154 Tsunehisa Kimura Photo Graphics: What?
The Works of Seiichi Horiuchi
- Apr. 155 Tokyo TDC 1999 Exhibition
- May 156 Contemporary Bulgarian Graphic
Design Exhibition
- Jun. 157 Katsuhiko Hibino: Abduction
- Jul. 158 1999 Tokyo ADC Exhibition
- Jul. John Maeda: One-line.com
- Aug. 159 Kijuro Yahagi Exhibition
- Sep. 160 Graphic Wave 1999: Mamoru Suzuki /
Kei Matsushita / Hiroshi Yonemura
- Oct. 161 An Exhibition of FUSE Posters and Fonts
- Nov. 162 Keizo Matsui Exhibition
- Dec. 163 Paul Davis Posters
- Dec. Irving Penn Regards
the Works of Issey Miyake

2000

- Jan. 164 Graphic Message for Ecology
- Jan. Kishin Shinoyama & Manuel Legris:
A L'Opera de Paris
- Feb. 165 Bruno Monguzzi:
A Poet of Form and Function
- Mar. 166 Kenji Itoh: The Medical Journal
STETHOSCOPE – A Half Century of
Journal Cover Designs –
- Apr. 167 Tokyo TDC 2000 Exhibition
- May 168 Poster Works Nagoya 12:
Shigeo Okamoto + 11 Designers
- Jun. 169 Osaka Pop Exhibition:
"kotekote" Graphics
- Jul. 170 2000 Tokyo ADC Exhibition

Aug. 171 The Epoch of the Japan Advertising Artists Club [JAAC]
 Sep. 172 Graphic Wave 2000:Gugi Akiyama / Tycoon Graphics / Hideki Nakajima
 Oct. 173 Tztom Toda: D-ZONE
 Nov. 174 Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
 Dec. 175 The Book & The Computer: New Parameters across Time and Space

2001

Jan. 176 2001 Yasuhiko Kida
 Feb. 177 Italo Lupi: Not Just Graphics
 Mar. 178 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
 Apr. 179 Tokyo TDC 2001 Exhibition
 May 180 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
 Jun. 181 Typography of Hiromu Hara
 Jul. 182 2001 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 183 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
 Sep. 184 Graphic Wave 2001: Katsuhiko Shibuya / Kazufumi Nagai / Kodue Hibino
 Oct. 185 Hangul Poster Exhibition
 Nov. 186 Makoto Saito Exhibition
 Dec. 187 Chip Kidd Exhibition

2002

Jan. 188 Uwe Loesch Exhibition
 Feb. 189 Akira Uno Exhibition
 Mar. 190 Design Education: I, We, They.The Post -St Joost Method of Design Education
 Apr. 191 Tokyo TDC 2002 Exhibition
 May 192 Draft Exhibition
 Jun. 193 Alan Chan: Oriental Passion Western Harmony
 Jun. Yasuji Hanamori and "Kurashi no Techo"
 Jul. 194 2002 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 195 Noriyuki Tanaka: Out of Design
 Sep. 196 Graphic Wave 2002: Hitomi Sago / Yasuhiro Sawada / Norito Shinmura
 Oct. 197 Sun-ad: The People
 Nov. 198 Graphic Shows Brazil: Today's Brazilian Book Design
 Dec. 199 Herb Lubalin Exhibition

2003

Jan. 200 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
 Feb. 201 Sadik Karamustafa Graphic Design: Journeys and Rituals, Words and Images
 Mar. 202 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition
 Apr. 203 Tokyo TDC 2003 Exhibition
 May 204 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
 Jun. 205 Hajime Sorayama The Exhibition
 Jul. 206 2003 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 207 Minoru Niijima: Interaction of Colors and Fonts
 Sep. 208 Graphic Wave 2003: Kenjiro Sano / Nagi Noda / Kazunari Hattori
 Oct. 209 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki
 Nov. 210 Stefan Sagmeister Exhibition
 Dec. 211 Takashi Kono: Modernist of the Showa Era 1906-99

2004

Jan. 212 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Feb. 213 Keiji Ito / Hiroki Taniguchi / Hiro Sugiyama Exhibition
 Mar. 214 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
 Apr. 215 Tokyo TDC 2004 Exhibition
 May 216 Taku Satoh: Plasticity
 Jun. 217 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
 Jul. 218 2004 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 219 The Work of Bambrook Design: Friendly Fire
 Sep. 220 Graphic Wave 2004: Aoshi Kudo / Graph / Namaiki
 Oct. 221 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
 Nov. 222 Kashiwa Sato: Beyond
 Dec. 223 Another Side of Ayao Yamana 1920s-70s

2005

Jan. 224 The Seven Faces of Asaba
 Feb. 225 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design
 Mar. 226 Katsunori Aoki XX
 Apr. 227 Tokyo TDC 2005 Exhibition
 May 228 The Graphic Design of Makoto Wada
 Jun. 229 Chermayeff & Geismar Inc: Designing over Four Decades
 Jul. 230 2005 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 231 Masahiko Sato Laboratory: Problems and Their Solutions
 Sep. 232 Graphic Wave 2005: Ichiro Tanida / Ichiro Higashizumi / Chie Morimoto
 Oct. 233 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
 Nov. 234 Shin Sobue + cozfish Exhibition
 Dec. 235 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation

2006

Jan. 236 Yusaku Kamekura 1915-1997: A Leading Pioneer in the World of Japanese Design
 Feb. 237 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
 Mar. 238 Cyan Exhibition
 Apr. 239 Tokyo TDC 2006 Exhibition
 May 240 Kazufumi Nagai: Hakuodo Design "Brands and Designs"
 Jun. 241 Keiichi Tanaami-ism
 Jul. 242 2006 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 243 Alexander Gelman: New York Connection
 Sep. 244 Graphic Wave 2006 School of Design: Masayoshi Kodaira / Naomi Hirabayashi / Manabu Mizuno / Eiji Yamada
 Sep. AGI Congress 2006 in Japan: Kakejiku Exhibition
 Oct. 245 Radical Advertisement [Norio Nakamura + Masahiko Sato] Activities No.6
 Nov. 246 Hideki Nakajima: Clear in the Fog
 Dec. 247 Yoshio Hayakawa: Witness to the Dawn of Japanese Design

2007

Jan. 248 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part I]

Feb. Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
 Mar. 249 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten
 Apr. 250 Tokyo TDC 2007 Exhibition
 May 251 helmut schmid: design is attitude
 Jun. 252 Masaaki Hiromura: 2D ↔ 3D
 Jul. 253 2007 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 254 The Warsaw Wind 1966-2006: Gold Prize Winning Entries from the Warsaw International Poster Biennale
 Sep. 255 Ginza Salone: Kenjiro Sano
 Oct. 256 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
 Nov. 257 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
 Dec. 258 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show

2008

Jan. 259 Toda Today: Poster Art by Seiju Toda
 Feb. 260 Testimonies from Twenty Pioneers of the Graphic Design Era: Interviews by Hiroshi Kashiwagi
 Mar. 261 Textasy: Brody Neuenschwander
 Apr. 262 Tokyo TDC 2008 Exhibition
 May 263 Alan Fletcher: The Father of British Graphic Design
 Jun. 264 Hiroshi Sasaki, Leader of a Cheering Squad for the Japanese Advertising World
 Jul. 265 2008 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 266 Now Updating--- Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
 Sep. 267 The Design Cycle of Keiko Hirano: Origin, Terminus, Origin
 Oct. 268 White: Kenya Hara Exhibition
 Nov. 269 M/M (Paris) The Theatre Posters
 Dec. 270 OYKOT Wieden + Kennedy Tokyo: 10 Years of Fusion

2009

Jan. 271 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
 Feb. 272 Helvetica forever: Story of a Typeface
 Mar. 273 Draft: Branding and Art Directors
 Apr. 274 Tokyo TDC 2009 Exhibition
 May 275 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision / 100 New Works
 Jun. 276 Max Huber – a Graphic Designer
 Jul. 277 2009 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 278 Hosoya Gan Last Show: Exhibition of an Art Director & Graphic Designer
 Sep. 279 Tadahito Nadamoto, Akira Uno, Makoto Wada and Tadanori Yokoo Show
 Oct. 280 Toshio Yamagata Exhibition
 Nov. 281 Issay Kitagawa
 Dec. 282 Kokoku Hihyo: End of One Era, Start of Another

2010

Jan.-Feb. 283 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979
 Mar. 284 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
 Apr. 285 Tokyo TDC 2010 Exhibition
 May 286 Talking the Dragon: Tsuguya Inoue

Jun. 287 NB@ggg: Neville Brody 2010
 Jul. 288 2010 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 289 Ralph Schraivogel Exhibition
 Sep. 290 The Push Pin Paradigm: Seymour Chwast | Paul Davis | Milton Glaser | James McMullan
 Oct. 291 Seas and Mountains and Norito Shinmura
 Nov. 292 Kazunari Hattori: November 2010
 Dec. 293 Euphrates: From Research to Expression

2011

Jan. 294 Shueitai 100
 Feb. 295 Ian Anderson / The Designers Republic C(H-)ōme (+81/3)
 Mar. 296 Design Fumio Tachibana
 Apr. 297 Tokyo TDC 2011 Exhibition
 May 298 Sato Koichi Poster Exhibition
 Jun. 299 Raymond Savignac: at the Age of 41, Maestro Born from Poster [Monsavon au lait]
 Jul. 300 2011 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 301 [gggg] Groovisions Exhibition
 Sep. 302 Form, Color and Structure: The Sensual World of Aoshi Kudo
 Oct. 303 100 ggg Books 100 Graphic Designers
 Nov. 304 SVA MFA Design Ideopolis-Tokyo
 Dec. 305 Luminous Mandala: Book Designs of Kohei Sugiura

2012

Jan.-Feb. 306 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
 Mar. 307 Rodchenko – Innovator of Russian Avant-Garde –
 Apr. 308 Tokyo TDC 2012 Exhibition
 May 309 KIGI: Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe
 Jun. 310 Jianping He Flashback
 Jul. 311 2012 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 312 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –
 Sep. 313 Bunpei Yorifuji's Summer Homework Project
 Oct. 314 AGI (Alliance Graphique Internationale) Exhibition
 Nov. 315 Tadanori Yokoo: The First Book Design Exhibition
 Dec. 316 Theseus Chan: WERK No. 20: Ginza The Extremities of the Printed Matter

2013

Jan. 317 Shin Matsunaga Poster 100
 Feb. 318 Kari Piippo Posters & Drawings – Simple, Strong and Sharp –
 Mar. 319 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Apr. 320 Tokyo TDC 2013 Exhibition
 May 321 KM Karel Martens
 Jun. 322 Why Not Associates – We Never Had a Plan So Nothing Could Go Wrong
 Jul. 323 2013 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 324 Ellie Omiya Exhibition
 Sep. 325 PARTY Not There.



1992-2021

Oct.	326	Rikako Nagashima: "Between Human and Nature"	Sep.-Nov.	362	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai	1992	Jan.-Feb.	1	Trans-Art '91	Jul.-Aug.	51	Contemporary Graphics in Hungary: DOPP at DDD
Nov.	327	Jan Tschichold Exhibition	Nov.-Jan.	363	Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola	Mar.	Mar.	2	Ivan Chermayeff: Collages	Aug.-Sep.	52	1996 Tokyo ADC Exhibition
Dec.	328	Tomaszewski, The Poetic Spirit				Apr.-May	Apr.-May	3	The 4th Tokyo TDC Exhibition	Sep.-Oct.	53	John Maeda Paper and Computers
						May-Jun.	May-Jun.	4	Rick Valicenti Exhibition	Oct.-Nov.	54	Alain Le Querrec Exhibition
2014			2018			Jun.-Jul.	Jun.-Jul.	5	Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture	Nov.-Dec.	55	Woody Pirtle: Maximum Message Minimum Means
Jan.	329	Mitsuo Katsui: Design of Symptom	Jan.-Mar.	364	Kouga Hirano and Shobunsha	Jul.-Aug.	Jul.-Aug.	6	Design, Print, Paper Exhibition			
Feb.	330	"Putting Finger"	Apr.	365	Tokyo TDC 2018 Exhibition	Aug.-Sep.	Aug.-Sep.	7	Vaughan Oliver Exhibition	1997		
		Masahiko Sato + Tatsuya Saito	May-Jun.	366	wim crouwel fascinated by the grid	Oct.	Oct.	8	Makoto Nakamura Solo Exhibition	Jan.-Feb.	56	João Machado Exhibition
Mar.	331	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster	Jul.-Aug.	367	Harumi Yamaguchi X Yoshiroten Harumi's Summer	Oct.-Nov.	Oct.-Nov.	9	Michael Mabry Exhibition	Feb.-Mar.	57	K2 Osaka Exhibition: Seitaro Kuroda / Keisuke Nagatomo
Apr.	332	Tokyo TDC 2014 Exhibition	Sep.-Oct.	368	Tadanori Yokoo: The Complete Drawings for "Genka" by Jakuchō Setouchi 1974-1975	Nov.-Dec.	Nov.-Dec.	10	Tadahito Nadamoto / Akira Uno / Makoto Wada / Harumi Yamaguchi Exhibition	Mar.-Apr.	58	Graphic Design in China
May	333	phono / graph – sound, letters, graphics	Dec.	369	Art Direction Japan 2018 Exhibition	1993				Apr.-May	59	The 10th Anniversary of Tokyo TDC
Jun.	334	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō	Dec.-Jan.	370	Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind	Jan.-Feb.	Jan.-Feb.	11	Furoshiki by 18 Artists	May-Jun.	60	10 Mexican Graphic Designers
Jul.	335	2014 Tokyo ADC Exhibition				Feb.-Mar.	Feb.-Mar.	12	Why Not Associates Exhibition	Jul.	61	Cato Design Inc. : Design by Thinking
Aug.	336	Binokodu Cells: "Kodue Hibino + Nihongo de Asobo"	2019			Mar.-Apr.	Mar.-Apr.	13	Allen Hori + Robert Nakata: Displaced Voices	Aug.-Sep.	62	1997 Tokyo ADC Exhibition
Sep.	337	So French: Michel Bouvet Posters	Feb.-Mar.	371	Paula Scher: Serious Play	Apr.-May	Apr.-May	14	1992 Tokyo ADC Exhibition	Sep.-Oct.	63	Ralph Schraivogel: Shifted Structures
Oct.	338	Semitransparent Design: Boring / Bored	Apr.	372	Tokyo TDC 2019 Exhibition	May-Jun.	May-Jun.	15	Russell Warren-Fisher Exhibition	Oct.-Nov.	64	James Victore: Post No Bills
Nov.	339	Persona 1965: Exhibition of Graphic Design in Tokyo	May-Jun.	373	Tsuguya Inoue: Beginnings	Jun.-Jul.	Jun.-Jul.	16	The 5th Tokyo TDC Exhibition	Nov.-Dec.	65	Global Exhibition: Duo Posters by 33 Designers from around the World
Dec.	340	Inside the Mind of Ryoji Arai	Jul.-Aug.	374	Keiichi Tanaami Great Journey	Jul.-Aug.	Jul.-Aug.	17	Imagination of Letters	1998		
2015			Aug.-Oct.	375	Sculptural Type: Kontrapunkt	Aug.-Sep.	Aug.-Sep.	18	Design, Print, Paper Exhibition Part II	Jan.-Feb.	66	Faydherbe / De Vringer: Looking Back into the Future
Jan.	341	Katsumi Asaba: Asaba's Typography.	Oct.-Nov.	376	Art Direction Japan 2019 Exhibition	Sep.-Oct.	Sep.-Oct.	19	Bill Thorburn Exhibition	Feb.-Mar.	67	Jean-Benoît Lévy: Visual Activity
Feb.	342	Line in the sand: Paul Davis	Nov.-Jan.	377	What's Karl Gerstner? Thinking in Motion	Oct.-Nov.	Oct.-Nov.	20	U.G. Sato's Poster Exhibition: Treedom	Mar.-Apr.	68	"Troika" 3 Dimensions of Russian Graphic Design
Mar.	343	APPLE+ Learning to Design, Designing to Learn Ken Miki	2020			Nov.-Dec.	Nov.-Dec.	21	Mitsuo Katsui: The Blessing of Light	Apr.-May	69	Philippe Apeloig: Posters in the Context of French Culture
Apr.	344	Tokyo TDC 2015 Exhibition	Jan.-Mar.	378	Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life	Dec.-Jan.	Dec.-Jan.	22	8 Designers in Today's Hong Kong	Jun.	70	Tokyo TDC 1998 Exhibition
May	345	2 Men Show: Stanley Wong X Anothermountainman	Jun.-Aug.	379	Tokyo TDC 2020 Exhibition	1994	Jan.-Feb.	23	Saul Bass Exhibition	Jul.	71	Studio Dumber Exhibition
Jun.	346	Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design	Oct.-Nov.	380	Poems of Eternal Life: The World of Kazumasa Nagai's Images and Words	Jan.-Feb.	Jan.-Feb.	24	13 Pop-up Greeting	Aug.-Sep.	72	1998 Tokyo ADC Exhibition
Jul.	347	2015 Tokyo ADC Exhibition	Dec.-Mar.	381	Survive – Eiko Ishioka	Feb.-Mar.	Feb.-Mar.	25	Ruedi Baur / Integral Concept Exhibition	Sep.-Oct.	73	Zafryki: Piotr Młodożeniec / Marek Sobczyk
Aug.	348	Lars Müller BOOKS Analogue Reality				Mar.-Apr.	Mar.-Apr.	26	1993 Illustration 4: Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura / Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura	Oct.-Nov.	74	David Tartakover: Posters No Commercial Value
Sep.	349	Yoshiaki Irobe: Wall				Apr.-May	Apr.-May	27	Jennifer Morla Exhibition	Nov.-Dec.	75	Taiwan 4: Yeh Kuo-Sung / Yu Ming-Lung / Shih Ling-Hung / Leslie Chan
Oct.	350	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers				May-Jun.	May-Jun.	28	Kazumasa Nagai Exhibition	1999		
Nov.	351	d3i d3i d3i Dainippon Type Organization				Jun.-Jul.	Jun.-Jul.	29	Uwe Loesch Exhibition	Jan.-Feb.	76	Furoshiki Graphics by 18 Designers from around the World
Dec.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) DNP Graphic Design Archives Collection THE NIPPON POSTERS				Jul.-Aug.	Jul.-Aug.	30	1994 Tokyo ADC Exhibition	Feb.-Mar.	77	Pierre Neumann: Swiss Landscape
2016						Aug.-Sep.	Aug.-Sep.	31	Design, Print, Paper Exhibition Part III	Mar.-Apr.	78	The Graphic Design of Paula Scher: Type is Image
Jan.-Mar.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) Organized by Chiyoda City's Hibiya Library and Museum / Co-organized by DNP Foundation for Cultural Promotion Shin Sobue + cozzfish BOOK DESIG				Oct.-Nov.	Oct.-Nov.	32	David Carson + Gary Koepke Free-Form Typography: The New U.S. Editorial Design	May-Jun.	79	Graphic Design from Hamburg: Holger Matthies + Christiane Freilinger
Apr.-May	352	ginza graphic gallery 30th Anniversary Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016				Dec.	Dec.	33	Yusaku Kamekura New Posters	Jun.-Jul.	80	Tokyo TDC 1999 Exhibition
Jun.	353	Tokyo TDC 2016 Exhibition				1995	Jan.-Feb.	34	German Montalvo Exhibition: From Sunrise to Sunset	Jul.-Aug.	81	Jan Rajlich Jr.: Millhouse of the Times
Jul.-Sep.	354	2016 Tokyo ADC Exhibition				Jan.-Feb.	Jan.-Feb.	35	Bruno Munari Exhibition	Aug.-Sep.	82	1999 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct.	355	Nosigner: Reason Behind Forms				Mar.-Apr.	Mar.-Apr.	36	Grappa Design: from east to far east	Sep.-Oct.	83	Scott Makela: Wide Open
Nov.-Dec.	356	Enomoto Ryoichi Kokaiki				Apr.-May	Apr.-May	37	The 7th Tokyo TDC Exhibition	Oct.-Nov.	84	The World of Chaz Maviyane-Davies
2017						May-Jun.	May-Jun.	38	Michel Bouvet: L'affiche, un art de la lue	Nov.-Dec.	85	2 Men from Macau: Ung Vai Meng / Victor Hugo Marreiros
Jan.-Mar.	357	Masayoshi Nakajo IN & OUT				Jun.-Jul.	Jun.-Jul.	39	Ikko Tanaka: Man and Writing	2000		
Apr.	358	Tokyo TDC 2017 Exhibition				Jul.-Aug.	Jul.-Aug.	40	Terrelonge Exhibition	Jan.-Feb.	86	Graphic Message for Ecology
May-Jun.	359	Roman Cieślewicz Melting Mirage				Aug.-Sep.	Aug.-Sep.	41	1995 Tokyo ADC Exhibition	Feb.-Mar.	87	Keizo Matsui Exhibition
Jul.	360	2017 Tokyo ADC Exhibition				Sep.-Oct.	Sep.-Oct.	42	Design, Print, Paper Exhibition Part IV	Mar.-Apr.	88	Paul Davis Posters
Jul.		Special Exhibition: Farewell! Keisuke Nagatomo				Oct.-Nov.	Oct.-Nov.	43	Peret Torrent Exhibition	Apr.-May	89	Osaka Pop Exhibition: "kotekote" Graphics
Aug.-Sep.	361	Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition				Nov.-Dec.	Nov.-Dec.	44	6 Designers in Asia Exhibition	May-Jun.	90	Tokyo TDC 2000 Exhibition
						1996	Jan.-Feb.	45	50 Years in Japanese Illustrations	Jun.-Jul.	91	Antho Beeke Posters: Body and Soul
						Jan.-Feb.	Jan.-Feb.	46	Margo Chase: Digital + Organic	Jul.-Sep.	92	Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
						Feb.-Mar.	Feb.-Mar.	47	Werner Jeker: Graphic Design	Sep.-Oct.	93	2000 Tokyo ADC Exhibition
						Mar.-Apr.	Mar.-Apr.	48	Posters fro m Gunter Rambow: Comments on society	Oct.-Nov.	94	Italo Lupi: Not Just Graphics
						Apr.-May	Apr.-May	49	The 8th Tokyo TDC Exhibition			
						May-Jun.	May-Jun.	50	Kari Piippo: Simple, Strong, and Sharp			
						Jun.-Jul.	Jun.-Jul.					

Nov.-Dec. 95 Design Education: The Classroom Approach of Holger Matthies, Berlin University of the Arts

2001

Jan.-Feb. 96 2001 Yasuhiko Kida
Feb.-Mar. 97 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
Mar.-Apr. 98 Poster of Salzburg Festival
May-Jun. 99 Tokyo TDC 2001 Exhibition
Jun.-Jul. 100 Chip Kidd Exhibition
Jul.-Aug. 101 Hangul Poster Exhibition
Aug.-Sep. 102 2001 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 103 Wolfgang Weingart: My Way to Typography
Oct.-Nov. 104 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
Nov.-Dec. 105 Design Education II : I, We, They. The Post-St Joost Method of Design Education

2002

Jan.-Feb. 106 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
Feb.-Mar. 107 Makoto Saito Exhibition
Mar.-Apr. 108 Ott + Stein: Posters from Berlin
Apr.-May 109 Studio Tapiro: Posters for the Venice Biennale
May-Jun. 110 Tokyo TDC 2002 Exhibition
Jul. 111 Posters from Vienna: The Vienna Municipal Library Archive 1883-2002
Jul.-Sep. 112 Ken Miki Exhibition
Sep.-Oct. 113 2002 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 114 Sadik Karamustafa: Journeys and Rituals
Nov.-Dec. 115 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition

2003

Jan.-Feb. 116 San-ad :The People
Feb.-Mar. 117 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
Mar.-Apr. 118 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
Apr.-Jun. 119 Kan Tai-Keung and Freeman Lau: The Art and Design of Ink and Chairs
Jun.-Jul. 120 Tokyo TDC 2003 Exhibition
Jul.-Aug. 121 Luba Lukova: From the Heart
Aug.-Sep. 122 2003 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 123 Stefan Sagmeister Exhibition
Oct.-Nov. 124 Cultural Posters from the Collection of Die Neue Sammlung München
Nov.-Dec. 125 Hajime Sorayama The Exhibition

2004

Jan.-Feb. 126 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki
Feb.-Mar. 127 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Mar.-Apr. 128 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
Apr.-May 129 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
May-Jun. 130 Tokyo TDC 2004 Exhibition
Jun.-Jul. 131 Pierre Mendell Exhibition
Aug.-Sep. 132 2004 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 133 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire

Oct.-Nov. 134 Posters from the Czech Republic: Collection 1960-2003 of the Museum of Decorative Arts in Prague
Nov.-Dec. 135 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design

2005

Jan.-Feb. 136 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
Feb.-Mar. 137 Cyan: 13 Years in Berlin
Mar.-Apr. 138 Kashiwa Sato: Beyond
Apr.-May 139 Mevis & Van Deursen Exhibition
May-Jun. 140 Tokyo TDC 2005 Exhibition
Jul. 141 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
Aug.-Sep. 142 2005 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 143 Katsunori Aoki XX
Oct.-Nov. 144 German AGI Graphic Design: Perfect Form
Nov.-Dec. 145 The Graphic Design of Makoto Wada

2006

Jan.-Feb. 146 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation
Feb.-Mar. 147 Graphic Thought Facility: GTF 50 Projects
Mar.-Apr. 148 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
Apr.-May 149 Bruno Oldani Exhibition
May-Jun. 150 Tokyo TDC 2006 Exhibition
Jun.-Jul. 151 Black and White Posters Exhibition
Aug. 152 2006 Tokyo ADC Exhibition

2007

May-Jun. 153 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006
Jul.-Aug. 154 Tokyo TDC 2007 Exhibition
Aug.-Sep. 155 helmut schmid: design is attitude
Oct.-Nov. 156 2007 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 157 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten

2008

Jan.-Feb. 158 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
Feb.-Apr. 159 Ginza Salone Osaka: Kenjiro Sano
Apr.-Jun. 160 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
Jun.-Jul. 161 Tokyo TDC 2008 Exhibition
Aug. 162 Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
Sep.-Oct. 163 2008 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 164 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show
Nov.-Dec. 165 Graphic West: Truth And / Or Virtue: Graphic Designs by Shinnoske Sugisaki and Yoshimaru Takahashi

2009

Jan.-Feb. 166 Helvetica forever: Story of a Typeface
Mar.-Apr. 167 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
Apr.-Jun. 168 Draft: Branding and Art Directors
Jun.-Jul. 169 Tokyo TDC 2009 Exhibition
Aug.-Oct. 170 2009 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Dec. 171 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision 60 / 100 New Works

2010

Jan.-Mar. 172 Graphic West 2: Sensory Boxes
Mar.-May 173 Issay Kitagawa
May-Jul. 174 Tokyo TDC 2010 Exhibition
Jul.-Sep. 175 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
Sep.-Oct. 176 2010 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 177 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979

2011

Jan.-Mar. 178 Graphic West 3: phono / graph – Sound · Letters · Graphics –
Mar.-May 179 Shueitai 100
May-Jul. 180 Tokyo TDC 2011 Exhibition
Jul.-Sep. 181 Kazunari Hattori: Summer 2011 in Osaka
Sep.-Oct. 182 2011 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 183 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

Jan.-Mar. 184 Graphic West 4: "Okumura Akio and Works" Exhibition
Mar.-May 185 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
May-Jul. 186 Tokyo TDC 2012 Exhibition
Jul.-Sep. 187 Fumio Tachibana Exhibition
Sep.-Oct. 188 2012 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 189 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –

2013

Jan.-Mar. 190 Graphic West 5: Type trip to Osaka typographics ti: 270
Mar.-Apr. 191 [dddg] Groovisions Exhibition
May-Jun. 192 Tokyo TDC 2013 Exhibition
Jul.-Aug. 193 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Sep.-Oct. 194 2013 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 195 Ellie Omiya Exhibition

2014

Jan.-Mar. 196 Graphic West 6: Osaka City Museum of Modern Art Collection Modern Avant-Garde Graphics
Mar.-Apr. 197 "Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito
May-Jun. 198 Tokyo TDC 2014 Exhibition
Jun.-Jul. 199 Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster
Oct.-Dec. 200 DNP Graphic Design Archives Collection VI THE NIPPON POSTERS 2015

2015

Jan.-Mar. 201 Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō in Kyoto
Apr.-May 202 Lars Müller BOOKS Analogue Reality
Jun.-Jul. 203 Tokyo TDC 2015 Exhibition
Aug.-Oct. 204 DNP Graphic Design Archives Collection VII 20th Century Rimpa: Ikko Tanaka
Nov.-Dec. 205 nippon no Nippon: helmut schmid

2016

Jan.-Mar. 206 Asaba's Assimilation: Katsumi Asaba Exhibition

Apr.-May 207 21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers
May-Jul. 208 Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design
Jul.-Aug. 209 Tokyo TDC 2016 Exhibition
Sep.-Oct. 210 Materiality-Immateriality Design & Innovation
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto Institute of Technology Art Manager Training Program "How Will You Go, and Where? Travel is Wonderful"
Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto University of Art & Design Project Center "experimental studies post past"

2017

Jan.-Mar. 211 Graphics and Music
May-Jul. 212 Masayoshi Nakajo IN & OUT
Jul.-Aug. 213 Tokyo TDC 2017 Exhibition
Sep.-Oct. 214 Kouga Hirano and Shobunsha
Nov. University Collaborative Exhibition: Seian University of Art & Design ".communication"
Dec.-Mar. 215 wim crouwel fascinated by the grid

2018

Apr.-Jun. 216 Graphic West 7: YELLOW PAGES
Jul.-Aug. 217 Tokyo TDC Exhibition
Aug.-Oct. 218 Keiichi Tanaami Dialogue
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts "Learn Science through Graphics: The Story of Evolution"

2019

Jan.-Mar. 219 Typographic Composition, Yoshihisa Shirai
Mar.-Jun. 220 Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda
Jun.-Aug. 221 Heisei Graphics
Aug.-Oct. 222 deValence – Systems as Playgrounds
Nov.-Dec. 223 Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011-2019 "Quibble"

2020

Jan.-Mar. 224 Design ZOO – Life meets design
Jun.-Oct. 225 Kontrapunkt Type
Oct.-Dec. 226 Graphic Design of Food

2021

Jan.-Mar. 227 Graphic West 9: Sulki & Min

1995-2020

1995

- Apr.-Jul. 1 Graphic Vision Kenneth Tyler
Retrospective Exhibition: Thirty Years
of Contemporary American Prints
- Aug.-Oct. 2 Roy Lichtenstein:
Entablature → Nudes
- Nov.-Jan. 3 The Prints of Robert Motherwell

1996

- Mar.-Apr. 4 American Prints Today:
1st Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Apr.-Jul. 5 The Prints of David Hockney
- Jul.-Oct. 6 Autonomous Color: Josef Albers
- Oct.-Jan. 7 Transcending Style:
2nd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1997

- Mar.-Jun. 8 The Graphics of James Rosenquist
- Jun.-Sep. 9 Printed Abstraction:
3rd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Oct.-Nov. 10 Shinro Ohtake: Printing / Painting
- Dec.-Jan. 11 Line-Color-Image:
4th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1998

- Mar.-May 12 Frank Stella and Kenneth Tyler:
A Unique 30-Year Collaboration
- May-Sep. 13 Statements in Black:
5th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 14 Alan Shields: Images in Paper

1999

- Mar.-May 15 Miran Fukuda New Works: Prints
- Jun.-Sep. 16 Forms That Speak:
6th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 17 The Story of Prints

2000

- Mar.-Jun. 18 New Works 1998-1999:
7th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 19 Saburo Ota: Existence and Everyday
- Sep.-Dec. 20 DNP Archives of Graphic Design
Inaugural Exhibition:
Poster Graphics 1950-2000

2001

- Mar.-May 21 Invitation to Print Portfolios:
8th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- May-Jul. 22 Tatsumi Orimoto: 1972-2000
- Aug.-Oct. 23 Yukio Fujimoto:
Reading to Another Dimension
- Oct.-Dec. 24 2nd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design:
The Era of Graphic Design

2002

- Mar.-Jun. 25 Prints Leaping Into Space:
9th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 26 Kijuro Yahagi: Touching, Piercing,
and Tracing with Vision

- Sep.-Dec. 27 3rd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design: The Age of Individuality

2003

- Mar.-Apr. 28 Richard Gorman:
Paintings and Paper Works
- Apr.-Jun. 29 Paper as Color:
10th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 30 Frankenthaler: The Woodcuts
- Sep.-Dec. 31 11th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

2004

- Mar.-Jun. 32 The Golden Age of Illustration
- Jun.-Sep. 33 Password:
A Danish / Japanese Dialogue
- Sep.-Dec. 34 Print Art of Today in Fukushima

2005

- Mar.-Jun. 35 The World of Contemporary American
Woodcuts:
12th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 36 Breathing Light: Shigenobu Yoshida
- Oct.-Dec. 37 decade – CCGA and Six artists

2006

- Mar.-Jun. 38 Painting on Stone:
13th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 39 Masaki Fujihata:
The Conquest of Imperfection –
New Realities Created with
Images and Media
- Sep.-Dec. 40 Tetsuya Noda: Diary

2007

- Mar.-Jun. 41 The Wonder of Intaglio:
14th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 42 Prints Given New Life:
15th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 43 Unique Impressions:
16th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2008

- Mar.-Jun. 44 Thick with Color:
17th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 45 Big Prints, Small Prints:
18th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Nov. 46 Monologues in Black:
19th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2009

- Feb.-Jun. 47 Prints and Titles:
20th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 48 Brilliant Rivalry:
Works by Outstanding Designers in
the DNP Archives of Graphic Design
- Sep.-Dec. 49 The Power of Red:
21st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2010

- Mar.-Jun. 50 DNP Graphic Design Archives Collection II
Ikko Tanaka Posters 1953-1979
- Jun.-Sep. 51 Roy Lichtenstein:
22nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 52 DNP Graphic Design Archives Collection III
Shigeo Fukuda's Visual Jumping

2011

- Mar. 53 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
(Suspended because of The Great
East Japan Earthquake)
- Jun.-Sep. 54 Shueitai 100
- Sep.-Dec. 55 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2012

- Mar.-Jun. 56 The Artists Who Express through Prints:
after 3.11
- Jun.-Sep. 57 DNP Graphic Design Archives Collection IV
Ikko Tanaka Posters 1980-2002
- Sep.-Dec. 58 The Expressive Appeal of
Copperplate Prints:
24th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2013

- Feb. The 24th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 59 THE POSTERS 1983-2012
The Prize – Winning Works from
The International Poster Triennial
in Toyama –
- Jun.-Sep. 60 Lithographs As Contemporary Prints:
25th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 61 DNP Graphic Design Archives Collection V
LIFE – Kazumasa Nagai
Poster Exhibition

2014

- Feb. The 25th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 62 Prints in Blue:
26th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jul.-Sep. 63 The Birth of Modern Design –
Osaka City Museum of Modern Art Collection
- Sep.-Dec. 64 Relief Prints:
27th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2015

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 65 CCGA 20th Anniversary
21st Century Graphic Vision
- Jun.-Sep. 66 DNP Graphic Design Archives Collection VI
Katsumi Asaba Poster Archives
- Sep.-Dec. 67 Robert Motherwell's Lithographs:
28th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2016

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 68 Graphics and Music
- Jun.-Sep. 69 Tadayoshi Nakabayashi:
Unknown Voyage

- Sep.-Dec. 70 Frank Stella's Imaginary Places:
29th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2017

- Feb. The 28th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 71 DNP Graphic Design Archives Collection VII
Shin Matsunaga Posters
- Jun.-Sep. 72 Kano Mitsuo:
On the Tips of Quivering Hues
- Sep.-Dec. 73 The Two Abstractions of
Josef and Anni Albers:
30th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2018

- Feb. The 29th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 74 A Select Few Colors:
From the DNP Graphic Design Archives
- Jun.-Sep. 75 Kenji Kitagawa:
Devices in Black – The Distance of Memory
- Sep.-Dec. 76 Helen Frankenthaler's Experimental
Impressions:
31st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2019

- Mar.-Jun. 77 Heisei Graphics
- Jun.-Sep. 78 DNP Graphic Design Archives Collection VIII
Masayoshi Nakajo Posters
Freshly Picked from the Archives
- Sep.-Dec. 79 Printing through Cloth:
32nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2020

- Mar.-Jun. 80 Graphic Design of Food
- Jul.-Sep. 81 Marks in Resonance:
Wood Engraving Today
- Sep.-Dec. 82 Words and Prints:
33rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

開設 1986年3月4日
名称 ギンザ・グラフィック・ギャラリー（略称／ggg）
所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座7丁目7番2号 DNP銀座ビル
Phone:03-3571-5206
Fax:03-3289-1389
開館時間 午前11時～午後7時
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

ginza graphic gallery

Establishment: March 4, 1986
Name: ginza graphic gallery (ggg)
Location: DNP Ginza Building, 7-2 Ginza 7-chome,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061
Phone: +81 3 3571 5206
Fax: +81 3 3289 1389
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

京都dddギャラリー

開設 1991年11月5日（大阪・堂島）
2007年5月24日 大阪・南堀江に移転
2014年10月9日 京都・太秦に移転
名称 京都dddギャラリー
所在地 〒616-8533
京都府京都市右京区太秦上刑部町10
Phone:075-871-1480
Fax:075-871-1267
開館時間 午前11時～午後7時（土曜・日曜特別開館午後6時まで）
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

kyoto ddd gallery

Establishment: November 5, 1991 in Dojima, Osaka
Moved May 24, 2007 to Minami Horie, Osaka
Relocated October 9, 2014 to Uzumasa, Kyoto
Name: kyoto ddd gallery
Location: 10, Kamikeibuchō, Uzumasa,
Ukyō-ku, Kyoto, 616-8533
Phone: +81 75 871 1480
Fax: +81 75 871 1267
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm (Until 6:00pm on Saturdays, irregularly open on Sundays)
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

CCGA 現代グラフィックアートセンター

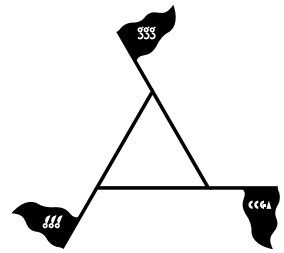
開設 1995年4月20日
名称 CCGA現代グラフィックアートセンター
所在地 〒962-0711
福島県須賀川市塩田宮田1
Phone:0248-79-4811
Fax:0248-79-4816
開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時45分まで）
休館 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、
祝日の翌日（土・日にあたる場合は開館）、
展示替え期間中、冬期（12月下旬～2月末）
入場料 一般＝300円、学生＝200円、
小学生以下と65歳以上および障がい者手帳をお持ちの方は無料。
サロン
利用料 200円

Center for Contemporary Graphic Art

Establishment: April 20, 1995
Name: Center for Contemporary Graphic Art (CCGA)
Location: Miyata 1, Shiota, Sukagawa-shi,
Fukushima 962-0711
Phone: +81 248 79 4811
Fax: +81 248 79 4816
Opening Hours: 10:00am to 5:00pm (Admission until 4:45pm)
Closed on Mondays (Tuesday if Monday is a public holiday),
the day immediately after a public holiday (except Saturday and Sunday),
between exhibitions and during winter (late December through February)
Admission: Adults= ¥300, Students= ¥200,
Free for young children (through elementary school), senior citizens (65 and over) and the disabled.
Salon Utilization Fee: ¥200

企画・運営 公益財団法人DNP文化振興財団
<https://www.dnpfcp.jp/foundation>

Planning and Operation: DNP Foundation for Cultural Promotion
<https://www.dnpfcp.jp/foundation>



Graphic Art & Design Annual 2020 ggg ddd CCGA

発行	公益財団法人DNP文化振興財団 〒104-0061 東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル Phone: 03-5568-8224
企画・編集	公益財団法人DNP文化振興財団
アートディレクション	松永 真
デザイン	松永 真次郎、清川 萌未
表紙デザイン	石岡 怜子 + 田中 良治
撮影	藤塚 光政 (ggg会場写真)、吉田 亮人 (ddd会場写真)
翻訳	室生寺 玲
印刷・製本	大日本印刷株式会社



公益財団法人DNP文化振興財団
DNP Foundation for Cultural Promotion

